THE OFFICIAL

GUNDAM

FACT FILE

ガンダム・ファクトファイル　メカニックイラストレーションズ

MECHANIC ILLUSTRATIONS

Vol. 2

GUNDAM

FACT FILE

ガンダム・ファクトファイル　メカニックイラストレーションズ

MECHANIC ILLUSTRATIONS

Vol. 2

刊 ガンダム・ファクトファイル』の表紙を飾った

ン　モビルアーマー
& MAが装いも新たに集結!

大迫力画集・第二弾!

掲載メカニック登場作品

Zガンダム / 機動戦士ガンダムZZ / 機動戦士ガンダム 逆襲のシャア /
ガンダムF91 / 機動戦士Vガンダム / GUNDAM EVOLVE /
ガンダムSEED / 機動戦士ガンダムSEED DESTINY /
ガンダムSEED C.E.73 STARGAZER

DeAGOSTINI

THE OFFICIAL

GUNDAM

FACT FILE

ガンダム・ファクトファイル　メカニックイラストレーションズ

MECHANIC ILLUSTRATIONS

Vol. 2

THE OFFICIAL

GUNDAM

FACT FILE

MECHANIC ILLUSTRATIONS

THE OFFICIAL

GUNDAM
FACT FILE
MECHANIC ILLUSTRATIONS

2冊でコンプリート!

ガンダム・ファクトファイル メカニックイラストレーションズ Vol.01

掲載メカニック登場作品

機動戦士ガンダム / 機動戦士ガンダム 第08MS小隊 / 機動戦士ガンダム0080ポケットの中の戦争
機動戦士ガンダム MS IGLOO / 機動戦士ガンダム0083 STARDUST MEMORY /
機動武闘伝Gガンダム / 新機動戦記ガンダムW / 機動新世紀ガンダムX / ∀ガンダム
…登場メカ掲載《名場面CG & キャラクターイラストも掲載！》

絶賛！同時発売中!!

定価 本体3,790円 + 税

THE OFFICIAL

GUNDAM

FACT FILE

MECHANIC ILLUSTRATIONS

GUNDAM FACT FILE

MECHANIC ILLUSTRATIONS

Vol.02

『機動戦士Zガンダム』

p.002 RX-178 ガンダム Mk-Ⅱ
p.008 RX-178 ガンダム Mk-Ⅱ（ティターンズ）
p.010 RX-178+FXA-05D スーパーガンダム
p.012 MSN-100 百式
p.014 MSZ-006 Zガンダム
p.016 RMS-099 リック・ディアス
p.018 MSA-005 メタス
p.020 RMS-106 ハイザック
p.022 RMS-108 マラサイ
p.024 ORX-005 ギャプラン
p.026 MRX-009 サイコ・ガンダム
p.028 MRX-010 サイコ・ガンダム Mk-Ⅱ
p.030 RX-110 ガブスレイ
p.032 NRX-055 バウンド・ドッグ
p.034 RX-139 ハンブラビ
p.036 PMX-000 メッサーラ
p.038 PMX-001 パラス・アテネ
p.040 PMS-003 ジ・O
p.042 RMS-117 ガルバルディβ
p.044 NRX-044 アッシマー
p.046 AMX-004 キュベレイ

『機動戦士ガンダムZZ』

p.048 MSZ-010 ZZガンダム
p.050 FA-010S フルアーマーZZガンダム
p.052 AMX-004-2 キュベレイ Mk-Ⅱ
p.054 AMX-004G 量産型キュベレイ
p.052 AMX-006 ガザD
p.058 AMX-009 ドライセン
p.060 AMX-011 ザクⅢ
p.062 AMX-011S ザクⅢ改
p.064 AMX-014 ドーベンウルフ
p.066 AMX-015 ゲーマルク
p.068 AMX-102 ズサ
p.070 AMX-103 ハンマ・ハンマ
p.072 AMX-104 R・ジャジャ
p.074 AMX-107 バウ
p.076 NZ-000 クィン・マンサ

『機動戦士ガンダム　逆襲のシャア』

p.078 RGZ-91 リ・ガズィ
p.080 RX-93 νガンダム
p.082 RGM-89 ジェガン
p.084 AMS-119 ギラ・ドーガ
p.086 MSN-03 ヤクト・ドーガ
p.088 MSN-04 サザビー
p.090 NZ-333 α・アジール
p.092 ホビー・ハイザック

『機動戦士ガンダム F91』

p.094 RGM-109 ヘビーガン
p.096 F91 ガンダム F91（表紙バージョン）
p.098 F91 ガンダム F91（片眼音バージョン）
p.100 XM-01 デナン・ゾン
p.102 XM-05 ベルガ・ギロス

p.104 XM-06 ダギ・イルス
p.106 XM-07 ビギナ・ギナ
p.108 XMA-01 ラフレシア

『機動戦士Vガンダム』

p.110 LM312V02 Vガンダム
p.112 LM312V06+VB03A Vダッシュ・ガンダムヘキサ
p.114 LM314V21 V2ガンダム
p.116 LM314V23/24 V2アサルトバスターガンダム
p.118 LM111E02 ガンイージ
p.120 LM111E03 ガンブラスター
p.122 ZM-S08G ゾロ
p.124 ZM-S08GC ゾロ改
p.126 ZM-S06S ゾロアット
p.128 ZM-S22S 近衛師団用リグ・シャッコー
p.130 ZM-S24G ゲドラフ
p.132 ZMT-S29S ザンネック
p.134 ZMT-S28S ゲンガオゾ
p.136 ZMT-S33S ゴトラタン
p.138 ZMT-S34S リグ・コンティオ

『GUNDAM EVOLVE../9』

p.140 MSZ-006P2/3C Zガンダム3号機P2型

『機動戦士ガンダムSEED』

p.144 GAT-X105 ストライクガンダム
p.146 ZGMF-X10A フリーダムガンダム
p.148 GAT-X303 イージスガンダム
p.150 ZGMF-X09A ジャスティスガンダム
p.152 GAT-X102 デュエルガンダム アサルトシュラウド
p.154 GAT-X103 バスターガンダム
p.156 GAT-207 ブリッツガンダム
p.158 ZGMF-X13A プロヴィデンスガンダム

『機動戦士ガンダムSEED DESTINY』

p.160 ZGMF-X56S インパルスガンダム
p.162 ZGM-X42S デスティニーガンダム
p.164 ZGMF-X23S セイバーガンダム
p.166 ZGMF-1000/A1 ガナーザクウォーリアー（ルナ・マリアホーク専用機
p.168 GFAS-X1 デストロイガンダム
p.170 ZGMF-X20A ストライクフリーダムガンダム
p.172 ZGMF-X19A インフィニットジャスティスガンダム

『機動戦士ガンダムSEED C.E.73 STARGAZER』

p.174 GSX-401FW スターゲイザーガンダム
p.176 GAT-X105E ストライクノワールガンダム

『GUNDAM EVOLVE../14』

p.178 武者頑駄無

p.180 索引

GUNDAM FACT FILE MECHANIC ILLUSTRATIONS

UNIVERSAL 0087

収録作品『機動戦士Zガンダム』『機動戦士ガンダ
『機動戦士ガンダムF91』『機動戦士Vガン

Vol.02

CENTURY 0153

ムZZ』『機動戦士ガンダム 逆襲のシャア』
ダム』『GUNDAM EVOLVE../9』

RX-178 GUNDAM Mk-Ⅱ

【ガンダム Mk-Ⅱ／エゥーゴ／ティターンズ】

ティターンズ主導の下、次期主力 MS として開発された汎用試作 MS。基本構造にムーバブル・フレームを導入したことによって、第二世代 MS の先駆として以降の MS 開発に大きな影響を与えた。RX-78 ガンダムの伝説復活を目指し、ティターンズのシンボルとなるべく生み出されたが、エゥーゴに強奪されたことでその意義は反ティターンズの象徴に置き換えられた。そして、グリプス戦役から第１次ネオ・ジオン戦争を通じて第一線で活躍したのである。

1 2 3 4 ビーム・ライフル（型式番号は XBR-87-D）の出力は 2.2MW、エネルギー・パック方式でパックひとつにつき、３～７回の射撃が可能。ハイパー・バズーカは通常弾のほかに散弾も使用可能。カートリッジ式で用途に合わせて使い分けられた。頭部にバルカン砲を内蔵せず、代わりに外装式のバルカン・ポッド・システムを採用。本兵装は、RX-154 バーザムでも採用されている。5 シールドは伸縮式で、裏にはエネルギー・パックやミサイル・ランチャーをマウントできた。『機動戦士Ｚガンダム』

[Spec] 頭頂高：18.5m 本体重量：33.4t ジェネレーター出力：1,930kW スラスター推力：81,200kg 装甲材質：チタン合金セラミック複合材 武装：ビーム・ライフル／ビーム・サーベル×２／ハイパー・バズーカ／バルカン・ポッド・システム／シールド 搭乗者：カミーユ・ビダン 他

Illustration by Morifumi Naka / Color by Takako Suzuki / Special effect by Kumiko Taniguchi

RX-178 GUNDAM Mk-Ⅱ

【ガンダム Mk-Ⅱ／ティターンズ】

地球至上主義の集団であるティターンズは地球連邦軍系の技術だけで開発された MS を象徴とすることで、組織の力を誇示しようとした。それが RX-178 ガンダム Mk-Ⅱを生み出した原点であり、「黒いガンダム」の存在意義である。MS 開発技術の転換点に生まれた本機は、柔軟な関節の動きを可能とするムーバブル・フレームの採用によって、MS の世代交代の礎となった。だがそれは、図らずもグリプス戦役の口火を切ることにも繋がったのである。

1 2 3 4 ティターンズの次期主力として開発されたガンダム・タイプ MS。計 3 機（4 機とも言われる）が開発されたが、1 号機と 2 号機はテスト中にエゥーゴに奪取され、3 号機も後にエゥーゴの手に渡った（4 号機は事故で大破、パイロットも死亡している）。装甲材などは旧来の素材が用いられているが、本格的なムーバブル・フレームを導入した機体として知られる。5 コクピットは、全天周囲モニターとリニア・シートを採用し、コクピット・ブロックはイジェクション・ポッドとしても機能した。『機動戦士 Z ガンダム』

Spec 頭頂高：18.5m　本体重量：33.4t　ジェネレーター出力：1,930kW　スラスター推力：81,200kg　装甲材質：チタン合金セラミック複合材　武装：ビーム・ライフル／ビーム・サーベル×2／ハイパー・バズーカ／バルカン・ポッド・システム／シールド　搭乗者：カミーユ・ビダン 他

Illustration by Kouji Sugiura / Color by Hiroko Umezaki / Special effect by Yutaka Hoshiba

03
03

RX-178+FXA-05D
SUPER GUNDAM

【スーパーガンダム／エゥーゴ】

ティターンズが開発を行なったもののエゥーゴによって運用されたRX-178ガンダムMk-Ⅱは、当時のMSの技術水準を示す代表的な機体であった。しかし、グリプス戦役における急速な可変MSの登場には対応しきれず、新鋭機との性能差を露呈させることとなる。FXA-05D Gディフェンサーとの合体から誕生するスーパーガンダムは、その事後策として用意されたものである。新たな力の登場により、RX-178は苦境をしのいで戦い続けたのだった。

1 2 3 ロング・ライフルの出力は6.8MWで、Zガンダムのハイパー・メガ・ランチャーと同等である。長砲身のため取り回しが困難だが、それに見合った射程と威力を誇る。4 ボンツーンの先端に内蔵された。14連装ミサイル・ポッドは一斉射により濃密な弾幕を展開、遠距離から中近距離に至るあらゆる距離帯での戦闘で効果を発揮した。5 巡航形態はGフライヤーと呼ばれた。『機動戦士Zガンダム』

〔Spec〕 頭頂高：不明　本体重量：不明　ジェネレーター出力：不明　スラスター推力：不明　装甲材質：不明　武装：ロング・ライフル／14連装ミサイル・ポッド　搭乗者：エマ・シーン／カツ・コバヤシ

Illustration by Seiichi Nakatani / Color by Reiko Iwasawa / Special effect by Masayuki Hiraoka

MSN-00100 HYAKUSHIKI

【百式／エゥーゴ】

MSZ-006 Zガンダムと共にエゥーゴを牽引したMSがMSN-00100（MSN-100）百式である。「Z計画（プロジェクト）」において可変MSとして設計された本機は、変形機構の不備によって非変形機への方向転換を余儀なくされながらも、その優れた基礎性能によってエゥーゴ部隊の中核に位置するまでになった。そしてクワトロ・バジーナの乗機として常に最前線に立った本機は、エゥーゴの象徴たる働きを担い、その役目を十全に果たしたのである。

1 2 3 4ビーム・ライフルの出力は2.8WMで、型式番号はBR-M-87（第一次ネオ・ジオン戦争にはBR-M-87BBを使用。このタイプは銃口からビーム刃を展開可能だった）。エネルギー・パックひとつにつき9回の射撃が可能だった。クレイ・バズーカはリック・ディアスと同じものを装備。ビーム・サーベルもリック・ディアスと同型で、腰後部のラックに2基を携帯、出力は0.4MWだった。5メガ・バズーカ・ランチャーは、同時代のMSが運用する兵器の中では、最大の火力を誇った。エネルギー・チャージ用のMSを使用することで発射回数を増やせた。型式番号はFHA-03M1。『機動戦士Zガンダム』

〔Spec〕 頭頂高：18.5m　本体重量：31.5t　ジェネレーター出力：1,850kW　スラスター推力：74,800kg　装甲材質：ガンダリウムγ　武装：ビーム・ライフル／ビーム・サーベル×2／クレイ・バズーカ／バルカン砲×2／メガ・バズーカ・ランチャー／バリュート・システム他　搭乗者：クワトロ・バジーナ

Illustration by Morifumi Naka / Color by Takako Suzuki / Special effect by Kumiko Taniguchi

MSZ-006 Z GUNDAM

【Z ガンダム／エゥーゴ】

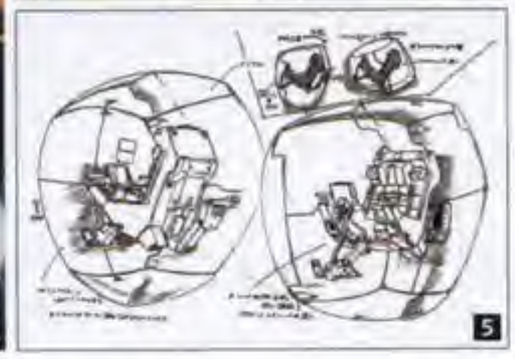
エゥーゴとアナハイム・エレクトロニクス社（AE）共同の MS 開発計画「Z プロジェクト」によって生み出された可変 MS。MS 単体が追求しうる最高の汎用性――それが、この機体の開発に求められた命題であった。さまざまな技術を盛り込んで完成した本機は、単体での大気圏突入を可能とし、戦場を問わない高い戦闘力を有した MS となった。基本コンセプトを発案したカミーユ・ビダンが駆ったこの機体は、グリプス戦役を通じてエゥーゴの先陣を切って戦い、反ティターンズのシンボルとなっていったのである。

1

2

3

4


5

1 2 ビーム・ライフルの型式番号は XBR-M82A2。出力は 5.7MW と突出した威力を誇るほか、銃口からビーム刃を発生させることで、ビーム・サーベルとしても使用可能。伸縮機構を備え、ウェイブ・ライダーへの変形にも対応している。3 ハイパー・メガ・ランチャーは内部にジェネレーターを内蔵し、出力は 8.3MW とされる。その威力は MS が携行する火器の中では最高クラスであった。4 ビーム・サーベルは腰部装甲内に収納され、ウェイブ・ライダー時にはビーム・ガンとして使用された。5 コクピットは全天周囲モニターとリニア・シートを備え、この時代の一般的なものだった。『機動戦士 Z ガンダム』

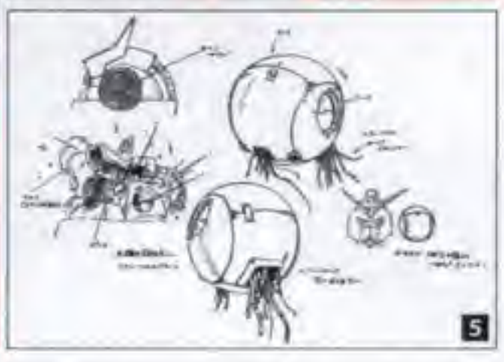
〔Spec〕 頭頂高：19.85m　本体重量：28.7t　ジェネレーター出力：2,020kW　スラスター推力：112,600kg　装甲材質：ガンダリウム γ　武装：ビーム・ライフル／ハイパー・メガ・ランチャー／ビーム・サーベル（ビーム・ガン兼用）×2／バルカン砲×2／グレネード・ランチャー×2／シールド　搭乗者：カミーユ・ビダン 他

Illustration by Morifumi Naka / Color by Takako Suzuki / Special effect by Masayuki Hiraoka

RMS-099 RICK DIAS

【リック・ディアス／エゥーゴ】

エゥーゴの依頼に基づいて、アナハイム・エレクトロニクス社（AE）が開発した最初期の第二世代 MS。装甲・構造材に新素材ガンダリウムγ（ガンマ）を用いることで達成された耐弾性と大幅な軽量化、推進器と AMBAC システムが一体化した新デバイス、バインダーの装備など画期的な試みが成されており、総合的な性能は既存の第一世代 MS を大きく上回る。開発陣は旧公国系技師が中心で、開発時のコードネームは「γガンダム」。



1主兵装であるクレイ・バズーカは AE ツィマッド社製で、型式番号は AE/ZIM.C-BAZ-531。装弾数は 7 発＋1 で、通常弾のほかに粘着榴弾や散弾なども使用可能であった。2ビーム・ピストルは背部に 2 丁を携行し、装着したままでも射撃できた。3頭部に内蔵されたバルカン・ファランクスは口径 55mm の機関砲で、発射時には装甲が開いて銃身が展開する。4当初はクワトロ機のみが赤の機体色でほかは黒系だったが、後に赤に統一された。5コクピットは頭部に設置され、ほかと同じくイジェクション・ポッドとして機能した。『機動戦士 Z ガンダム』

[Spec] 頭頂高：18.0m　本体重量：32.2t　ジェネレーター出力：1,833kW　スラスター推力：74,800kg　装甲材質：ガンダリウムγ　武装：クレイ・バズーカ／ビーム・ピストル×2／バルカン・ファランクス／ビーム・サーベル／ビーム・ライフル／トリモチ・ランチャー　搭乗者：クワトロ・バジーナ／アポリー／ロベルト 他

Illustration by Atsushi Shigeta / Color & Special effect by Yuki

MSA-005 METHUSS

【メタス／エゥーゴ】

汎用MSの限界を模索したエゥーゴとアナハイム・エレクトロニクス社（AE）による「Zプロジェクト」。その一環として開発が進められた可変MSは、技術熟成のために多くの試作機を要した。そして開発されたのがMSA-005メタスである。変形機構という新技術を検証するために生み出され、MA形態での良好な性能を発揮した本機は、アーガマ隊に配備され、実戦に投入された。そして最前線でエゥーゴの戦いを支え続けることとなったのである。

①②両腕に外装されたアーム・ビーム・ガンは、使用時には前方に180度回転して射撃位置に固定され、グリップを保持する。③アーム・ビーム・ガンの基部にグレネード・ランチャーを装備するケースもあった。低火力を補うための処置だと思われる。④計6本ものビーム・サーベルを装備していたが、格闘戦性能は決して高くはなかった。⑤「Z計画」における変形システムのデータ収集機だったため、MA形態では高い運用性を誇った。『機動戦士Zガンダム』

〔Spec〕 頭頂高：18.1m　本体重量：27.8t　ジェネレーター出力：1,640kW　スラスター推力：77,000kg　装甲材質：ガンダリウムγ　武装：アーム・ビーム・ガン×2／ビーム・サーベル×6　搭乗者：ファ・ユイリィ／レコア・ロンド

Illustration by Atsushi Shigeta / Color & Special effect by Yuki

RMS-106 HIZACK

【ハイザック（ティターンズ仕様）／ティターンズ】

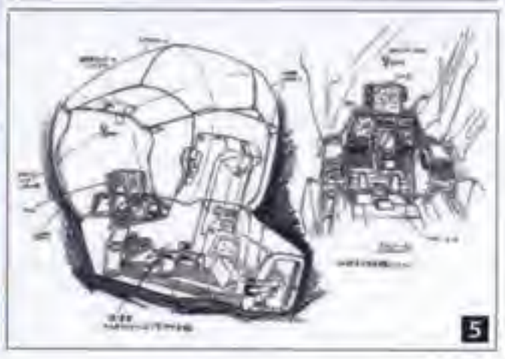
一年戦争終結後、崩壊したジオン公国軍のMS開発技術は地球連邦軍や民間企業に分散・吸収された。そして連邦軍は、その技術を参考にして戦後初めての新規設計量産機を開発する――RMS-106ハイザックである。MS-06ザクⅡの基本コンセプトを継承しつつ、連邦軍のMS技術を組み合わせて設計されたこの機体は、高い汎用性と生産性を獲得して戦後のMS発展の礎を築いた。しかし、本機が主力MSとして配備されたU.C.0080年代後半は、ティターンズの台頭によって地球圏が混迷を深めた時期でもあった。本機はティターンズと連邦軍の双方で運用され、グリプス戦役の戦場を席捲することとなる。かつて公国軍の象徴として連邦軍に苦汁を舐めさせたMSの血統が、連邦軍の内紛を彩るという皮肉な結果となったのである。

1

2

3

4


5

①ジェネレーター出力の低さから、複数のビーム兵器を同時に使用できなかったため、実体弾兵器であるザク・マシンガン改を主兵装として用いることもあった。②ビーム・ライフルはマラサイと同じものを使用。③ビーム・サーベルのほかに、ヒート・ホークも装備。一年戦争時のものに比べて刃の部分が大型だった。④オプションとしてメガ・ランチャーを装備。シールドとミサイル・ポッドもオプション化されていた。⑤コクピットはリニア・シートを採用しているが、球形ではなく後方と下方の視界が制限される構造だった。『機動戦士Zガンダム』

[Spec] 頭頂高：18.0m　本体重量：38.7t　ジェネレーター出力：1,428kW　スラスター推力：64,800kg　装甲材質：チタン合金セラミック複合材　武装：ザク・マシンガン改／ビーム・ライフル／ビーム・サーベル／ヒート・ホーク／腰部ミサイル・ポッド／シールド／メガ・ランチャー　搭乗者：ジェリド・メサ 他

Illustration & Color by Shino,MasanoriSpecial effect by Hiromi Miyawaki

RMS-108 MARASAI

【マラサイ／ティターンズ】

グリプス戦役期にアナハイム・エレクトロニクス社（AE）が開発し、地球連邦軍に制式採用された汎用 MS。RMS-106 ハイザックの後継機として設計され、のちに連邦軍の実権を掌握したティターンズの主力 MS となる。しかし、本来はエゥーゴ側に配備するために開発されており、政治的裏取引を経てティターンズに無償で供与されたといういわく付きの機体である。MS 市場独占を狙う AE の貪欲さを図らずも露呈させてしまった MS と言えよう。

1 2 BOWA 社製のビーム・ライフルを装備。型式番号は BR-87A で、出力は 2.2MW だった。同型のものをハイザックも使用した。3 ビーム・サーベルはシールドの裏に 2 基を携行。出力は 0.4MW で威力も同時代では標準的なものだった。4 シールドは 2 枚のユニットを接続した構造で、右肩に接続された。5 大気圏突入時にはバリュート・システムを使用した。バック・パックの上に被せる形で装備される。『機動戦士 Z ガンダム』

〔Spec〕 頭頂高：17.5m　本体重量：33.1t　ジェネレーター出力：1,790kW　スラスター推力：74,600kg　装甲材質：ガンダリウム γ　武装：ビーム・ライフル／バルカン砲×2／ビーム・サーベル×2／シールド
搭乗者：カクリコン・カクーラー／ジェリド・メサ 他

Illustration by Kouji Sugiura / Color & Special effect by Shihoko Nakayama

ORX-005 GAPLANT

【ギャプラン／ティターンズ】

北米のニュータイプ（NT）研究機関、オーガスタ研究所でテストされた試作可変MA（TMA）。空気力学的な形状ではないが、爆発的な推進力を発揮するベクタード・スラスター（ムーバブル・シールド）によって、高い機動性と運動性、飛行能力を実現した。ただし、これによって発生するGはリニア・シートでも完全には緩和できないため、パイロットは強化人間か極めて強い心肺機能を持つ人間に限られる。ちなみに本来は高高度迎撃用として開発された機体だが、後に空間戦用に改装され宇宙でも使用されている。

1

2

3

4

5

1 2 ビーム・ライフルはムーバブル・シールドに装備された（出力は各3MW）。3 推進器、ビーム・ライフル、シールドで構成されたムーバブル・シールド。ヒジから伸びたムーバブル・フレームによって腕部と接続されると共に、腕部の可動域を確保するために伸縮機能も備えている。4 5 アクティブ・スラスター・ユニットは、偏向推進器として高度な機動性と運動性を付与した。航続距離を伸ばすため、機体後部にオプション・ブースターを接続可能だった。『機動戦士Zガンダム』

〔Spec〕 頭頂高：19.8m　本体重量：50.7t　ジェネレーター出力：3,040kW　スラスター推力：183,000kg　装甲材質：ガンダリウム合金　武装：ムーバブル・シールド（ビーム・ライフル内蔵）×2／ビーム・サーベル×2　搭乗者：ロザミア・バダム他

Illustration by Atsushi Shigeta / Color&Special effect by Yuki

MRX-009 PSYCHO GUNDAM

【サイコ・ガンダム／ティターンズ】

地球連邦軍管轄下のニュータイプ研究所のひとつ、ムラサメ研究所が開発したNT専用大型試作可変MA（TMA）。ニュータイプ能力者（もしくは強化人間）を制御系の中枢に見据えた機体であり、サイコミュ・システムによる機体制御や火器管制が行なわれる。しかしその代償として、システムがパイロットに戦闘を強要し、パイロットが精神に変調を来たすことも多かった。「悪魔のマシーン」と呼ばれたこのTMAは、乗り手となった強化人間と共に、グリプス戦役のあまりにも深い暗部を象徴していた。

1 2 3 頭部、指部、胴体にビーム砲やメガ粒子砲を装備。一斉射によりホンコン・シティを壊滅状態に陥れた。キリマンジャロ攻略戦では、最終防衛ラインの一角としてカラバの大部隊の侵攻を食い止め、拠点防衛用という開発コンセプトを示した。4 MS形態時のシールドは、MA形態時には上下で分割され左右のアーマーとなる。5 MA形態は「モビル・フォートレス」とも呼ばれ、ミノフスキー・クラフトによって最長320分の飛行が可能だった。『機動戦士Zガンダム』

〔Spec〕 頭頂高：40.0m　本体重量：214.1t　ジェネレーター出力：33,600kW　スラスター推力：168,000kg　装甲材質：ガンダリウム合金等（詳細不明）　武装：3連装拡散メガ粒子砲／指部ビーム砲×10／小型頭部ビーム砲×2／バリヤーシステム／シールド　搭乗者：フォウ・ムラサメ他

Illustration by Atsushi Shigeta / Color&Special effect by Yuki

MRX-010 PSYCHO GUNDAM Mk-Ⅱ

【サイコ・ガンダム Mk-Ⅱ／ティターンズ】

ティターンズへ下ったムラサメ研究所が開発した MRX-009 サイコ・ガンダム――その基本コンセプトを発展させた機体が MRX-010 サイコ・ガンダム Mk-Ⅱである。機体操作のみならず攻撃兵装にもサイコミュ・システムを導入した本機はグリプス戦役末期に実戦投入されたが、調整が不充分だったために、充分な性能を発揮できないままに中破、放棄された。しかしその力はのちにネオ・ジオン軍によって復活を果たすことになったのである。

①②機体各所にメガ・ビーム砲（出力 6.3MW）や拡散メガ粒子砲を装備。敵機を寄せ付けない弾幕を展開した。下腕部は有線式制御されるほか、ビーム・ソードも内蔵されている。③第 1 次ネオ・ジオン戦争時には、レフレクター・ビットを装備。擬似オールレンジ攻撃に用いられた。④ MA 形態時には、ミノフスキー・クラフトによって移動した。また、これに加えて各所のスラスターと 4 基の姿勢制御バーニアを併用することで機動を行っていた。⑤コクピットは頭部に設置され、それ自体が脱出ポッドとしての機能も有していた。『機動戦士 Z ガンダム』

〔Spec〕 頭頂高：39.98m　本体重量：187.8t　ジェネレーター出力：19,760kW　スラスター推力：244,240kg　装甲材質：ガンダリウム合金　武装：メガ・ビーム砲× 20 ／メガ拡散ビーム砲× 3 ／頭部ビーム砲× 2 ／有線サイコミュ式ビーム・ソード（5 連装ビーム砲）×2 ／レフレクター・ビット多数／シールド　搭乗者：ロザミア・バダム 他

Illustration by Katsutoshi Tsunoda / Color by Hiroko Umezaki / Special effect by Kei Tsunematsu

RX-110 GABTHLEY

【ガブスレイ／ティターンズ】

グリプス戦役中期以後、地球連邦軍のティターンズ派は積極的に可変 MS や可変 MA の採用に取り組んだ。RX-110 ガブスレイはそのひとつであり、MS 形態と MA 形態の双方で優れた性能を発揮する機体として設計された。だがその機能を生み出すのに必要なムーバブル・フレーム構造はあまりに複雑であり、本来予定されていた量産化が実現することはなかった。わずか数機の試作機によって残された戦果が、本機の性能を証明するのみである。

1 2 3 射撃兵装してフェダーイン・ライフル（出力 6.6MW）やメガ粒子砲（出力 4.2MW）を装備。その火力は絶大で、エゥーゴのガンダム Mk- II を行動不能に追い込んでいる。4 ビーム・サーベルは左右上胸部装甲の内部に計 4 基を収納。出力は 5.5MW で、格闘戦時の攻撃力も高かった。5 MA 形態では、装甲が全面に集中的に配置され、高い耐弾性を確保していた。また、脚部のみを変形させた中間形態を採ることもできた。この形態では脚部クローの効果的な運用が可能であった。『機動戦士 Z ガンダム』

[Spec] 頭頂高：18.5m 本体重量：32.6t ジェネレーター出力：1,800kW スラスター推力：125,200kg 装甲材質：ガンダリウム合金 武装：フェダーイン・ライフル／バルカン砲／ビーム・サーベル× 4 ／メガ粒子砲× 2 ／ムーバブル・フレーム・クロー× 2 搭乗者：ジェリド・メサ／マウアー・ファラオ 他

Illustration by Katsutoshi Tsunoda / Color by Hiroko Umezaki / Special effect by Kei Tsunematsu

NRX-055 BAUND DOC

【バウンド・ドック／ティターンズ】

グリプス戦役時に開発されたNRX-055バウンド・ドックは、地球連邦軍管轄下のニュータイプ研究所が推し進めた研究の成果とも言うべき試作TMA（可変MA）である。サイコミュ・システムを操縦系に組み込んだ本機は、機体から放出されるサイコ・ウェーブによってパイロットの意志を束縛するほどの能力を発揮した。その力はティターンズに利用され、パイロットに抜擢された強化人間に悲劇的な運命をもたらすことになった。

1 2本機最大の威力を誇る拡散メガ粒子砲は、広範囲を攻撃できた。16.4MWもの出力を有し、高威力を誇った。小型の専用ビーム・ライフルは、出力も2.1MWと一般的なビーム・ライフルと遜色ない威力を有した。3腕部や脚部のクローを近接格闘に用いたほか、格闘戦用兵器としてビーム・サーベルを1基装備していた。4高度な機動性を発揮し、脚部クロー・アームを用いた格闘戦もこなした。5コクピットにはサイコ・コントローラー・システムを採用していたとされ、機体の遠隔操作も可能だった。『機動戦士Zガンダム』

[Spec] 頭頂高：27.3m　本体重量：82.7t　ジェネレーター出力：2,260kW　スラスター推力：145,800kg　装甲材質：ガンダリウム合金　武装：ビーム・ライフル／拡散メガ粒子砲／腕部クロー／脚部クロー×2／ビーム・サーベル　搭乗者：ロザミア・バダム／ジェリド・メサ

Illustration by Atsushi Shigeta / Color & Special effect by Yuki

RX-139 HAMBRABI

【ハンブラビ／ティターンズ】

RX-139 ハンブラビは、グリプス戦役における地球連邦軍（ティターンズ）が採用した試作可変 MS（TMS）である。従来の TMS は人型で格闘戦を行ない、変形後は機動性を活かしての一撃離脱といったように、機体形状に併せて戦術を変化させていた。しかし本機は単純な変形機構を採用することで変形前後の能力差を埋め、トータルバランスの高さを獲得したのである。その性能は本機を運用したヤザン・ゲーブル隊によって見事に実証されている。

①ガブスレイと同じくフェダーイン・ライフルを使用した。②背部ビーム・ライフル（出力は 2.6MW）は MS 形態時には前方に展開しての射撃も可能。③格闘兵装して、ビーム・サーベル（出力 0.5MW）と腕部クローを備えていた。また、テール・ランスも MS の装甲を貫通するほどの威力を有した。④対 MS 電磁兵装である「海ヘビ」を装備。これ以外にも 3 機 1 組で使用する「クモの巣」などの特殊兵装を装備する。⑤変形機構は単純だが、高度な機動力を有し、一撃離脱戦法で威力を発揮した。『機動戦士 Z ガンダム』

[Spec] 頭頂高：19.9m 本体重量：34.6t ジェネレーター出力：1,540kW スラスター推力：59,800kg 装甲材質：ガンダリウム合金 武装：ビーム・サーベル×2／背部ビーム・ライフル×2／海ヘビ／クモの巣／フェダーイン・ライフル／テール・ランス／腕部クローメス 搭乗者：ヤザン・ゲーブル 他

Illustration and Special effect by Shino,Masanori / Color by Hiromi Miyawaki

PMX-000 MESSALA

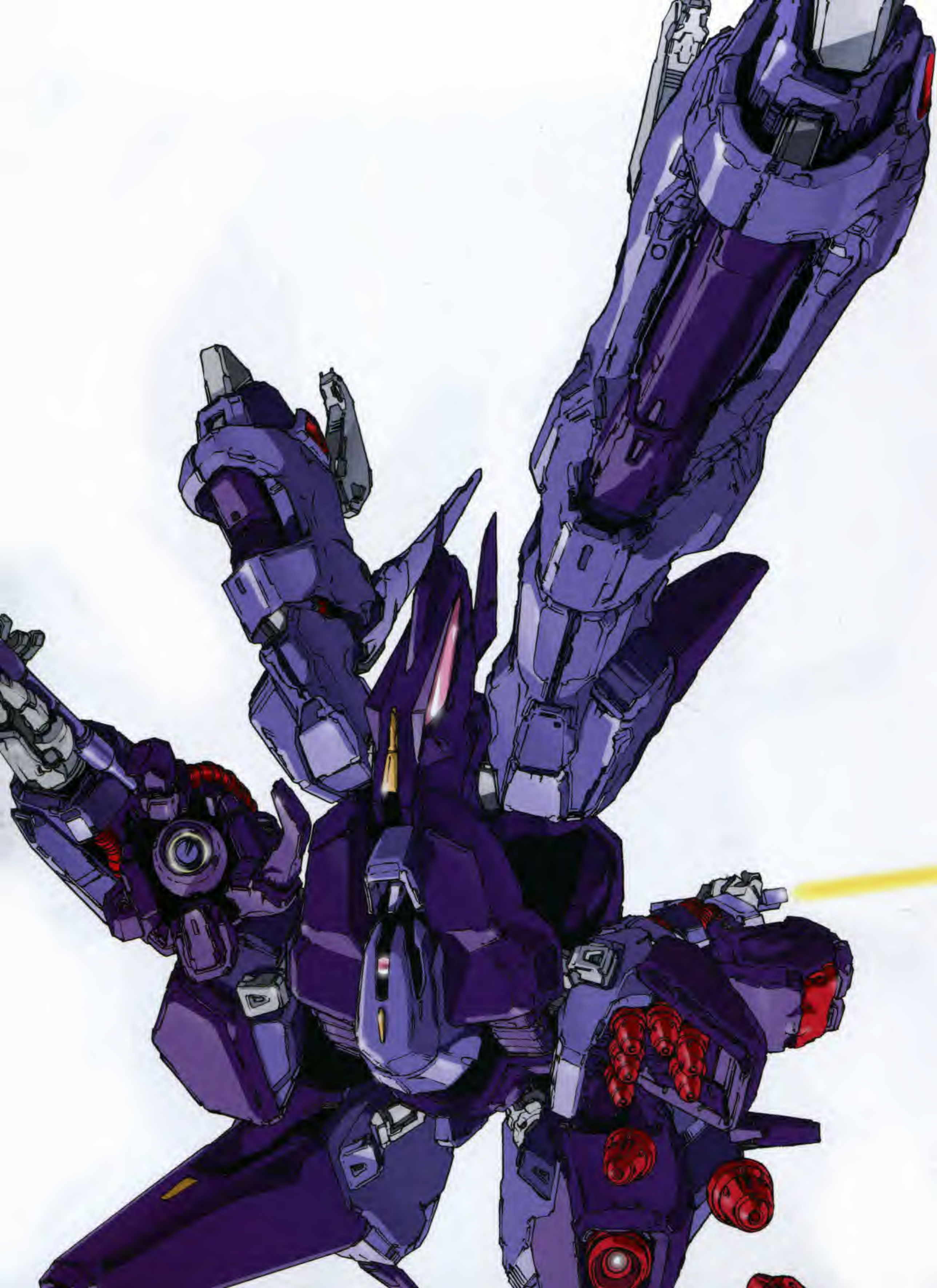
【メッサーラ／ジュピトリス】

パプテマス・シロッコが設計した初期の可変 MA。木星往還船「ジュピトリス」において建造された。シロッコはこのメッサーラ以外にも数機の MS を開発しているが、そのどれもが独創的なコンセプトのもとに作られていた。特にこのメッサーラはシロッコが最初期に開発した可変 MA だけに、彼の思想が顕著に現れた機体と言える。この機体の最大の特徴である「大推力」は、木星の重力を恐れた彼が口にした「木星のプレッシャー」から物質的・精神的に解放されるための唯一の手段だったのかもしれない。

①スラスター・ユニットの先端に装備されたメガ粒子砲は、本機唯一のビーム兵器で出力は 11.3MW。②③腕部には武装が集中して装備される。肩部の 9 連装ミサイル・ポッドをはじめ、クロー・アーム部はグレネード・ランチャー（装弾数は 3 発）やバルカン砲、ビーム・サーベルを装備する武装ユニットでもあった。④⑤木星圏の大重力下での運用を前提としていため、高度な機動性を有する。スラスター推力は 96,000kg だが、記載漏れも含めると 200,000kg にも達すると言われる。『機動戦士 Z ガンダム』

[Spec] 頭頂高：23.0m　本体重量：37.3t　ジェネレーター出力：4,900kW　スラスター推力：96,000kg　装甲材質：不明　武装：メガ粒子砲×2／9 連装ミサイル・ポッド×2／ビーム・サーベル×2／グレネード・ランチャー×2／腕部収納式クロー×2／脚部クロー×2　搭乗者：パプテマス・シロッコ他

Illustration by Atsushi Shigeta / Color & Special effect by Yuki



PMX-001 PALACE-ATHENE

【パラス・アテネ／ジュピトリス】

パプテマス・シロッコの設計によるハンドメイドMS「PMXシリーズ」は、彼の才能の結晶とも言える高性能MS群である。PMX-001パラス・アテネはそのひとつに数えられる機体で、多彩なオプション兵装による大火力が特徴の攻撃型重MSとして知られる。グリプス戦役中期にジュピトリス艦内で開発が進められた本機は、当初はシロッコの乗機だったが、のちにレコア・ロンドに託され、戦女神の名に相応しい苛烈な戦いを演じている。

①主兵装である2連装ビーム・ガンは下腕部にマウントする方式で、上部にグレネード・ランチャーを備える。②肩部に拡散ビーム砲を、下腕部にメガ・ビーム砲をそれぞれ内装し、オプションがない状態でも高い火力を誇った。③シールドには8基のミサイル発射管を備え、計40発のミサイルを内蔵していた。④格闘兵装として、ビーム・サーベルを装備。各所の姿勢制御バーニアによる高い運動性で、格闘戦にも対応した。⑤背部のムーバブル・シールドには大型ミサイルを搭載できた。『機動戦士Zガンダム』

[Spec] 頭頂高：21.6m　本体重量：65.0t　ジェネレーター出力：1,790kW　スラスター推力：97,500kg　装甲材質：ガンダリウム合金　武装：2連装ビーム・ガン／グレネード・ランチャー／拡散ビーム砲×4／ミニミサイル×40／大型ミサイル×8／メガ・ビーム砲×2／ビーム・サーベル×2／脚部クロー×2／シールド　搭乗者：レコア・ロンド

Illustration & Special effect by Shino,Masanori / Color by Hitomi Miyawaki

PMX-003 THE-O

【ジ・O／ジュピトリス】

グリプス戦役末期、パプテマス・シロッコによって開発されたハンドメイドMSがジ・Oである。本機は彼が己のために設計した機体であり、機動兵器としての優れた性能とバイオ・センサーによる鋭敏な追従性を獲得した。戦乱終盤の攻防戦においてハマーン・カーンのAMX-004 キュベレイと互角の戦いを繰り広げるなど、シロッコの卓越した能力を反映した本機は短期間で多大な戦果を挙げ、グリプス戦役期を代表するMSとの評価を不動のものとしている。

①②③ビーム・ライフルは出力2.6MWで、BOWA社製のものをベースにしていたと言われ、キュベレイのファンネルを撃ち落とすほどの射撃精度を有していた。④サイド・アーマーに各2基のビーム・ソードを収納していた。出力は0.39MWと低めだが、高度な機動性を相俟って高い格闘戦性能を見せた。⑤フロント・アーマーには2本の隠し腕を装備。ビーム・ソードのほか、ビーム・ライフルの使用も可能で、奇襲攻撃に威力を発揮した。『機動戦士Zガンダム』

[Spec] 頭頂高：28.4m 本体重量：57.3t ジェネレーター出力：1,840kW スラスター推力：135,400kg 装甲材質：ガンダリウム合金 武装：ビーム・ライフル／ビーム・ソード×4／隠し腕×2 搭乗者：パプテマス・シロッコ

Illustration and Special effect by Shino,Masanori / Color by Hiromi Miyawaki

RMS-117 GALBALDY β

【ガルバルディβ／ティターンズ】

一年戦争後の財政難から主力MSの新規開発に消極的だった地球連邦軍は、既存機種のマイナーチェンジによって戦力の整備を図った。RMS-117 ガルバルディβはその一環として開発された機体であり、旧ジオン公国軍のMS-17 ガルバルディをベースにしている。しかし、優れた機動性に支えられた格闘戦性能は、同時期の機体に劣るものではなかった。連邦軍の主力MSとなった本機は、皮肉にも公国軍製MSの潜在能力の高さを示したのである。

1 2 ビーム・ライフルはゲルググのものに似ているが、照準用センサーが換装されている。兵装コンセプトはスタンダードなものだったが、空間戦闘力はハイザックを凌駕するという評価が下された。3 4 格闘兵装としてビーム・サーベルを2基装備。高度な近接格闘能力を示した。シールドは伸縮式で、裏側に備えた兵装マウントにミサイル・ランチャーを装備することもあった。5 コクピットは左胸に設置され、その箇所の装甲がスライドすることで搭乗できた。『機動戦士Zガンダム』

[Spec] 頭頂高：19.0m 本体重量：36.3t ジェネレーター出力：1,507kW スラスター推力：63,200kg 装甲材質：チタン合金 武装：ビーム・ライフル／ビーム・サーベル×2／シールド（ミサイル） 搭乗者：ライラ・ミラ・ライラ他

Illustration and Special effect by Shino,Masanori / Color by Hiromi Miyawaki

NRX-044 ASSHIMAR

【アッシマー／ティターンズ】

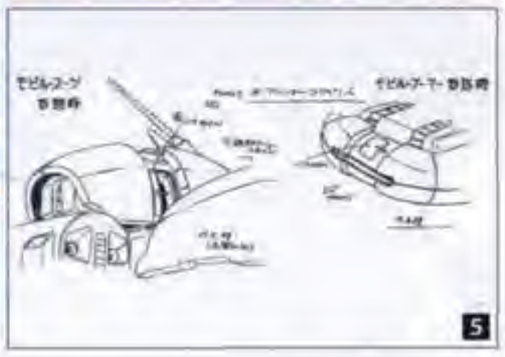
地球連邦軍に所属する試作 MA として最初期に開発された機体のひとつ。大気圏内飛行を考慮して空力抵抗を軽減するようにデザインされた MA 形態は、円盤形という特異なフォルムを持つに至った。ところがその構造は、飛行能力の増強だけではなく、防御力の強化という複次的効果をもたらし、結果的に本機の量産化を促すこととなった。そうして連邦軍基地に配備された本機は、グリプス戦役時の混迷の空を活躍の舞台としたのである。

1

2

3

4


5

1 2 大型ビーム・ライフルの出力は 2.6MW と、同時代のものよりわずかに高い程度だった。3 ハイザックと同じビーム・ライフルを装備した機体も確認されている。4 MA 形態は円盤形となるが、リフティング・ボディーの特性と 10 基の姿勢制御バーニアにより軽快な運動性を発揮した。MA 形態時には大型ビーム・ライフルは機体下部に懸架、そのままでの射撃も可能だった。5 コクピットは頭部ユニットに配され、MS 形態時は側頭部から、MA 形態時には機体正面から搭乗した。『機動戦士 Z ガンダム』

[Spec] 頭頂高：19.3m 本体重量：41.1t ジェネレーター出力：2,010kW スラスター推力：68,200kg 装甲材質：チタン合金セラミック複合材 武装：大型ビーム・ライフル 搭乗者：ブラン・ブルターク 他

Illustration by Morifumi Naka / Color by Takako Suzuki / Special effect by Masayuki Hiraoka

KO

AMX-004 QUBELEY

【キュベレイ／アクシズ】

アステロイド・ベルトの小惑星基地アクシズに逃亡していた、旧ジオン公国軍残党（基地の名を取ってアクシズ、後にネオ・ジオンを自称した）が開発したNT（ニュータイプ）専用MS。旧公国軍のNT専用MA、MAN-08エルメスの小型／MS化をコンセプトとした機体で、サイコミュを介してコントロールされる無線式攻撃端末ファンネルを装備。さらにビーム・サーベルを用いた格闘戦にも対応している。ただしMAN-08と同様、コントロールには極めて高いニュータイプ能力を必要としたため、純正のキュベレイはアクシズの摂政、ハマーン・カーン用の1機が生産されたのみであった。のちにマイナーチェンジ型のMk-Ⅱや、武装強化型の量産型キュベレイも少数ながら生産されている。

1 2 3攻撃端末の小型化はオールレンジ攻撃の有用性にも繋がった。各方向からの攻撃を回避するのはニュータイプでも困難であった。4ファンネルはビーム砲とスラスターを備え、腰部の後ろにファンネル・コンテナから射出される。ファンネル・コンテナはエネルギーCAPとプロペラントの充填器としての機能も有する。5 6下腕部内側にビーム・ガンを内蔵。ビーム・サーベルとしても機能する複合装備だった。『機動戦士Zガンダム』

〔Spec〕 頭頂高：18.4m　本体重量：35.2t　ジェネレーター出力：1,820kW　スラスター推力：61,600kg　装甲材質：不明　武装：ビーム・サーベル（ビーム・ガン兼用）×2／ファンネル（多数）　搭乗者：ハマーン・カーン

Illustration by Morifumi Naka / Color by Takako Suzuki / Special effect by Kumiko Taniguchi

MSZ-010 ZZ GUNDAM

【ZZ ガンダム／エゥーゴ】

エゥーゴとアナハイム・エレクトロニクス社（AE）による MS 開発計画「Z 計画（プロジェクト）」が生み出したガンダム・タイプ MS。U.C.0080 年代末期における MS の恐竜的進化を象徴する機体で、MS 単体が発揮しうる最高峰の火力を持つに至った。頭部に設置されたハイ・メガ・キャノンをはじめ、全身に過剰なまでの兵器を搭載したことがその証である。そして本機の真価は、第 1 次ネオ・ジオン戦争で十全に発揮されることとなった。

1 2 ダブル・ビーム・ライフルの出力は片側 10.6MW で、MS の携行火器としては最強クラスの火力を誇る。3 頭部には出力 50MW のハイ・メガ・キャノンを搭載。絶大な威力を誇るが、使用後は機体の機能が一時的に停止するなどの欠点もあった。4 バックパックには 21 連装ミサイル・ランチャーとビーム・キャノンを 2 基ずつ装備。ビーム・キャノン（出力 20MW）はハイパー・ビーム・サーベル（出力 1.1MW）としても使用可能。5 合体・変形機構を有し、G フォートレスなど多彩な形態を選択できた。『機動戦士ガンダム ZZ』

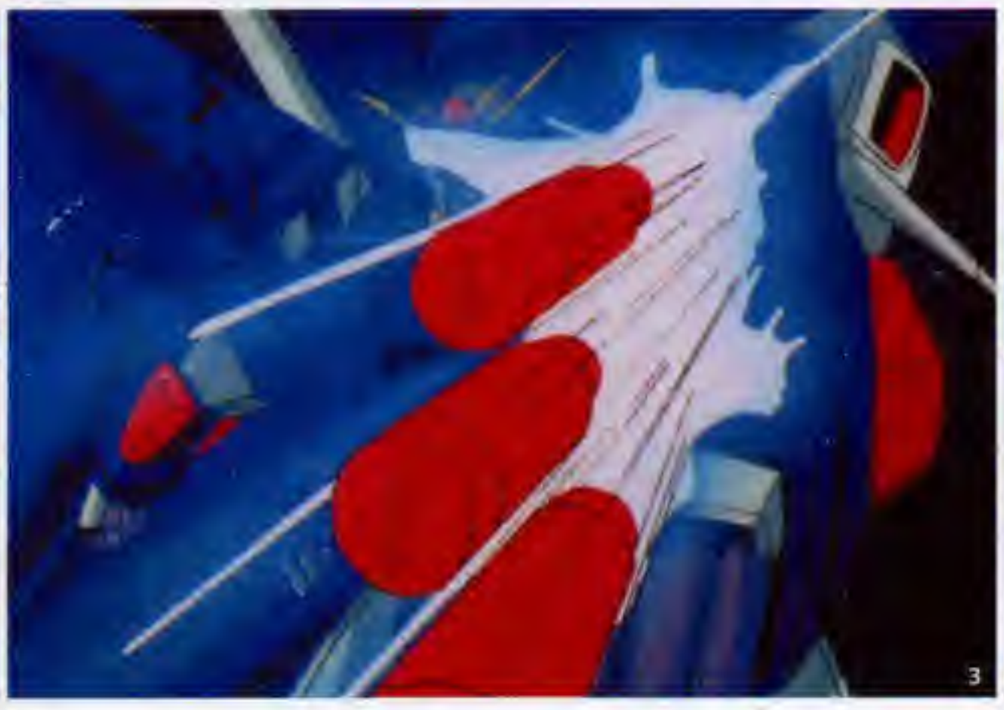
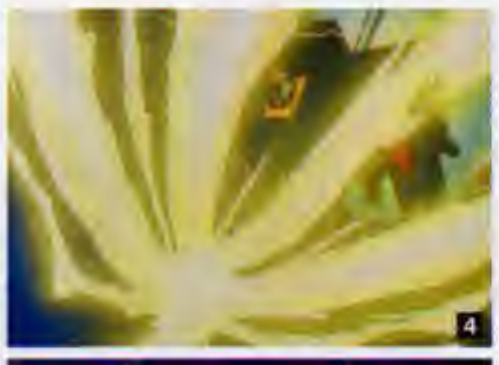
[Spec] 頭頂高：19.86m　本体重量：32.7t　ジェネレーター出力：7,340kW　スラスター推力：101,000kg　装甲材質：ガンダリウム合金　武装：ハイ・メガ・キャノン／ダブル・バルカン×2／ダブル・キャノン（ハイパー・ビーム・サーベル）×2／ダブル・ビーム・ライフル／21 連装ミサイル・ランチャー×2／荷物爆弾 他　搭乗者：ジュドー・アーシタ 他

Illustration by Atsushi Shigeta / Color and Special effect by Yuki

FA-010S
FULL-ARMOR ZZ GUNDAM

【フルアーマーZZガンダム／エゥーゴ】

火力に特化したMSZ-010 ZZガンダムは、圧倒的な戦闘力を生み出す一方で機体構造の脆弱さという問題点を生じさせた。その問題を解消し、激化する戦況に対応しようとした機体がFA-010S フルアーマーZZガンダムである。本機は耐弾性を補うための増加装甲にオプション兵装を組み込むことで攻撃と防御の両面を強化し、ネオ・ジオン製の大型MSに対抗するための総合性能を獲得した。そして第1次ネオ・ジオン戦争末期の激戦を切り抜ける力となったのである。

1 2 MSZ-010S 強化型ZZガンダムに兵器を内蔵した増加装甲を施し、攻撃力と攻撃力の増強を図った機体。変形はできなくなるが、それを補って余りある性能向上を果たした。3 左腕には3連装ミサイル・ポッドを増設。それ以外にもスプレー・ミサイル・ランチャーなど、多数の実体弾兵器を備える。4 増加装甲には耐ビーム・コーティングが施されている。また、Iフィールドを搭載されていたとも言われる。5 増加装甲は、スラスターやプロペラントも備え、格闘戦にも対応できた。『機動戦士ガンダムZZ』

【Spec】 頭頂高：19.86m　本体重量：32.7t　ジェネレーター出力：7,860kW　スラスター推力：124,800kg　装甲材質：ガンダリウム合金　武装：ハイ・メガ・キャノン／ダブル・バルカン×2／ダブル・キャノン（ハイパー・ビーム・サーベル）×2／ダブル・ビーム・ライフル／スプレー・ミサイル・ランチャー／腹部ハイ・メガ・キャノン／背部18連装ミサイル・ランチャー×2他　搭乗者：ジュドー・アーシタ

Illustration by Atsushi Shigeta / Color & Special effect by Yuki

AMX-004-2 QUBELEY Mk-Ⅱ

【キュベレイMk-Ⅱ／ネオ・ジオン軍】

グリプス戦役でエゥーゴとティターンズのエースたちを圧倒したアクシズの象徴、AMX-004 キュベレイ。その洗練されたフォルムと、ファンネルを駆使した強力無比な戦闘能力は、後継機へと受け継がれた——それが AMX-004-2 キュベレイ Mk-Ⅱである。AMX-004 とほぼ同等の性能を有する本機は、ネオ・ジオンに見い出されたニュータイプの少女たちに与えられた。そして、年端もいかない彼女たちを戦いに引きずり込む枷となったのである。

1

2

3

4

5

1 2 3 ファンネルを用いたオールレンジ攻撃を主な戦闘スタイルとする。サイコミュはエルピー・プルに合わせて調整されている。4 ビーム・サーベルは小型のビーム発振器が 3 基 1 組となった構造で、それぞれから発生したビームを束ねてビーム刃を構成する仕組みだった。なお、収納時には柄の先端がビーム・ガンの砲口となる。5 プルツー専用の 3 号機（AMX-004-2）は赤く塗られ、サイコミュ・コントローラーによって遠隔操作できた。『機動戦士ガンダム ZZ』

〔Spec〕 頭頂高：18.4m　本体重量：35.2t　ジェネレーター出力：1,820kW　スラスター推力：61,600kg　装甲材質：ガンダリウム合金　武装：ビーム・サーベル（ビーム・ガン兼用）×2／ファンネル多数　搭乗者：エルピー・プル

Illustration by Katsutoshi Tsunoda / Color by Hiroko Umezaki / Special effect by Kei Tsunematsu

AMX-004G MASS-PRODUCED QUBELEY

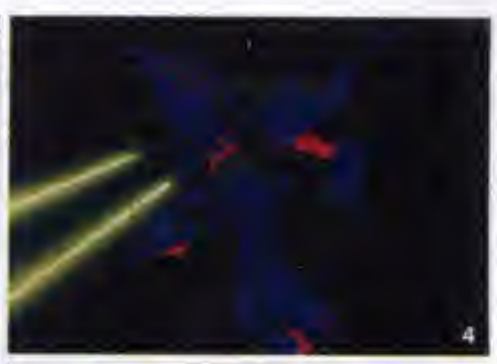
【量産型キュベレイ／ネオ・ジオン軍】

第１次ネオ・ジオン戦争末期、ハマーン・カーンに反旗を翻したグレミー・トトは極秘裏に編制したニュータイプ部隊を自らの反乱の切り札とした。AMX-004G 量産型キュベレイはニュータイプ部隊の専用機として開発された機体である。AMX-004 キュベレイを再設計した本機は兵装の強化を中心とした改修が図られ、ベース機を凌駕する火力を獲得した。そして権謀渦巻くアクシズ攻防に投入され、ハマーン派と壮絶な戦いを繰り広げたのである。

1

2

3


4

5

①ファンネル・コンテナが大型化され、搭載するファンネルも 30 基に増加していた。②③原型機と同じく、ファンネルによるオールレンジ攻撃を主体とする。④背部にはアクティブ・カノンを備える。これにより火力が増強され、射撃戦にも対応した運用が可能となった。⑤パイロットはブル（ブルツー）のクローンが務め、グレミー軍の隠し玉として第１次ネオ・ジオン戦争の終盤に投入された。『機動戦士ガンダム ZZ』

〔Spec〕 頭頂高：18.4m　本体重量：35.2t　ジェネレーター出力：1,820kW　スラスター推力：61,600kg　装甲材質：ガンダリウム合金　武装：ハンド・ランチャー兼用ビーム・サーベル×２／アクティブ・カノン×２／ファンネル× 30　搭乗者：不明

Illustration by Kouji Sugiura / Color by Nagisa Abe / Special effect by Hirofumi Yagi(ASAHI PRODUCTION)

AMX-006 GAZA D

【ガザ D ／ネオ・ジオン軍】

グリプス戦役期にアクシズが主力機に据えた AMX-003 ガザ C は、高い生産性を実現した可変 MS（TMS）だった反面、廉価版量産機という評価を拭いきれなかった。その問題を解消するために開発されたシリーズ後継機が、AMX-006 ガザ D である。AMX-003 の設計コンセプトを踏襲しつつも総合性能の向上を図った本機は、第 1 次ネオ・ジオン戦争初期から主力機として運用され、アクシズ（ネオ・ジオン）軍の勢力拡大に貢献することとなった。

1

2

3

4

5

1 2 3 AMX-003 ガザ C と同じく、ナックル・バスターを主兵装とする。出力は 8.5MW で、サブ・センサーと連動する。ジェネレーター・ボックスの先端と脚部にもメガ粒子砲を備える。ボックス先端のものは出力 3.2MW で、主力 MS のビーム・ライフルに匹敵する出力を有した。4 バインダーには 8 連装と 4 連装のミサイル・ランチャーを装備。ミサイルの型式番号は AMS-01H。バインダーにはビーム・サーベルも収納された。5 MA 形態では高い機動性を誇ると共に、ほぼすべての火器を運用できた。『機動戦士ガンダム ZZ』

[Spec] 頭頂高：17.0m　本体重量：28.7t　ジェネレーター出力：2,140kW　スラスター推力：98,200kg　装甲材質：不明　武装：ナックル・バスター／ミサイル・ランチャー／ビーム・サーベル×2／ビーム砲×2／シールド（8 連装ミサイル・ポッド、4 連装ミサイル・ランチャー内蔵）×2／脚部メガ粒子砲×2　搭乗者：ガザの強隊 他

Illustration by Kouji Sugiura / Color by Nagisa Abe / Special effect by Kei Tsunematsu

AMX-009 DREISSEN

【ドライセン／ネオ・ジオン軍】

ドライセンは、第１次ネオ・ジオン戦争時にネオ・ジオン軍（アクシズ）が開発した汎用重 MS である。一年戦争の傑作機、MS-09 ドムのコンセプトを受け継ぐと同時に特殊兵装などの新たなアイディアを盛り込まれた本機は、トータルバランスに優れた機体として完成した。そして戦争初期に実戦投入されるとネオ・ジオン軍の主力として長く宇宙と地上の両戦線を支え、ジオン公国軍が生み出した始祖の名に恥じぬ活躍を見せたのである。

①腕部に固定された３連装ビーム・キャノンが唯一の射撃兵装であった。威力は高かったが、柔軟性に欠ける面があった。②③ロング・ビーム・トマホーク（ビーム・ランス、ビーム・トマホークを兼用）を用いた格闘戦で真価を発揮、MSZ-010 ZZ ガンダムとも対等に渡り合うことも可能だった。④バックパックに装備されたトライ・ブレードは、３枚の刃を回転させる投擲兵器である。⑤ラカン・ダカランやオウギュスト・ギダンなど、士官クラスの将兵が主なパイロットを務めた。『機動戦士ガンダム ZZ』

[Spec] 頭頂高：22.0m　本体重量：36.7t　ジェネレーター出力：2,380kW　スラスター推力：107,800kg　装甲材質：ガンダリウム合金　武装：３連装ビーム・キャノン×２／ビーム・ランサー／トライ・ブレード×３／ビーム・トマホーク　搭乗者：ラカン・ダカラン 他

Illustration by Katsutoshi Tsunoda / Color by Hiroko Umezaki / Special effect by Kei Tsunematsu

AMX-011 ZAKU Ⅲ

【ザクⅢ／ネオ・ジオン軍】

ジオン公国軍が開発したMS-06 ザクⅡの正統なる後継機を謳い、ネオ・ジオンが開発した汎用MS。高い基礎性能を有する機体に運用方法に応じたオプションを追加するというコンセプトは、ザクの名に恥じない高い汎用性を本機に与えた。だが、その設計思想は高出力・大火力化という進化を遂げる当時のMSからは外れており、AMX-014 ドーベン・ウルフとのトライアルに敗れた本機は、歴史の片隅にわずかな戦果を残すのみとなった。

1 2 3口吻部ビーム砲と腰アーマー部ビーム砲を基本兵装とした。腰アーマー部ビーム砲（出力2.8MW）が主な兵装となるが、射界が前方のみに限定されるうえ、ビーム・サーベルと兼用など、運用柔軟性に欠けていた。4機体性能自体は高く、ビーム・サーベルを用いた格闘戦も得意とした。5オプション換装による拡張性の高さが本機最大の特徴と言われた。しかし、実戦にはわずか数機が投入されたのみで、その真価を発揮する機会に恵まれなかった。『機動戦士ガンダムZZ』

[Spec] 頭頂高：21.0m　本体重量：44.2t　ジェネレーター出力：2,150kW　スラスター推力：172,600kg　装甲材質：ガンダリウム・コンポジット　武装：ビーム砲（口吻部）／腰アーマー部ビーム砲×2（ビーム・サーベル兼用）／シールド　搭乗者：ラカン・ダカラン 他

Illustration by Seiichi Nakatani / Color by Reiko Iwasawa / Special effect by Masayuki Hiraoka

AMX-011S ZAKU Ⅲ CUSTOM

【ザクⅢ改／ネオ・ジオン軍】

ネオ・ジオン軍が開発したAMX-011 ザクⅢは、外装ユニットのオプション化による幅広い拡張性を有した汎用機だった。その特性に基づいて各部オプションの換装を施したバリエーション機がAMX-011S ザクⅢ改であり、機動性や兵装の強化によって優れた総合性能を獲得した。本機は第1次ネオ・ジオン戦争末期の内乱においてマシュマー・セロの専用機として運用され、グレミー派のMS部隊を相手取って壮烈な戦いぶりを見せたのである。

①②③腰アーマー部ビーム・ランチャーが主兵装となる点は原型機と同じ。射界は限定されるが、射撃戦にも充分に対応できるだけの威力を有した。④ビーム・ランチャーがビーム・サーベル（出力は0.85MW）を兼ねる。高機動機のため格闘戦にも充分に対応できた。これ以外にもハイド・ボンプ投射機と頭部に30ミリバルカンを備える。⑤第1次ネオ・ジオン戦争の最終局面に投入された本機は、スペース・ウルフ隊と激戦を繰り広げた。『機動戦士ガンダムZZ』

〔Spec〕 頭頂高：21.0m　本体重量：44.3t　ジェネレーター出力：2,860kW　スラスター推力：211,500kg　装甲材質：ガンダリウム・コンポジット　武装：バルカン砲×2／腰アーマー部ビーム・ランチャー（ビーム・サーベル兼用）×2／ビーム・ライフル／ハイド・ボンプ投射機　搭乗者：マシュマー・セロ

Illustration by Katsutoshi Tsunoda / Color by Nagisa Abe / Special effect by Kei Tsunematu

AMX-014 DOOBEN WOLF

【ドーベン・ウルフ／ネオ・ジオン軍】

第1次ネオ・ジオン戦争後期にネオ・ジオン軍が開発した重MS。多彩な兵装と擬似サイコミュ・システムによる高い火力を有し、他のMSを圧倒する戦闘力を発揮した。しかし、その矛先はネオ・ジオン軍内部に向けられることとなる。本機の配備先となったラカン・ダカラン率いるスペース・ウルフ隊は、ハマーン・カーンに反旗を翻したグレミー・トトに与した。そしてAMX-014の6機連隊は、その切り札のひとつとして戦場に赴いたのである。

①②メガ・ランチャー兼ビーム・ライフルを主兵装とする。ビーム・ライフル時の出力は12.5MWだが、銃身を展開し胸部メガ粒子砲（出力5.3MW）と接続することで出力40.2MWのメガ・ランチャーとして運用される。③ビーム・ランチャーとミサイル・ランチャーなどを固定装備する。ミサイルは対MS用（AMS-01H）と対艦ミサイル（AMR-09R）の2種を搭載。④準サイコミュを採用、腕部はラカン機が無線式、一般機は有線式で、掌にはハンド・ビーム（出力2.3MW）が装備された。⑤格闘兵装としてビーム・サーベルも装備。『機動戦士ガンダムZZ』

[Spec] 頭頂高：22.0m 本体重量：36.8t ジェネレーター出力：5,250kW スラスター推力：87,300kg 装甲材質：ガンダリウム・コンポジット 武装：バルカン砲×2／ビーム・カノン／ミサイル・ランチャー／対艦用大型ミサイル×2／インコム・ビーム×2／メガ粒子砲／グレネード弾隠しランチャー×2／ハンド・ビーム×2／隠し腕（ラカン専用機のみ）／ビーム・サーベル×2／メガ・ランチャー兼ビーム・ライフル 搭乗者：ラカン・ダカラン他

Illustration&Special effect by Shino,Masanori / Color by Hiromi Miyawaki

AMX-015 GEYMALK

【ゲーマルク／ネオ・ジオン軍】

第1次ネオ・ジオン戦争の末期にネオ・ジオン軍が開発したAMX-015ゲーマルクは、当時のMS開発現場が機体性能偏重主義に傾いていたことを示す適例と言える。全身に配された無数のビーム兵装や独自システムを採用したサイコミュ兵器を搭載した本機は、MSとしては極限とも言える火力を獲得した。だがその砲火は本来の敵であるはずの地球連邦軍とエゥーゴではなく、反逆の牙を剥いたかつての同胞へと向けられることになったのである。

1 2 3全身各所にハイパー・メガ粒子砲（30.5MW）をはじめ、メガ粒子砲（胸部2連装が出力4.5MW、腰部が6.2MW）や肩部2連装ビーム・ランチャー（出力2.3MW）を装備。また、マニピュレーターはミトンタイプで、親指はビーム・ライフル（出力2.3MW）、それ以外は3連装メガ粒子砲（出力4.0MW）となっている。4背部には14基のチルド・ファンネルを内蔵したマザー・ファンネルを2基搭載。5特殊なマニピュレーターの形状に合わせた専用のビーム・サーベルを装備する。『機動戦士ガンダムZZ』

〔Spec〕 頭頂高：22.0m　本体重量：46.3t　ジェネレーター出力：8,320kW　スラスター推力：92,400kg　装甲材質：ガンダリウム合金　武装：2連装ビーム・ランチャー×2／腰部メガ粒子砲／2連装メガ粒子砲×2／胸部ハイパー・メガ粒子砲／3連装メガ粒子砲×2／ビーム・ライフル×2／3連装グレネード・ランチャー×2／ビーム・サーベル×2／メガ・ビーム・カノン×2／マザー・ファンネル（チルド・ファンネル×10～14）×2　搭乗者：キャラ・スーン

Illustration & Special effect by Shino,Masanori / Color by Hiromi Miyawaki

AMX-102 ZSSA

【ズサ／ネオ・ジオン軍】

AMX-102 ズサは第 1 次ネオ・ジオン戦争期にネオ・ジオン軍が開発した主力 MS である。本機は AMX-101 ガルス J との共同作戦を想定し、機体各所にミサイルを満載した支援用 MS として設計された。そして試作機による実戦テストを経て地球侵攻作戦に向けた量産が行なわれ、他の主力 MS と共に戦争を通じてネオ・ジオン軍の戦力を支えた。戦争末期まで第一線で運用されたことからも、本機はネオ・ジオン軍を代表する主力 MS のひとつと言えよう。

①②胸部・大腿部・腕部・脚部にミサイル・ポッドを内蔵。搭載されたミサイルは、AMS-02S と AMS-05S の 2 種類だったと言われる。③オプション装備として、肩部に 7 連装ミサイル・ポッドを装着できる。これによってより高度な砲撃戦能力を獲得した。④格闘兵装としてビーム・サーベル（出力は 0.62MW）を装備していたが、格闘戦性能は重視されていなかった。⑤専用ブースター・ポッドを装着することで機動力の向上だけではなく、MA 形態への変形も可能だった。『機動戦士ガンダム ZZ』

[Spec] 頭頂高：15.0m 本体重量：23.7t ジェネレーター出力：1,820kW スラスター推力：34,600kg 装甲材質：ガンダリウム合金 武装：ビーム・サーベル×2／ミサイル・ポッド／ブースター／バルカン×2／胸部 2 連装ミサイル×2／大腿部 6 連装ミサイル×2／脚部 10 連装ミサイル×2／腕部 3 連装ミサイル×2 搭乗者：マシュマー・セロ 他

Illustration by Atsushi Shigeta / Color and Special effect by Yuki

AMX-103 HAMMA-HAMMA

【ハンマ・ハンマ／ネオ・ジオン軍】

ネオ・ジオンが開発した、一般用サイコミュ・システム（準サイコミュ）のテストベッド機。オールレンジ攻撃が可能な腕部有線ビーム砲と総推力25万kgを上回る機動性を持つハイエンド機だが、準サイコミュが未完成であったため開発は中断。完成した試作機の1機（試作機は2機存在した）は、マシュマー・セロ専用機としてエンドラ隊に配備された。その際にマシュマーは、本機を「ハマーン・カーン様から授かった薔薇」と形容したとされる。

1 2 両腕の有線ビーム砲は、スペック上は50mもの延長が可能だったとされるが、オールレンジ攻撃に用いることはできなかった。3 スラスターにジェネレーター出力の大半を用いていたため、3連ビーム砲（出力3.1MW）も威力の確保に苦労したとされる。4 専用シールドには、3基のメガ粒子砲（出力は1基につき1.8MW）と機雷投射機が内蔵されていた。5 クロー式のマニピュレーターを装備するが、格闘には使用できなかった。しかし、ビーム・サーベルの保持は可能で格闘戦にも対応した。『機動戦士ガンダムZZ』

[Spec] 頭頂高：21.5m 本体重量：40.3t ジェネレーター出力：3,820kW スラスター推力：258,200kg 装甲材質：ガンダリウム合金 武装：有線アーム（3連ビーム砲）×2／ビーム・サーベル×2／メガ粒子砲付きシールド 搭乗者：マシュマー・セロ 他

Illustration&Special effect by Shino,Masanori / Color by Hiromi Miyawaki

AMX-104 R-JARJA

【R・ジャジャ／ネオ・ジオン軍】

白兵戦能力を重視したジオン公国軍の MS、YMS-15 ギャン――その設計思想を受け継いで開発されたネオ・ジオン軍のカスタムメイド MS が AMX-104 R・ジャジャである。量産計画から外れた機体を「騎士」を自認する高級士官用に改修した本機には、主力 MS とは一線を画する機能性が与えられ、第 1 次ネオ・ジオン戦争における初期戦略の一角を担う働きが期待された。そして、その責務を一身に背負い、真紅の MS は戦場に躍り出たのである。

1 2 射撃戦用兵器として、銃剣付きビーム・ライフル（出力は 3.1MW）と 3 連装ショルダー・ミサイル・ポッド（形式番号は AMS-05M で、装弾数は 12 発）を装備。3 4 格闘兵装はビーム・ライフル下部に銃剣として取り付けられたヒート・サーベルと、ビーム・サーベル（出力 0.72MW）の 2 種を装備。格闘戦性能が重視された装備や機能が、汎用機ではなく騎士専用機とされた理由とされる。5 両肩の後部にバリアブル・シールドを装備。可動式で広範囲を防御できた。『機動戦士ガンダム ZZ』

[Spec] 頭頂高：20.0m　本体重量：36.4t　ジェネレーター出力：2,320kW　スラスター推力：38,600kg　装甲材質：ガンダリウム合金　武装：銃剣付きビーム・ライフル／ビーム・サーベル／バリアブル・シールド×2／3 連装ショルダー・ミサイル・ポッド×2　搭乗者：キャラ・スーン

Illustration by Seiichi Nakatani / Color by Reiko Iwasawa / Special effect by Masayuki Iwasawa

AMX-107 BAWOO

【バウ／ネオ・ジオン軍】

ネオ・ジオン軍の分離・合体 MS。変形時には上半身から成る有人戦闘機バウ・アタッカーと、下半身が変形する無人機バウ・ナッターに二分される。ナッターは爆弾などを内装し、アタッカーからの無線操作によって目標に指向される。MS 形態での性能にも優れ、パイロットのグレミー・トトは軽快な運動性を特に評価していたほか、複数のビーム兵器や実弾兵器といった多彩な武装によって高い火力と適応性を発揮した。試作機（グレミー機）はエルゴレア近郊の戦闘で失われたが、直後にほぼ同仕様の量産タイプが投入されている。

1・2 ビーム・ライフルは出力 3.1MW で、出力は低めだが精度は高かったようだ。シールドは中央部に 5 連メガ粒子砲を装備。ネオ・ジオン機によく見られたハイブリッド・シールドである。3 前腕部にはグレネード・ランチャーとビーム・サーベルを設置。4 上半身部のバウ・アタッカー、下半身部のバウ・ナッターに分離する。バウ・アタッカーは翼下にミサイルを装備し、無人のバウ・ナッターを無線操縦する。5 後に量産されたが、機体色は緑に変更となった。『機動戦士ガンダム ZZ』

[Spec] 頭頂高：18.5m　本体重量：34.7t　ジェネレーター出力：2,410kW　スラスター推力：75,040kg　装甲材質：ガンダリウム合金　武装：ビーム・ライフル／ビーム・サーベル（ビーム・ガン兼用）×2／メガ粒子砲付きシールド／ミサイル×6／グレネード・ランチャー×2　搭乗者：グレミー・トト 他

Illustration by Atsushi Shigeta / Color&Special effect by Yuki

NZ-000 QUIN-MANTHA

【クィン・マンサ／ネオ・ジオン軍】

第１次ネオ・ジオン戦争末期にネオ・ジオン軍が開発したニュータイプ（NT）専用大型 MS。旧ジオン公国軍時代から蓄積された MS 開発ノウハウが盛り込まれた本機は、NT 専用機としての特殊性と大型機としての制圧力を兼ね備えた破格の機体であった。しかし、ネオ・ジオンを二分したグレミー・トトの反乱において、グレミー派によって運用され、その絶大な戦闘力はネオ・ジオンそのものさえも揺るがす災厄として振るわれることになったのである。

1 2 3 多数のメガ粒子砲を装備し、U.C.0080 年代末の機動兵器としては最大級の火力を誇った。ちなみに、頭部の３連メガ粒子砲は 13.6MW、胸部のメガ粒子砲は 8.3MW、腕部メガ粒子砲は 6.5MW の出力を誇った。4 計 30 基ものファンネルによるオールレンジ攻撃も可能であったが、ブルツーの高い NT 能力が下地となっていた。また、ファンネル・コンテナにも２基のメガ粒子砲を備える。5 大型ビーム・サーベル（出力は 1.8MW）を有し、格闘戦にも対応していた。『機動戦士ガンダム ZZ』

[Spec] 頭頂高：39.2m　本体重量：143.2t　ジェネレーター出力：21,370kW　スラスター推力：287,100kg　装甲材質：ガンダリウム合金　武装：メガ粒子砲×９／ファンネル×30／大型ビーム・サーベル×２／メガ粒子偏向器　搭乗者：ブルツー

Illustration Kouji Sugiura / Color by Hiroko Umezaki / Special effect by Kei Tsunematsu

RGZ-91 Re-GZ

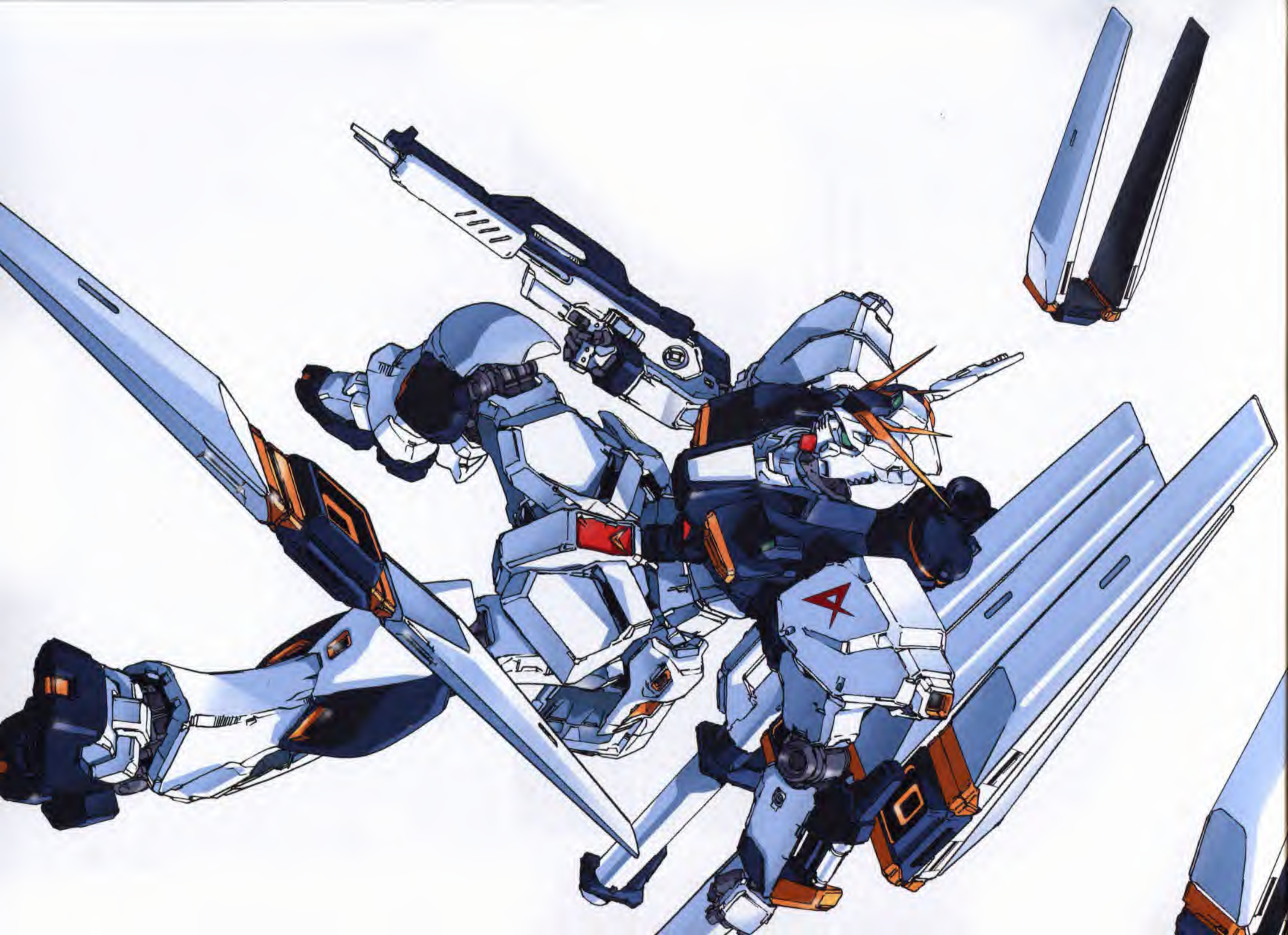
【リ・ガズィ／ロンド・ベル】

シャア・アズナブルが決起の準備を進めていることに危機感を抱いたロンド・ベル隊の意向を受け、アナハイム・エレクトロニクス社（AE）が開発したMS。グリプス戦役で多大な戦果を挙げたMSZ-006 Zガンダムにコンセプトを求めた機体であり、バック・ウェポン・システム（BWS）を用いた簡易変形などのコストダウンによって量産化を目指した。MSZ-006の基礎設計を再現し、高いスペックは獲得できたものの、依然としてコストを抑えられなかった。そのため試作機の1機がロンド・ベル隊に配備され、アムロ・レイの乗機となったのである。

1 2 簡易変形に用いられたバック・ウェポン・システム（BWS）には大口径ビーム・キャノン1門とビーム・キャノン2門という大火力が装備された。3 4 5 BWSは一度分離してしまうと再変形できない設計のため、MS形態時の武装は汎用性の高い標準的なものが用意されている。専用ビーム・ライフル、ビーム・サーベル、シールドの他、胸部と腰部アーマーにグレネード・ランチャーを内蔵している。『機動戦士ガンダム　逆襲のシャア』

[Spec]　頭頂高：20.5m　本体重量：24.7t　ジェネレーター出力：2,550kW　スラスター推力：67,600kg　装甲材質：ガンダリウム合金　武装：頭部バルカン砲×2／ビーム・ライフル／ビーム・サーベル×2／2連装グレネード・ランチャー×4／シールド（ハンド・グレネード×3内蔵）／バック・ウェポン・システム　搭乗者：アムロ・レイ、ケーラ・スゥ、チェーン・アギ

Illustration & Special effect by Shino,Masanori / Color by Hiromi Miyawaki



RX-93 νGUNDAM

【νガンダム／ロンド・ベル】

ネオ・ジオンを率いて復活したシャア・アズナブルに対抗するために、一年戦争の英雄アムロ・レイ大尉が設計したニュータイプ専用ガンダム。既存のガンダム・タイプMSのデータを統合することで確立したベーシックな構造の武装を有するが、最大の特徴は攻防一体のサイコミュ兵器、フィン・ファンネルを搭載したことにある。さらに、コクピット周辺に金属粒子大のサイコミュを鋳込んだ新素材、サイコ・フレームを採用したことで、U.C.0093における最強クラスのMSとして完成した。製造はアナハイム・エレクトロニクス（AE）社が担当している。

①②極めてシンプルな武装ではあるが、例えばビーム・ライフルなどは同時代の他機種用よりも高出力で、さらにマシンガンのような連射すら可能としていた。③④最大の特徴でもあるフィン・ファンネル。従来のファンネルよりも稼働時間が長く、攻撃だけでなく防御にも転用可能であった。⑤ニュータイプ能力を増幅するサイコ・フレームがオーバーロードし、機体周辺が発光する現象を引き起こした。『機動戦士ガンダム　逆襲のシャア』

〔Spec〕　頭頂高：22.0m　本体重量：27.9t　ジェネレーター出力：2,980kW　スラスター推力：97,800kg　装甲材質：ガンダリウム合金　武装：頭部バルカン砲×2／ビーム・ライフル／ビーム・サーベル×2／ニュー・ハイパー・バズーカ／シールド（ビーム・キャノン、ミサイル×4内蔵）／フィン・ファンネル×6　搭乗者：アムロ・レイ

Illustration by Atsushi Shigeta / Color & Special effect by Yuki

RGM-89 JEGAN

【ジェガン／地球連邦軍】

ジム系の地球連邦軍制式採用機としては初となる、アナハイム・エレクトロニクス社（AE）開発による汎用主力MS。連邦軍が熟成させてきたジム系MSの設計とAEの優れたMS開発技術によって生み出されたこの機体は、同系列MSの技術の集大成とも言うべき高性能量産機となった。U.C.0090年代初頭から、ロンド・ベルをはじめとする連邦軍部隊に配備された本機は、マイナーチェンジを繰り返しながら以後30年近くもの間、連邦軍主力MSの座を守り続けていくこととなるのである。

1 2 3汎用性を重視した武装を持ち、ビーム・ライフルやビーム・サーベルの他に実体弾であるハンド・グレネードやミサイル・ランチャーなどを装備する。4長距離移動や機動性向上のためベース・ジャバーと呼ばれるサブ・フライト・システムを使用することも多かった。5ジェガン専用のリニア・シート。本機のコクピットはそれまでの戦闘データを元にした簡易シミュレーターにもなったという。『機動戦士ガンダム　逆襲のシャア』

〔Spec〕　頭頂高：19.0m　本体重量：21.3t　ジェネレーター出力：1,870kW　スラスター推力：61,400kg　装甲材質：チタン合金セラミック複合材　武装：ビーム・ライフル／ビーム・サーベル／腕部バルカン砲×2／ハンド・グレネード×3／シールド／2連装ミサイル・ランチャー　搭乗者：ハサウェイ・ノア 他

Illustration&Special effect by Shino.Masanori / Color by Hitomi Miyawaki

AMS-119 GEARA-DOGA

【ギラ・ドーガ／ネオ・ジオン軍】

シャア・アズナブルにより再興されたネオ・ジオン軍の主力機となるべく開発された汎用MS。MS本来の戦術要素を満たすことに主眼を置いたシンプルな機体設計と、各種武装の充実、高い生産性――それは、MS開発史に名を残す傑作機“MS-06ザク”を彷彿とさせるものであった。地球連邦軍の制式MSを上回る総合性能を有したこのMSによって、ネオ・ジオン軍は連邦軍に対抗しうる戦力を整えることに成功したのである。そして、U.C.0093、ネオ・ジオン軍の地球寒冷化作戦の開始により、本機はその真価を問われる戦場に投入されることとなる。

1 2 3主兵装となるビーム・マシンガンの他、実体弾や格闘用武器などを含む数多くのオプション兵装が用意されており、機体の高い汎用性と相まってさまざまな状況に対応することが可能であった。4 5隊長機にはブレード・アンテナが装備されたほか、装備するビーム・マシンガンに違いがある。レズン・シュナイダー少尉には全身が青いパーソナルカラーで塗装されたギラ・ドーガが与えられた。『機動戦士ガンダム　逆襲のシャア』

[Spec]　頭頂高：20.0m　本体重量：23.0t　ジェネレーター出力：2,160kW　スラスター推力：54,000kg　装甲材質：チタン合金セラミック複合材　武装：ビーム・マシンガン／ビーム・ソードアックス（ビーム・ピック兼用）／シュツルム・ファウスト×4／シールド／グレネード・ランチャー×4　搭乗者：レズン・シュナイダー 他

Illustration by Shino,Masanori / Color by Hiromi Miyawaki / Special effect by Takayuki Furukawa

MSN-03 JAGD DOGA

【ヤクト・ドーガ／ネオ・ジオン軍】

ネオ・ジオン軍のニュータイプ（NT）用重MS。同軍の主力MSであるAMS-119ギラ・ドーガのムーバブル・フレームをベースに、大出力ジェネレーターやサイコミュを搭載、さらにファンネル以外にも多数のビーム兵器を装備するなど、高い戦闘力を有する。また、新型のサイコミュであるサイコ・フレームが搭載されているが、NT用の機体としては充分な性能を発揮しなかったため、少数が生産されたのみであった。開発・生産はアナハイム・エレクトロニクス（AE）社のグラナダ工場で行なわれた。

1 2 3ビーム・アサルトライフルの他、シールドに内蔵されたメガ粒子砲など多数のビーム砲を装備する。さらに両肩には合計6基のファンネルもあり、ドイツ語で「駆逐」を意味する「ヤクト」を名乗るにふさわしい機体といえる。4 5ヤクト・ドーガは2機が試作され、1機はギュネイ・ガスが運用。残る1機はクェス・エアと名乗る少女（クェス・パラヤ）によって運用された。機体色が異なる他、武装にもメガ・ガトリング・ガンが装備されるなど細かい仕様変更が行われている。『機動戦士ガンダム　逆襲のシャア』

[Spec]　頭頂高：21.0m　本体重量：28.0t　ジェネレーター出力：3,340kW　スラスター推力：82,000kg　装甲材質：ガンダリウム合金　武装：ビーム・アサルトライフル（グレネード・ランチャー）／ビーム・サーベル（ヒート・ナイフ）／3連装ミサイル・ランチャー×2／ファンネル×6／専用シールド（4連装メガ粒子砲×4）　搭乗者：ギュネイ・ガス、クェス・エア

Illustration by Morifumi Naka / Color by Takako Suzuki / Special effect by Kumiko Taniguchi

MSN-04 SAZABI

【サザビー／ネオ・ジオン軍】

「シャアの反乱」がシャア・アズナブルの個人的な感情に起因する私闘であったことは事実だろう。そして、その戦いのために彼が用意した専用MSがMSN-04サザビーであった。高水準の汎用MSとしての基本性能とニュータイプ（NT）専用機としての特殊性の両立を目指した本機には、ジオン公国軍系MSの基礎設計とサイコ・フレームといった新旧の技術が導入された。そして真紅に彩られたこのMSは、「赤い彗星」の最期を飾ることになるのである。

1 2 3 4 ビーム兵器と実体弾、さらにファンネルや格闘用武器までを幅広く装備することで、さまざまな戦況に対応する高い戦闘能力を実現している。重MSと言ってよいほどの機体サイズと重武装だが、本機は格闘能力も高かった。サイコ・フレームによってシャア・アズナブルのニュータイプ能力は増幅されただけでなく、機体のコントロール性も大幅にアップしている。5 コクピットは頭部にあり、脱出ポッドとしても機能した。『機動戦士ガンダム　逆襲のシャア』

〔Spec〕 頭頂高：23.0m　本体重量：30.5t　ジェネレーター出力：3,960kW　スラスター推力：133,000kg　装甲材質：ガンダリウム合金　武装：ビーム・ショット・ライフル／ビーム・サーベル×2／ファンネル×6／シールド（小型ミサイル×3、ビーム・トマホーク内蔵）／腰部拡散メガ粒子砲　搭乗者：シャア・アズナブル

Illustration by Shino,Masanori / Color by Hiromi Miyawaki / Special effect by Takayuki Furukawa

NZ-333 α-AZIERU

【α・アジール／ネオ・ジオン軍】

シャア・アズナブル率いるネオ・ジオン軍が計画した「地球寒冷化作戦」。その切り札として開発されたニュータイプ（NT）専用超大型MAが、NZ-333 α・アジールである。サイコミュ兵器による絶大な火力と、その火力を迅速に前線まで到達させるための機動力――これらの能力を両立した本機は単機で戦場の趨勢を左右しうる性能を秘め、アクシズを巡る攻防戦に投入された。そしてパイロットとなったクェス・エアは機体性能を十全に発揮したのである。

1 2 3 バルカン砲やメガ粒子砲が集中する頭部。口吻部メガ粒子砲はνガンダムのフィン・ファンネル・バリアを撃ち破るほどの威力を誇る。4 5 有線式とはいえ高い自由度を持つメガ・アーム砲に加え、9基ものファンネルを装備する。ともにオールレンジ攻撃に特化した兵装からもニュータイプ専用機であることがわかるが、これらは対MS戦用の手段ではなく、広範囲への制圧用兵装であったと言われる。『機動戦士ガンダム　逆襲のシャア』

〔Spec〕 頭頂高：58.4m　本体重量：128.6t　ジェネレーター出力：19,830kW　スラスター推力：2,217,500kg　装甲材質：ガンダリウム合金　武装：頭部バルカン砲×4／頭部2連装大型バルカン／口吻部メガ粒子砲／胸部メガ粒子砲／有線サイコミュ式メガ・アーム砲×2／ファンネル×9／シュツルム・ブースター　搭乗者：クェス・エア

Illustration by Shino,Masanori / Color by Hiromi Miyawaki / Special effect by Takayuki Furukawa

HOBBY HIZACK

【ホビー・ハイザック／ネオ・ジオン軍】

地球連邦軍から払い下げられたRMS-106 ハイザックを、スポーツ向けに改造した民間用MS。兵器として運用するための機能はすべて取り除かれているが、ホビー仕様のチューニングは軍用のベース機に引けを取らない運動性を実現している。シャア・アズナブルが再興したネオ・ジオンがサイド1、ロンデニオン・コロニーにおける連邦軍との極秘交渉の際に非常時の護衛機として用い、シャアを回収してコロニーからの脱出に役立てている。

1 2 3あくまでも競技用のスポーツ機であるため、内装・携行含めた武装の類は装備していない。4 5コロニーでの極秘交渉に赴いたシャアを護衛するため、ギュネイによって運用された。偽装小型艇によってコロニー内に搬入され、交渉会場の周辺を遊覧飛行することで周囲の警戒をしていた。アムロとの遭遇によってシャアが窮地に陥ると飛来し、巻き込まれたクェスとともにコロニーを脱出している。『機動戦士ガンダム 逆襲のシャア』

[Spec] 頭頂高：18.0m（異説18.5m） 本体重量：不明 ジェネレーター出力：不明 スラスター推力：不明 装甲材質：不明 武装：なし 搭乗者：ギュネイ・ガス、クェス・パラヤ

Illustration by Satoshi Shigeta / Color by Nagisa Abe / Special effect by Hirofumi Yagi(ASAHI PRODUCTION)

RGM-109 HEAVY-GUN

【ヘビーガン／地球連邦軍】

地球連邦軍が提唱したMSの原点回帰は、小型高性能を念頭に置いた新世代機（第五世代MS）を誕生させる契機となった。その要望に応える形でアナハイム・エレクトロニクス（AE）社が開発したのがRGM-109 ヘビーガンである。だがAE上層部がMSの小型化に疑問を呈していたことから、RGM-109は同社のRGM-89をスケールダウンしたに留まる機体となってしまった。一部から「場当たり的な機体」と揶揄されたのはそのためである。

1 2 3標準武装としてビーム・ライフルとシールド、さらにサイドアーマーにグレネード・ラックを装備する。グレネード弾は投擲するだけでなく、自力推進も可能であった。クロスボーン・バンガードのMS群が採用していたビーム・シールドは搭載されず、防御面では不安が残る。4 5ビーム・サーベルを持った手を高速回転させることで、即席のビーム・シールドを形成することができた。バグのように小型で多勢の敵に対しては有効な手段といえる。『機動戦士ガンダムF91』

[Spec] 頭頂高：15.8m 本体重量：9.5t ジェネレーター出力：2,870kW スラスター推力：82,260kg 装甲材質：ガンダリウム合金 武装：頭部バルカン砲×2／4連グレネード・ラック×2／ビーム・サーベル／ビーム・ライフル／シールド 搭乗者：ビルギット・ピリヨ他

Illustration by Kouji Sugiura / Color by Nagisa Abe / Special effect by Yutaka Hoshiba

F91 GUNDAM F91

【ガンダムF91／地球連邦軍】

サナリィの提言した、小型MS開発計画である「フォーミュラ計画」（F計画）によって開発された機体。F91は機体の小型化を実現しただけでなく、マルチプル・コンストラクション・アーマー（多機能装甲）構造＝MCA構造やバイオ・コンピューター、ヴェスバーなど、数々の新技術が搭載されたハイエンド機であった。そのため、同時代に運用されたクロスボーン・バンガードの小型MSに比べ、遥かに高い性能を持つが、量産化は考えられておらず、1機のみが開発された。

1 2 3 ビーム・ライフルやビーム・サーベルなど、F91の携行兵装は従来の汎用MSに準じているかのように見えるが、それぞれに専用設計であるF91に合わせた調整がされていた。また、標準的な武装であっても、機体の汎用性の高さゆえに驚異的な戦闘力を発揮することが可能であった。4 5 地球連邦軍のMSとしては初となるビーム・シールドを標準装備している。左腕部に1基搭載するのが普通だが、F91では両腕に装備している。『機動戦士ガンダムF91』

[Spec] 頭頂高：15.2m　本体重量：7.8t　ジェネレーター出力：4,250kW　スラスター推力：88,400kg　装甲材質：ガンダリウム合金セラミック複合材　武装：頭部バルカン砲×2／メガ・マシンキャノン×2／ビーム・サーベル×2／ヴェスバー×2／ビーム・シールド×2／ビーム・ライフル／ビーム・ランチャー　搭乗者：シーブック・アノー

Illustration by Atsushi Shigeta / Color&Special effect by Yuki

91

F91　GUNDAM　F91

【ガンダムF91／地球連邦軍】

F91に搭載されたバイオ・コンピューターは、機体操縦を補佐するだけでなく、性能を制限する機能もあった。このいわゆるリミッターを解除すると、フェイスガードと肩部放熱板、脚部スラスターが展開し、強制冷却を行いつつ最大限の性能を発揮することができた。この時、同時に金属剥離効果（MEtal Peal off Effect = M.E.P.E.）と呼ばれる現象が発生し、高機動により装甲の表面加工が剥げ落ちることで「残像」を生み出すことができた。この質量をもった「残像」が、敵の視覚とセンサーを混乱させたのである。

1 2 F91の背面に2基装備されたヴェスバーは、敵のビーム・シールドを貫通するほどの威力を誇った。3 4 5 リミッター解除されたF91は、異常に発生する熱を機体外に放出するため装甲の一部が開放される。さらに、限界を超えて発揮される高機動性能のため金属剥離効果が発生し、質量を持った残像による「分身」が可能となる。これにより、圧倒的な機動性と火力を誇るクロスボーン・バンガードのラフレシアを翻弄し、撃破することに成功している。『機動戦士ガンダムF91』

〔Spec〕 頭頂高：15.2m　本体重量：7.8t　ジェネレーター出力：4,250kW　スラスター推力：88,400kg　装甲材質：ガンダリウム合金セラミック複合材　武装：頭部バルカン砲×2／メガ・マシンキャノン×2／ビーム・サーベル×2／ヴェスバー×2／ビーム・シールド×2／ビーム・ライフル／ビーム・ランチャー　搭乗者：シーブック・アノー

Illustration by Atsushi Shigeta / Color&Special effect by Yuki

XM-01 DEN'AN-ZON

【デナン・ゾン／クロスボーン・バンガード】

クロスボーン・バンガードが独自に開発した主力MS。デナン・タイプと呼ばれるMS系列の最初の機体で、先進的なコンセプトはMS開発の方向性に一石を投じた。MSの小型化に先鞭を付けた機体構造と、クロスボーン・バンガードの戦略プランを反映した接近戦重視の兵装は、旧態依然とした連邦軍MSを圧倒するものであった。それが、コスモ・バビロニア建国戦争におけるクロスボーン・バンガードの快進撃を支える原動力となったのである。

1

2

3

4

5

1 2 3主兵装となるショット・ランサーは、接近戦を主軸にしたクロスボーン・バンガードの基本戦術を反映した武装といえる。小型化され、運動性・機動性において格段に優れた性能を持つクロスボーン・バンガードの尖兵たちの前に、地球連邦軍の旧式化したジェガンは役に立たなかった。4 5ビーム・シールドを標準装備しており、ビーム兵器に対する防御力が飛躍的に向上している。ビームの放射範囲を切り替えることも可能で、射撃のために一部分だけビーム・シールドを展開しないという使い方もできた。『機動戦士ガンダムF91』

[Spec] 頭頂高：14.0m 本体重量：7.9t ジェネレーター出力：3,880kW スラスター推力：52,190kg 装甲材質：チタン合金ハイセラミック複合材 武装：ショット・ランサー（ヘビー・マシンガン×2内蔵）／デュアルビーム・ガン／ビーム・サーベル／ビーム・シールド 搭乗者：不明

Illustration by Morifumi Naka / Color by Takako Suzuki / Special effect by Kumiko Taniguchi

XM-05 BERGA-GIROS

【ベルガ・ギロス／クロスボーン・バンガード】

XM-04 ベルガ・ダラスをベースに最小限の設計変更による性能向上が図られた、クロスボーン・バンガード（CV）の指揮官用MS。シェルフ・ノズルやショット・ランサー、ヘビー・マシンガンの増設のほか、頭部の両サイドにセンサーが追加されるなど総合的な能力向上が施された。戦闘大隊隊長に与えられることが多い機体で、「黒の部隊」隊長ザビーネ・シャル中尉機が特に有名である。部隊色の黒で塗装されたシャル機はコスモ・バビロニア建国戦争終盤の3月30日、フロンティアI内の戦闘にも投入されたが、左腕部を失い後退している。

1 2格闘戦と射撃の両方をこなす、主兵装のショット・ランサー。3 4 5指揮官機として開発されたベルガ・ギロスは、同系機であるベルガ・ダラスとともに最前線で活躍した。「黒の部隊」を指揮するザビーネ・シャル機が有名だが、他の機体カラーも存在する。指揮官機ならではの特徴としては、背面にビーム・フラッグとよばれる大隊識別用の特殊装備を持っていたことが挙げられる。戦場で敢えて目立つようにするなど、いかにも貴族的な発想ではあるが、戦場における士気高揚には役立ったに違いない。『機動戦士ガンダムF91』

〔Spec〕 頭頂高：15.7m　本体重量：9.1t　ジェネレーター出力：4,790kW　スラスター推力：98,170kg　装甲材質：チタン合金/ハイセラミック複合材　武装：ショット・ランサー（ヘビー・マシンガン×4）／ビーム・シールド×ビーム・サーベル×2／シェルフ・ノズル×8　搭乗者：ザビーネ・シャル

Illustration by Shino. Masanori / Color by Hiromi Miyawaki / Special effect by Takahiro Furukawa

XM-06 DAHGI-IRIS

【ダギ・イルス／クロスボーン・バンガード、地球連邦軍】

U.C.0120 年代初頭にクロスボーン・バンガード（CV）が開発した指揮官用偵察 MS。偵察機が必要とする高度な情報処理能力を小型 MS のフレーム内に収めた高性能機であり、CV 部隊においては敵陣への長距離・強行偵察を担った。本機を中心とする偵察戦隊の働きにより、CV はコスモ・バビロニア建国戦争の緒戦を制し、物量に勝る地球連邦軍を圧倒した。その点に鑑みても、本機は高度に細分化された CV の戦術を体現した MS なのである。

①②偵察用の各種センサーを有効に機能させるため、電磁干渉の多いビーム・シールドではなく装甲式シールドを採用する。③余剰となったエネルギーは腹部に内蔵された 3 連拡散ビーム砲へと転用された。これにより、偵察用 MS でありながら当時の連邦軍正式採用機を圧倒する火力を獲得している。④⑤アンナマリー・ブルージュの機体は地球連邦軍へ投降後、機体色をイエロー系のものに変更して運用された。『機動戦士ガンダム F91』

[Spec] 頭頂高：15.0m　本体重量：9.7t　ジェネレーター出力：3,620kW　スラスター推力：99,990kg　装甲材質：チタン合金ハイセラミック複合材　武装：ビーム・ライフル／3 連装拡散ビーム砲／ビーム・サーベル／シールド　搭乗者：アンナマリー・ブルージュ 他

Illustration & Special effect by Atsushi Shigeta / Color by Yuki

XM-07 VIGNA-GHINA

【ビギナ・ギナ／クロスボーン・バンガード】

クロスボーン・バンガードが開発した高級士官用 MS。その開発意図に相応しく、デナン系やベルガ系の設計思想をさらに１ランク発展させた技術が導入されている。ガンダム F91 と並ぶコスモ・バビロニア建国戦争期における最高峰の汎用 MS で、戦乱の首謀者・ロナ家の象徴になることを期待されたベラ・ロナ（セシリー・フェアチャイルド）の乗機となる。だが、彼女は大人たちの思惑を外れてコスモ・バビロニアと袂を分かち、この白い MS は暴走するコスモ貴族主義に弓引く存在となったのである。

1 2 3 接近戦をその基本戦術にしているクロスボーン・バンガードの他機種と異なり、ビギナ・ギナは標準的なビーム・ライフルを装備している。本機は指揮官機として開発されたが、コスモ貴族主義の象徴的 MS としてベラ・ロナが搭乗することとなった。4 5 本機最大の特徴であるフィン・ノズルは、背面に 8 基の可変式スラスターを装備している点にある。これは「シェルフ・ノズル」の設計思想を発展させたもので、ノズルそれ自体の AMBAC（アンバック）によって高い機動性を発揮する。『機動戦士ガンダム F91』

〔Spec〕 頭頂高：15.8m　本体重量：8.9t　ジェネレーター出力：4,790kW　スラスター推力：99,720kg　装甲材質：チタン合金/ハイセラミック複合材　武装：ビーム・ライフル/ビーム・シールド/ビーム・サーベル×２/ビーム・ランチャー　搭乗者：ベラ・ロナ（セシリー・フェアチャイルド）

Illustration by Atsushi Shigeta / Color & Special effect by Yuki

XMA-01 LAFRESSIA

【ラフレシア／クロスボーン・バンガード】

人の意志や能力の拡大に可能性を見い出し、一心にその頂を目指したカロッゾ・ロナ。彼の研究はクロスボーン・バンガードという力を得ることで「ラフレシア・プロジェクト」へと進化し、その成果のひとつとしてXMA-01 ラフレシアを生み出すに至った。サイコミュによって制御されるこの巨大 MA は、核となる強化人間の意志を忠実に反映し、手動操作の必要なしに無数の兵装を運用する兵器であった。それは同時に、クロスボーン・バンガードの活動を隠れ蓑にしてプロジェクトを推進したカロッゾ――鉄仮面を中心とした戦闘システムが顕在化したものに他ならない。「コスモ貴族主義」によって歪められたひとりの男の理想と独走が、宇宙に禍々しく咲き誇る大輪の花を育んだのである。

1サイコミュ制御によって敵機を自動追尾するテンタクラー・ロッドは、自律機能を有していたとされる。先端部にはビーム砲の他、チェーンソーも備えられていた。2機体各部に合計 22 基ものメガ粒子砲を装備することで、圧倒的な火力を誇る。3コクピットは全天周モニターではなく、半球状のキャノピーで覆われただものであった。機体制御のすべてをサイコミュに依存し、機体制御には鉄仮面の意思がダイレクトに反映された。『機動戦士ガンダム F91』

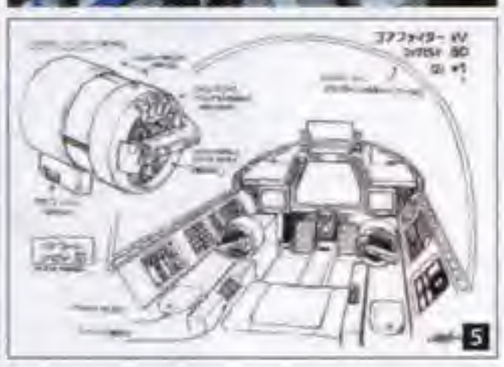
〔Spec〕 頭頂高：37.5m　本体重量：184.6t　ジェネレーター出力：31,650kW　スラスター推力：1,054,850kg　装甲材質：チタン合金ハイセラミック複合材　武装：メガ粒子砲×5／メガビーム・キャノン×5／ビーム・キャノン×4／拡散ビーム砲×8／テンタクラー・ロッド×125／対ビーム・バリヤー　搭乗者：鉄仮面（カロッゾ・ロナ）

Illustration by Seiichi Nakatani / Color by Reiko Iwasawa / Special effect by Masayuki Hiraoka

LM312V04 VICTORY GUNDAM

【ヴィクトリーガンダム／リガ・ミリティア】

民間軍事組織リガ・ミリティアが、伝説の白い MS「ガンダム」を模して開発したマルチプル MS。コア・ファイターを中心に、トップ・リム（ハンガー）とボトム・リム（ブーツ）から構成される。10 人程度の人員で運用が可能である一方、ベスパの新鋭 MS と同等の性能も併せ持つ、革新的な機体である。ヨーロッパの秘密工場で 20 機分前後のパーツが生産されたほか、月での生産も行なわれた。



1 2 MS 時に頭部及び胸部となるコア・ファイターを中心に、胸部と腰部のハンガー、脚部のブーツから構成される。3 汎用性の高いビーム・ライフルの他、ビーム・サーベルやビーム・シールドを装備する。ビーム・シールド発生装置は両腕の肘部分に設置されている。4 V ガンダムは当初から量産化を念頭に開発された機体で、ガンダム・タイプ MS には珍しく複数機が実戦投入されている。5 コクピットはコア・ファイターを使用する都合上、戦闘機型の専用コクピットとなっている。『機動戦士 V ガンダム』

[Spec] 頭頂高：15.2m　本体重量：7.6t　ジェネレーター出力：4,780kW　スラスター推力：79,700kg　装甲材質：ガンダリウム合金スーパーセラミック複合材　武装：ビーム・サーベル×4／バルカン砲×2／ビーム・ライフル／ビーム・シールド×2 他　搭乗者：ウッソ・エヴィン／マーベット・フィンガーハット 他

Illustration by Shino, Masanori / Color by Hiromi Miyawaki / Special effect by Takayuki Furukawa

LM312V06+SD-VB03A
VICTORY DASH GUNDAM HEXA

【V ダッシュ・ガンダムヘキサ／リガ・ミリティア】

LM312V04 V（ヴィクトリー）ガンダムの指揮官用バリエーションである LM312V06 V ガンダムヘキサに、オーバー・ハング・パック（ダッシュ・パック）を装備した性能強化機。ヴィクトリー・タイプ MS の汎用性にオーバー・ハング・パックの火力と機動力が加わった本機は、ベース機を上回る作戦遂行能力を獲得した。当初は指揮官機として運用されたが、戦争末期にはシュラク隊パイロットにも配備され、リガ・ミリティアの中核を担った。

1 2 背部にオーバー・ハング・パックを装着する以外、機体構造そのものに変更点は見られない。この増加装備は着脱も容易であり、極めて柔軟な運用が可能であった。「マルチプル MS」と呼ばれたヴィクトリー・タイプ MS の特徴を活かした装備と言える。3 4 5 ヴィクトリー・タイプ MS の量産が本格化したことで、本機はシュラク隊の主力機として配備されたが、激化する戦闘中で全機が撃墜される結果となった。『機動戦士 V ガンダム』

〔Spec〕 頭頂高：15.2m　本体重量：9.2t　ジェネレーター出力：4,970kW　スラスター推力：93,380kg　装甲材質：ガンダリウム合金スーパーセラミック複合材　武装：オーバー・ハング・キャノン（バルカン×2 搭載）／バルカン砲×2／ビーム・サーベル×4／ビーム・ライフル／ビーム・ガン／ビーム・スマート・ガン／ビーム・シールド×2　搭乗者：オリファー・イノエ 他

Illustration by Atsushi Shigeta / Color & Special effect by Yuki

LM314V21 VICTORY TWO GUNDAM

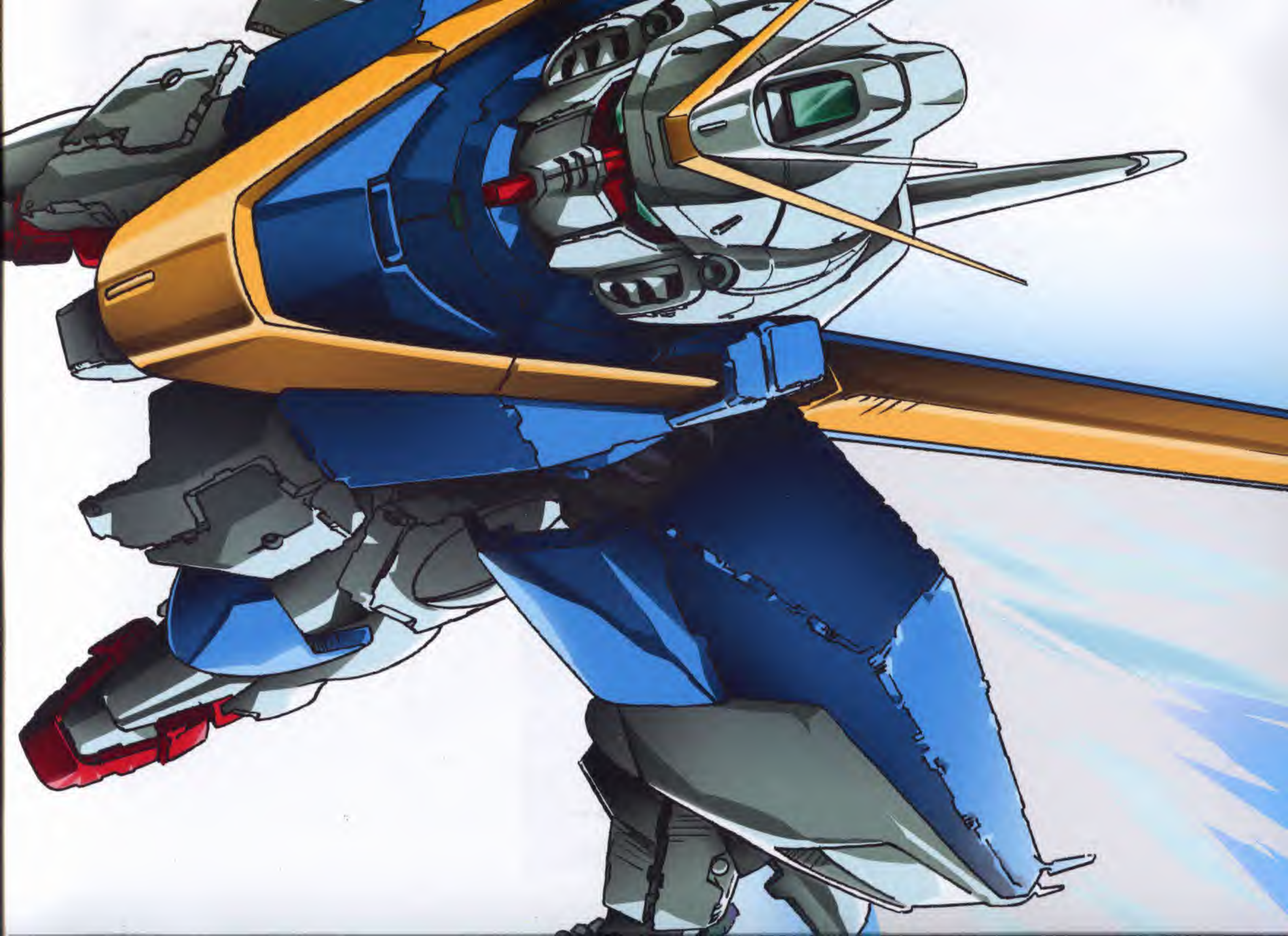
【V2ガンダム／リガ・ミリティア】

ミノフスキー・ドライブ——U.C.0150年代におけるミノフスキー工学の頂点とも言える画期的な推進装置を、MSとして初めて搭載した機体。それが、LM314V21 V2（ヴィクトリーツー）ガンダムである。LM312V04V（ヴィクトリー）ガンダムのコンセプトを受け継ぎ、ミノフスキー・ドライブを搭載した本機は、リガ・ミリティアの新たな象徴となるべく実戦投入され、「光の翼」の羽ばたきによって彼らを勝利へと導いたのである。

1 2 ヴィクトリー・タイプの基本構造を踏襲し、コア・ファイターを中心としたトップ・リム、ボトム・リムからなる合体・変形機構を持つ。3 4 武装はビーム・ライフルなど標準的な内容だったが、ミノフスキー・ドライブからの余剰エネルギーを武器としても転用可能であった。これはその見た目から「光の翼」と呼ばれた。5 コア・ファイターにはミノフスキー・ドライブ推進装置が搭載されたため、2機しか製造されなかった。『機動戦士Vガンダム』

〔Spec〕 頭頂高：15.5m　本体重量：11.5t　ジェネレーター出力：7,510kW　スラスター推力：66,790kg＋ミノフスキー・ドライブ×2　装甲材質：ガンダリウム合金スーパーセラミック複合材　武装：バルカン砲×2／ビーム・サーベル×4／マルチプルランチャー付ビーム・ライフル／ビーム・シールド×2／メガ・ビーム・ライフル／メガ・ビーム・シールド／投網型機雷　搭乗者：ウッソ・エヴィン／オリファー・イノエ

Illustration by Kouji Sugiura / Color and Special effect by Kouichi Iwanaga



LM314V23/24
V2 ASSAULT BUSTER GUNDAM

【V2アサルトバスターガンダム／リガ・ミリティア】

リガ・ミリティアが開発したLM314V21 V2（ヴィクトリーツー）ガンダムは、規格化されたオプションパーツの運用によって、戦況に応じて機体特性を変化させる能力を有していた。それらオプションパーツをすべて装備した形態がLM314V23/24 V2アサルトバスターガンダムである。アサルトの防御力とバスターの火力を兼ね備えたこの形態は、MSの範疇を超える戦闘力を発揮しうるポテンシャルを秘めていた。そして、それはザンスカール戦争末期の攻防戦でウッソ・エヴィンの手によって具現化され、リガ・ミリティアの勝利に貢献することになったのである。

1

3

4

2

5

1 2 エンジェル・ハイロゥでの戦闘に投入されたが、その運用期間は極端に短いものであった。しかし、単独で敵前線を突破し、その背後に展開するザンスカール帝国軍艦隊に大打撃を与えるなど、多大な戦果を挙げている。3 4 5 最大の攻撃力を誇るメガ・ビーム・キャノンをはじめとする大火力に加えて「光の翼」までも有し、さらにIフィールド発生器やメガ・ビーム・シールドなどの防御面でも鉄壁の装備を持つ。攻守ともに同時代における最強のMSであったと言える。『機動戦士Vガンダム』

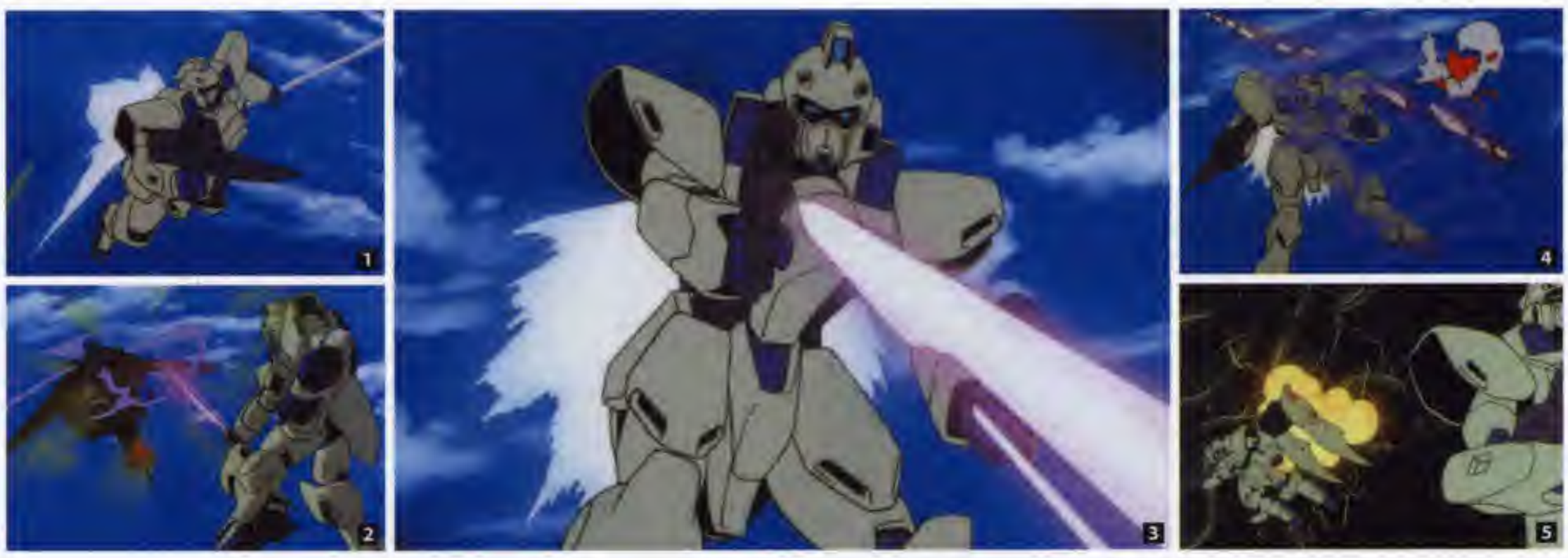
[Spec] 頭頂高：15.5m　本体重量：14.6t　ジェネレーター出力：7,510kW　スラスター推力：66,790kg +ミノフスキー・ドライブ×2　装甲材質：ガンダリウム合金スーパーセラミック複合材　武装：バルカン砲×2／ビーム・サーベル×4／ビーム・シールド×2／メガ・ビーム・キャノン／スプレー・ビーム・ポッド／メガ・ビーム・シールド／Iフィールド発生器×2／ヴェスバー×2／メガ・ビーム・ライフル／マイクロ・ミサイル・ポッド×6／ビーム・ライフル　搭乗者：ウッソ・エヴィン

Illustration by Kouji Sugiura / Color and Special effect by Kouichi Iwanaga

LM111E02 GUN EZ

【ガンイージ／リガ・ミリティア】

リガ・ミリティアは象徴的な意味合いを持つMSとしてヴィクトリー・タイプを開発する一方、それと並行して実利的な主力MSの生産を進めた。それがLM111E02 ガンイージである。本機の設計においては、汎用機としての運用性と生産性が重視され、結果として地球連邦軍の制式MSを凌駕する総合性能を獲得した。そして、その性能を駆使した本機はリガ・ミリティアの戦力整備に大きく貢献し、抵抗線の一端を担ったのである。



1 2 3 4生産性を優先したため、ヴィクトリー・タイプMSのような合体・変形機構の採用は見送られた。ビーム・ライフルなどスタンダードな武装が用意されたが、これらは先行生産されたヴィクトリー・タイプMSと共用可能であった。5バックパックごと交換することで、ブースター・パックを装備する高機動型ガンイージ、LM111E03 ガンブラスターへの換装も容易だった。『機動戦士Vガンダム』

[Spec] 頭頂高：14.9m 本体重量：7.6t ジェネレーター出力：4,820kW スラスター推力：81,840kg 装甲材質：ガンダリウム合金スーパーセラミック複合材 武装：バルカン砲×2／ビーム・サーベル／ビーム・シールド／ビーム・ライフル（ハンドガン併用）／ビーム・バズーカ／2連マルチ・ランチャー／オーバー・ハング・キャノン（バックパック部バルカン×2搭載）他 搭乗者：シュラク隊

Illustration by Atsushi Shigeta / Color and Special effect by Yuki

LM111E03 GUNBRASTER

【ガンブラスター／リガ・ミリティア】

リガ・ミリティアの汎用 MS、LM111E02 ガンイージに、増加推進器ユニット=ブースター・パックを装備した機動／運動性向上タイプ。ザンスカール帝国が投入する新型高性能 MS に対抗すべく開発された機体であり、推進力や機動／運動性の向上、稼働時間の延長がなされたことで、宇宙／重力下を問わずに優れた性能を発揮した。なお、ガンブラスターは強化型ガンイージと呼ばれることもあり、ガンブラスターとガンイージはブースター・パックの有無で名称と型式番号が変わっているだけで、基本的には同じ機体である。

1 2 3 4 5ガンイージにブースター・パックを装着した機体がガンブラスターとなるが、最初からガンブラスターとして製造された機体は若干カラーリングが異なる。基本的には宇宙での戦闘を視野に入れた機動力強化の増加装備だったが、大気圏内での性能アップも顕著だったため、各地での作戦でも大いに活躍をしている。ガンブラスターはシュラク隊やホワイトアークなどに配備され、ザンスカール帝国との戦いで各地を転戦した。『機動戦士Vガンダム』

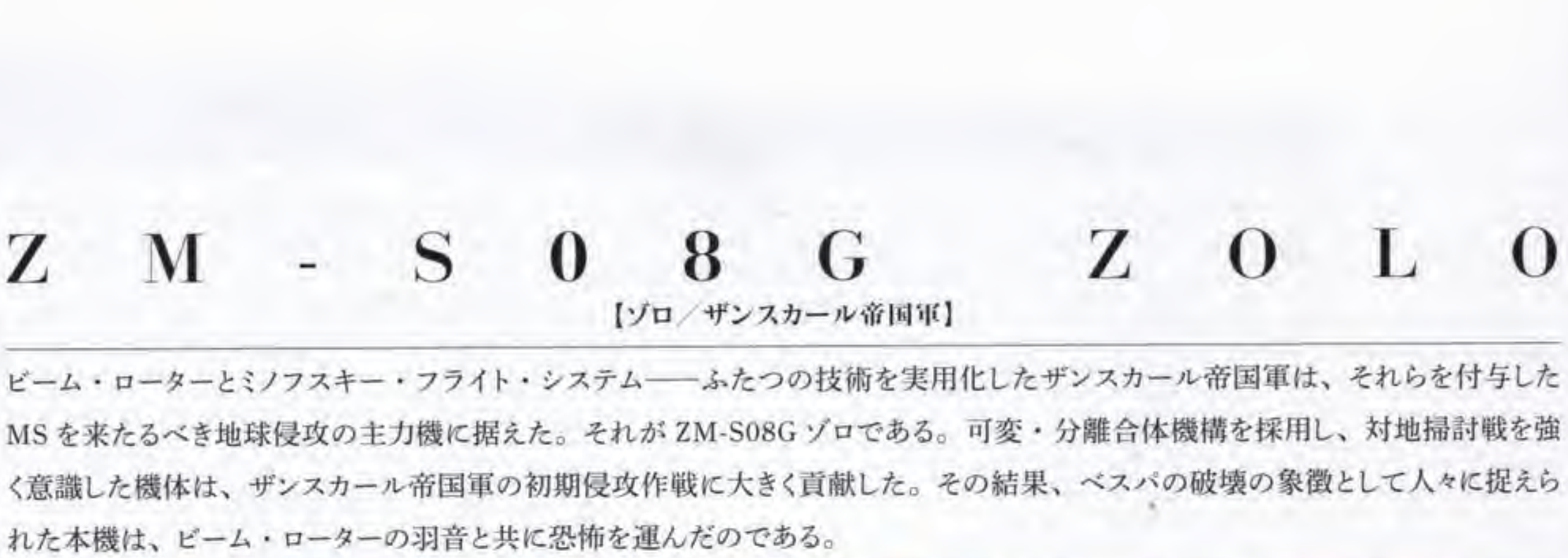
[Spec] 頭頂高：14.9m 本体重量：7.6t ジェネレーター出力：4,820kW スラスター推力：91,590kg 装甲材質：ガンダリウム合金スーパーセラミック複合材 武装：バルカン砲×2／ビーム・サーベル／ビーム・シールド／2連マルチ・ランチャー／ビーム・ライフル（ハンドガン併用）／スパイダーネット 搭乗者：シュラク隊／オデロ・ヘンリーク／トマーシュ・マサリク／ジュンコ・ジェンコ他

Illustration by Morifumi Naka / Color by Takako Suzuki / Special effect by Kumiko Taniguchi

ZM-S08G ZOLO

【ゾロ／ザンスカール帝国軍】

ビーム・ローターとミノフスキー・フライト・システム――ふたつの技術を実用化したザンスカール帝国軍は、それらを付与したMSを来たるべき地球侵攻の主力機に据えた。それがZM-S08Gゾロである。可変・分離合体機構を採用し、対地掃討戦を強く意識した機体は、ザンスカール帝国軍の初期侵攻作戦に大きく貢献した。その結果、ベスパの破壊の象徴として人々に捉えられた本機は、ビーム・ローターの羽音と共に恐怖を運んだのである。



1 2 3ゾロには多彩な携行兵器群が用意されており、ビーム・ライフルやガトリング・ガンのほか、マルチ・バズーカやビーム・バズーカといった大型火器も存在する。ワタリー・ギラ戦闘小隊は、機体ごとの役割に合わせて使用する携行兵器を選択し、高度な連携攻撃を行った。4大気圏内での飛行を実現したビーム・ローターは、シールドとしても機能した。5分離／変形機構を持ち、上半身はバルカン砲を備えたトップへり、下半身はボトム・ターミナルとなる。『機動戦士Vガンダム』

[Spec] 頭頂高：14.8m 本体重量：8.9t ジェネレーター出力：5,120kW スラスター推力：39,040kg 装甲材質：チタン合金セラミック複合体 武装：ビーム・サーベル×2／ビーム・ローターシールド／バルカン砲（トップ・ヘリ時のみ）／ビーム・ライフル／ビーム・バズーカ／マルチ・バズーカ／ガトリング・ガン／対地爆雷コンテナ／ミサイル・ポッド×2他 搭乗者：クロノクル・アシャー／ワタリー・ギラ他

Illustration by Atsushi Shigeta / Color & Special effect by Yuki

ZM-S08GC
ZOLO MAZIS TYPE

【ゾロ改／ザンスカール帝国軍】

ザンスカール帝国軍の地上用主力 MS である ZM-S08G ゾロをベースに索敵機能の強化を図った改修機。地球連邦軍との停戦協定を不服としてラゲーン基地から離脱したマチス・ワーカー大尉によって運用された。しかし本機は総合性能の底上げがなされておらず、戦争後期の時点で旧式化の著しいベース機の枠を超える機体ではなかった。その現実を示すかのように、本機はリガ・ミリティアの最新鋭 MS の前に膝を屈することになったのである。

1 2 ゾロからの改修点は頭部センサーに留まるため、パーツや武装も共通となっていた。オプション兵器も原型機と同様のものが使用できたが、実際の戦闘ではビーム・ライフルしか携行されなかった。3 4 分離・変形機構もゾロから受け継がれており、上半身（トップ・ヘリ）のみで戦闘を繰り広げる特殊な運用も可能であった。5 固定火器としてビーム・サーベルを備えており、対 V2 ガンダム戦では両腕にサーベルを保持して捨て身の戦闘を行っている。『機動戦士 V ガンダム』

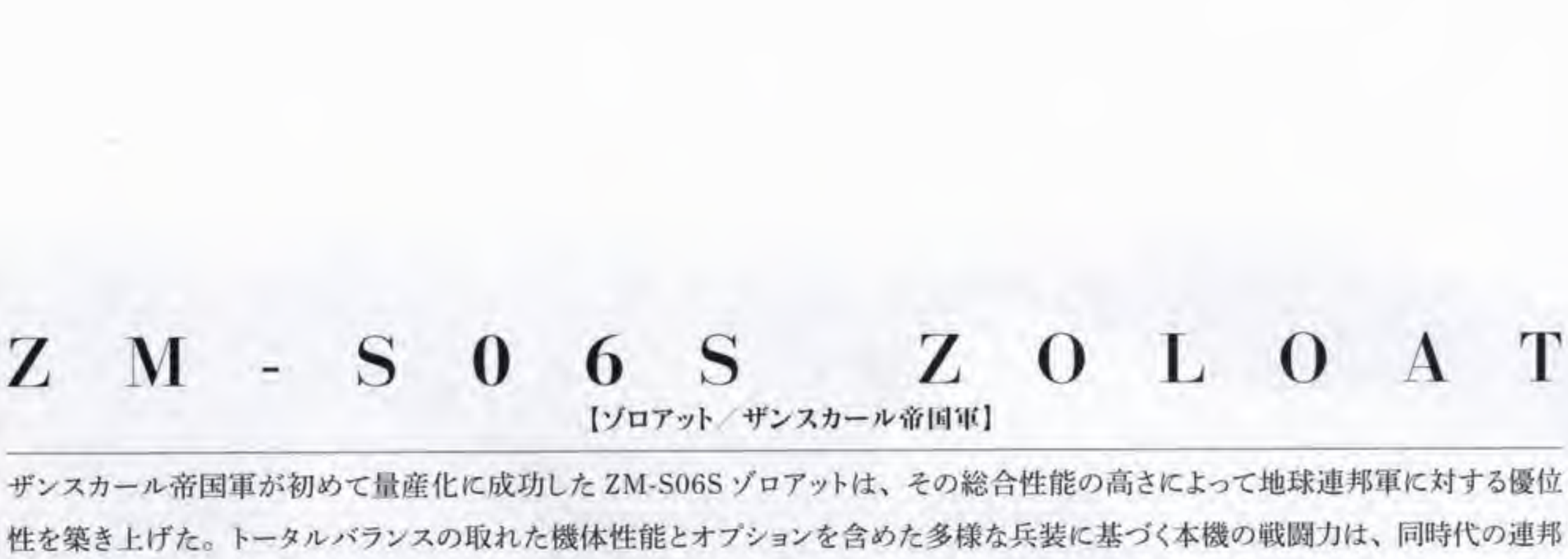
〔Spec〕 頭頂高：14.8m　本体重量：8.9t　ジェネレーター出力：5,120kW　スラスター推力：39,040kg　装甲材質：チタン合金ネオセラミック複合体　武装：ビーム・サーベル×2／ビーム・ローターシールド／バルカン砲（トップ・ヘリ時のみ）／ビーム・ライフル／ビーム・バズーカ／マルチ・バズーカ／ガトリング・ガン／対地爆雷コンテナ／ミサイル・ポッド×2他　搭乗者：マチス・ワーカー

Illustration by Kouji Sugiura / Color by Nagisa Abe / Special effect by ASAHI PRODUCTION

ZM-S06S ZOLOAT

【ゾロアット／ザンスカール帝国軍】

ザンスカール帝国軍が初めて量産化に成功したZM-S06Sゾロアットは、その総合性能の高さによって地球連邦軍に対する優位性を築き上げた。トータルバランスの取れた機体性能とオプションを含めた多様な兵装に基づく本機の戦闘力は、同時代の連邦軍が運用する旧式MSを圧倒するに足る力を発揮したのである。さらに本機が示した高い完成度は後続機の礎となり、ザンスカール帝国軍の版図拡大に貢献することになったのだった。



1 2宇宙での戦闘を想定した本機は、ビーム・ライフル、ビーム・サーベルを主武装とするだけでなく、補助兵器としてバルカン砲を用いることで高度な攻防を実現していた。3 4両肩内にはビーム・ストリングスが搭載されており、先端に錘状のパーツが付いたワイヤーを広範囲に展開することができる。ワイヤーからは高圧電流が流れる仕組みで、接触した敵機はダメージを受ける。5オプション兵器として、バックパックにビーム・キャノンを設置できた。『機動戦士Vガンダム』

[Spec] 頭頂高：14.5m 本体重量：8.2t ジェネレーター出力：5,280kW スラスター推力：79,230kg 装甲材質：チタン合金ネオセラミック複合材 武装：バルカン砲×2／ビーム・サーベル×2／ビーム・シールド／ビーム・キャノン×2／ビーム・ライフル／5連ビーム・ストリングス 搭乗者：トッリ・アーエス他

Illustration by Atsushi Shigeta / Color and Special effect by Yuki

ZM-S22S RIG-SHOKEW FOR IMPERIAL GUARD

【リグ・シャッコー（近衛師団仕様）／ザンスカール帝国軍】

強固な忠誠心をもって女王マリア・ピア・アーモニアを守護したザンスカール帝国軍近衛師団が専用 MS として運用したのが ZM-S22S 近衛師団用リグ・シャッコーである。本機は ZM-S22S リグ・シャッコーを改修することで性能向上を図ったカスタム機で、近衛師団の任務に即した多様な機能が追加された。そしてザンスカール帝国軍が総力戦を強いられた戦争末期、エンジェル・ハイロゥ攻防戦において実戦に参加することとなったのである。

1 2 対 MS 戦を想定した汎用 MS であり、ビーム・ライフル／ビーム・サーベルを用いた近〜中距離での攻防を得意とした。一般機用と同じオプション装備も使用できたようだ。3 4 右肩に装備されているメタルウィップは、フレキシブルな素材を用いた鞭状の格闘兵器であり、敵機を捕獲することができたほか、回転させてビームを防御する機構を備えていた。5 左肩の大型シールドは、先端にビーム・ガンを搭載しており、副兵装として用いられている。『機動戦士 V ガンダム』

[Spec] 頭頂高：15.9m 本体重量：8.2t ジェネレーター出力：5,960kW スラスター推力：77,700kg 装甲材質：バイチタン合金ネオセラミック複合材 武装：ビーム・サーベル×2／ビーム・ライフル／ビーム・ガン内蔵大型シールド／メタル・ウィップ／ビーム・ストリングス×3／ハンド・ビーム・ガン×2／ビーム・ファン×2／ハードポイント×4 搭乗者：キスハール・パグロット 他

Illustration by Morifumi Naka / Color by Nagisa Abe / Special effect by Hirofumi Yagi(ASAHI PRODUCTION)

ZM-S24G GEDLAV

【ゲドラフ／ザンスカール帝国軍】

ザンスカール帝国軍（ベスパ）が開発したZM-S24G ゲドラフは、サポート・マシン「アインラッド」との連携を前提とした特殊なコンセプトに基づいて開発された。同時代に開発されたMSよりもひとまわりダウンサイズされた機体や両腕に設置されたビーム・シールド発生デバイスは、すべてアインラッドとの連携を考慮した結果である。根本的には汎用MSに分類される本機だが、実際には特殊な運用法でその真価を発揮することになった。

1 2 3 4タイヤ兵器「アインラッド」に搭乗しての運用が基本となっていた。装備する兵器群も、アインラッドの併用を考慮されたものとなっており、ビーム・ライフルには円筒形の専用のタイプが用意された。また、ビーム・サーベルは大腿部の専用ラックに収納されている。5両腕部にはビーム・シールド発生器が備えられており、アインラッド運用時の弱点となるサイドからの攻撃を阻止できた。また、ビーム砲としても運用できる機能を有する。『機動戦士Vガンダム』

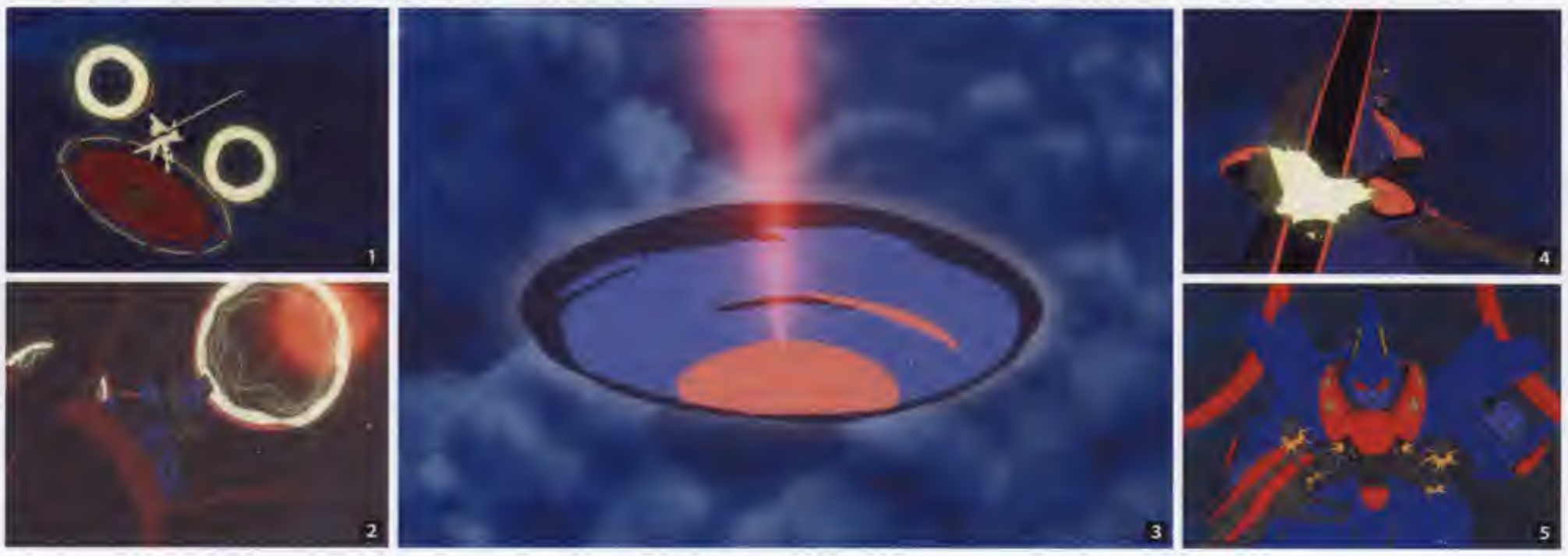
[Spec] 頭頂高：13.8m 本体重量：6.9t ジェネレーター出力：5,440kW スラスター推力：60,910kg 装甲材質：チタン合金ネオセラミック複合材 武装：ビーム・サーベル×2／ビーム・シールド×2／ビーム・ライフル 搭乗者：ルペ・シノ他

Illustration by Morifumi Naka / Color by Nagisa Abe / Special effect by ASAHI PRODUCTION

ZMT-S29 ZANNECK

【ザンネック／ザンスカール帝国軍】

ザンスカール帝国軍は、静止衛星軌道上に配した宇宙要塞カイラス・ギリーによって地球連邦政府に対する示威と恫喝を行なおうとした。その戦略思想と火力とをそのまま MS サイズに転用した機体――それが ZMT-S29 ザンネックである。成層圏から地表を直接狙撃できるほどの超長距離射撃能力を有する本機は、サイコミュ・システムの媒介となった鈴の音と共にリガ・ミリティアを震撼させ、その喉元に鋭利な刃を突き立てたのだった。



1 2 3圧倒的な火力を有するザンネック・キャノンを使用するには、専用の SFS（サブ・フライト・システム）であるザンネック・ベースに直立し、射撃体勢を取る必要があった。戦闘宙域のはるか遠方から敵部隊を狙い撃ち、一度に殲滅することを可能としている。つまり、敵機から目視できない位置からの砲撃を想定していた。4 5粒子加速器の内部に有したビーム砲、さらに胸部に備えたミサイル・ランチャーを用いることで、敵機の接近を阻止した。『機動戦士Ｖガンダム』

[Spec] 頭頂高：19.4m 本体重量：16.7t ジェネレーター出力：5,570kW × 2 スラスター推力：164,420kg 装甲材質：ハイチタン合金ネオセラミック複合材 武装：胸部ミサイル・ランチャー × 2 ／ザンネック・キャノン／ザンネック・ベース／ビーム・サーベル × 2 ／ビーム・シールド × 2 ／肩部粒子加速器 × 2 ／粒子加速器内蔵ビーム砲 搭乗者：ファラ・グリフォン 他

Illustration by Kouji Sugiura / Color and Special effect by Shiboko Nakayama

ZMT-S28S GENGAOZO

【ゲンガオゾ／ザンスカール帝国軍】

ザンスカール帝国軍のスーパーサイコ研究所が開発した試作 MS。バック・エンジン・ユニットに搭載された 5 基のマルチプル・ビーム・ランチャーにより高い火力を獲得し、さらにはユニット自体を MS から分離させてオールレンジ攻撃の端末とすることを可能とした。ザンスカール戦争末期のエンジェル・ハイロゥ攻防戦に実戦投入された本機は、ファラ・グリフォンの 3 番目の乗機となり、再び戦場に鈴の音を響かせることとなる。

1 2 3 バック・エンジン・ユニットに搭載された 3 連装マルチプル・ビーム・ランチャーは、収束・拡散という 2 パターンのビーム砲を射出することができた。また、ユニット自体を質量弾として敵 MS に突撃させることも可能である。4 5 標準装備として、球状のビーム放射束からトゲのようにビームが伸びた格闘兵器ビーム・メイス、中距離戦闘用の射撃兵器ビーム・ライフルを装備。バック・エンジン・ユニットとの連動により、多彩な戦闘が可能となっている。『機動戦士 V ガンダム』

〔Spec〕 最頂高：17.3m　本体重量：14.3t　ジェネレーター出力：6,310kW　スラスター推力：150,780kg　装甲材質：ハイチタン合金シオセラミック複合材　武装：ビーム・メイス×2／ビーム・シールド×2／ビーム・ライフル／マルチプル・ビーム・ランチャー×5　搭乗者：ファラ・グリフォン

Illustration & Special effect by Shino,Masanori / Color by Hiromi Miyawaki

ZMT-S33S GOTTRLATAN

【ゴトラタン／ザンスカール帝国軍】

ザンスカール帝国軍のスーパーサイコ研究所で開発が進められた試作 MS で、メガ・ビーム・キャノンの運用を前提としている。汎用 MS としての高い白兵戦性能と、ビーム・キャノン・ユニットを用いた砲戦能力を両立させた本機は、エンジェル・ハイロウ攻防戦に投入されてリガ・ミリティアの MS 部隊に大きな被害を与えた。その光景は、機体を操るカテジナ・ルースの狂気が戦場に咲かせた、血で彩られた大輪の花を見るようであった。

1 2 頭部のトサカに備えられたビーム・カッター、両腕に装備されたビーム・トンファーなど格闘兵装群が充実しており、その優れた機動性を活かしたスピーディーな白兵戦を可能としていた。
3 4 5 オプション兵器として、ミサイル・ランチャーやスラスターも搭載する複合ユニット「ビーム・キャノン・ユニット」が用意されている。これはユニット本体を頭部に覆い被せる形で使用する長射程砲で、戦艦を一撃で沈めるだけの破壊力を有していた。『機動戦士Vガンダム』

[Spec] 頭頂高：15.9m 本体重量：11.1t ジェネレーター出力：6,170kW スラスター推力：102,350kg 装甲材質：ハイチタン合金ネオセラミック複合材 武器：頭部ビーム・カッター／ビーム・トンファー×2／ビーム・シールド×2／メガビーム・キャノン／6連マイクロミサイルポッド×2／ハードポイント×2他 搭乗者：カテジナ・ルース

Illustration by Atsushi Shigeta / Color&Special effect by Yuki

ZMT-S34S RIG-CONTIO

【リグ・コンティオ／ザンスカール帝国軍】

ZM-S14S コンティオを下敷きに改良が加えられた、ザンスカール帝国軍（ベスパ）の試作 MS。同時期に開発されたベスパ製 MS には特殊な設計思想に基づくものが多いのに対し、本機は汎用性を失わずに武装強化を行ない、結果としてベース機を上回る総合性能を獲得した。その戦闘力は、ザンスカール戦争の最終局面であるエンジェル・ハイロゥ攻防戦で遺憾なく発揮され、ベスパ末期の MS として、帝国の壮烈な終幕を飾ることになった。

1 2 ビーム内蔵式ショット・クローは、メガ粒子砲による射撃のみならず、ユニット自体を分離して遠隔操作するオールレンジ攻撃も可能としていた。また、先端部にはビーム・サーベルも備えるなど、多彩な機能を有する。3 右肩に装備されたヴァリアブル・ビーム・ランチャーは大型艦艇を行動不能にするほどの破壊力を獲得していた。4 5 マニピュレーター部分にビーム・シールドを備え、機体を広範囲にカバーすることができた。『機動戦士 V ガンダム』

[Spec] 頭頂高：16.3m　本体重量：10.7t　ジェネレーター出力：6,500kW　スラスター推力：96,990kg　装甲材質：バイチタン合金ジオセラミック複合材　武装：ビーム内蔵式ショット・クロー／胸部ビーム砲×3／ビーム・シールド×2／ビーム・サーベル×2／ヴァリアブル・ビーム・ランチャー　搭乗者：クロノクル・アシャー

Illustration by Shino,Masanori / Color by Hiromi Miyawaki / Special effect by Takayuki Furukawa

MSZ-006-P2/3C
Z GUNDAM P2/3C TYPE

【Z ガンダム 3 号機 P2 型／カラバ】

アナハイム・エレクトロニクス社（AE）が開発し、カラバによって運用された MSZ-006-3 Z ガンダム 3 号機のバリエーション機のひとつで、「レッド・ゼータ」という通称を持つ機体が本機である。MSZ-006-3 をベースにサイコ・ニュートライザーと呼ばれるシステムを搭載したニュータイプ（NT）専用機として、大規模な仕様変更が施された。そして同系列のバリエーション 2 機と共に、カラバのチャクラ研究所に接近する可変 MA（TMA）ゲミヌスの迎撃作戦に投入された。

1 2 3 ビーム・ピストルやビーム・サーベルといったスタンダードな武装が施されているが、実際にどのような戦闘スタイルが想定されていたのかは不明点が多い。また、サイコ・ニュートライザーの特性を利用して、敵機のサイコミュ誘導を乗っ取ることも可能だった。4 本来の正規パイロットは薬物処理による後遺症でリタイヤしたといわれる。その正規パイロット「ジョニー」のかわりに抜擢されたのがユウリ・アジッサだった。5 Z ガンダム 3 号機には 3 機のバリエーションが確認されており、P2 型の他にもベース機に忠実な A 型、火力の増強に重点を置かれて改修された B 型がある。『GUNDAM EVOLVE.』

[Spec] 頭頂高：不明　重量：不明　ジェネレーター出力：不明　スラスター推力：不明　装甲材質：不明　武装：頭部バルカン × 2 ／ビーム・サーベル（ビーム・ガン兼用）× 2 ／ビーム・ピストル（ビーム・ナイフ兼用）× 2 ／シールド　搭乗者：ユウリ・アジッサ

CG WORKS by Takeshi Okawa(SUNRISE YAHARA STUDIO)

GUNDAM FACT FILE MECHANIC ILLUSTRATIONS

COSMIC 7 1

「収録作品」『機動戦士ガンダムSEED』『機動
『機動戦士ガンダムSEED C.E.73 -STAR

Vol.02

CE73

『動戦士ガンダムSEED DESTINY』
『GAZER−』『GUNDAM EVOLVE../14』

GAT-X105 STRIKE GUNDAM

【ストライクガンダム／地球連合軍】

地球連合軍に属する大西洋連邦が開発したストライクガンダムは、第1期GAT-Xシリーズにあたるmsである。本機は、ストライカーパックと呼ばれる特性の異なる3種のバックパックを有し、これらを戦況に応じて換装することで高い汎用性を獲得した。また、本機はヘリオポリスで開発された5機の「G」の中で唯一ザフト軍に奪取されず、アークエンジェル所属機となり、コーディネイターであるキラ・ヤマトの搭乗機として活躍している。

1

2

3

4

5

①初めての実戦では、バルカン砲塔システムとコンバットナイフのみでジンを撃破した。②続く戦いでは、砲撃戦用の「ランチャーストライカー」を装備して出撃。③メインで使われたのは中距離戦闘用の「エールストライカー」であり、数多くのMSを撃破した。④OSは未調整であったが、キラが搭乗後に即座に書き換え、操縦可能な状態となった。⑤格闘戦用の「ソードストライカー」装備時には、長尺の対艦刀でブリッツガンダムを撃破している。『機動戦士ガンダムSEED』

[Spec] 頭頂高：不明　本体重量：64.8t　ジェネレーター出力：不明　スラスター推力：不明　装甲材質：不明　武装：頭部75mm対空自動バルカン砲塔システム「イーゲルシュテルン」×2／コンバットナイフ「アーマーシュナイダー」×2／57mm高エネルギービームライフル／対ビームシールド／バズーカ　搭乗者：キラ・ヤマト／ムウ・ラ・フラガ

Illustration by Yoichi Ueda / Color by Reiko Iwasawa / Special effect by Masayuki Hiraoka

2006.5

ZGMF-X10A FREEDOM GUNDAM

【フリーダムガンダム／不明】

ザフトに所属するMS開発局「クラーク」「アジモフ」「ハインライン」が合同で製作した、超高機動型MSがフリーダムガンダムである。ニュートロンジャマーキャンセラーを搭載した本機は、動力に高出力を発揮する核エンジンを採用。駆動時間の延長や、複数火器の同時使用が可能となり、中でもマルチロックオンシステムを用いた全射撃兵器の一斉射は絶大な破壊力を有した。プラント本国で完成後、ラクス・クラインからキラ・ヤマトへと渡された機体は、C.E.（コズミック・イラ）71の戦乱を終結させる原動力となった。

1 2 高い攻撃力を持つルプス・ビームライフルやラケルタ・ビームサーベルを装備し、スタンダードな中距離戦闘でも、敵MSを圧倒した。3 フリーダムの最大の攻撃として、マルチロックオンシステムを用いた全火砲の一斉射がある（頭部の機関砲を除く）。これにより複数の敵MSを一度に撃破することができた。4 大型アームド・モジュール「ミーティア」とのドッキングも可能で、対要塞戦で使用された。5 マルチロックオンシステムを採用したコクピット。『機動戦士ガンダムSEED』

[Spec] 頭頂高：不明　本体重量：71.5t　ジェネレーター出力：8,826kW　スラスター推力：不明　装甲材質：不明　武装：MMI-GAU2 ピクウス 76mm 近接防御用機関砲×2／MA-M20 ルプス・ビームライフル／AMA-M01 ラケルタ・ビームサーベル×2／M100 バラエーナ・プラズマ収束ビーム砲×2／MMI-M15 クスィフィアス・レールガン×2／ラミネートアンチビームシールド　搭乗者：キラ・ヤマト

Illustration by Youichi Ueda / Color by Reiko Iwasawa / Special effect by Masayuki Hiraoka

GAT-X303 AEGIS GUNDAM

【イージスガンダム／ザフト】

大西洋連邦とモルゲンレーテ社が共同開発し、ヘリオポリスで建造されていた「G」の１機が、このイージスガンダムである。GAT-X300 系フレームを採用した本機は、巡行形態と握撃形態への変形機構を持ち、対艦戦をスムーズに行なえるのが特徴であった。また、頭部のセンサー類が強化されており、指揮官機としても運用できたのである。だが本機はザフトに奪取され、その後アスラン・ザラの乗機として地球軍に牙を剥いた。

1長銃身・大口径の高エネルギービームライフルを装備しており、中距離戦闘にも対応。2 3ビームサーベルは肘とつま先に装備されており、MA 形態でも使用できたほか、複数を同時に展開することも可能である。4 5 MA 形態は 2 種あり、高速巡航形態と、握撃形態と呼ばれる対艦戦用の形態を有する。握撃形態では腕部と脚部が 4 基の大型クローとして展開される。この状態では敵艦の捕獲が容易となり、ゼロ距離から複列位相エネルギー砲を放つことができた。『機動戦士ガンダム SEED』

[Spec] 頭頂高：不明　本体重量：79.6t　ジェネレーター出力：不明　スラスター推力：不明　装甲材質：不明　武装：75mm 対空自動バルカン砲塔システム「イーゲルシュテルン」×２／60mm 高エネルギービームライフル／ビームサーベル×２／対ビームコーティングシールド／腹部固定 580mm 複列位相エネルギー砲「スキュラ」　搭乗者：アスラン・ザラ

Illustration by Seiichi Nakatani / Color by Nagisa Abe / Special effect by ASAHI PRODUCTION

ZGMF-X09A JUSTICE GUNDAM

【ジャスティスガンダム／ザフト】

ニュートロンジャマーキャンセラーを搭載し、核動力を用いた稼動が実現したジャスティスガンダムは、ザフトが開発した高性能試作機シリーズ、ZGMF-X 系の 1 機である。同時期に開発されたフリーダムガンダムが多彩な射撃兵器を装備したタイプであったのに対し、本機はスラスター群と射撃兵器群を有する独立ユニット「ファトゥム -00」を用いたトリッキーな攻撃で敵機を翻弄、「第 2 次ヤキン・ドゥーエ攻防戦」などで活躍した。

1 2 ルプス・ビームサーベルとラケルタ・ビームサーベルが標準装備されている。ラケルタ・ビームサーベルは 2 基のグリップを連結した両刃状態「アンビデクストラス・ハルバード」となり、複数の敵と格闘戦を行えた。 3 4 多彩な火砲とスラスターを搭載した複合ユニット「ファトゥム -00」がジャスティス最大の特徴であり、本体から切り離して突撃させるなどトリッキーな運用が可能であった。 5 フリーダムと同じく大型アームド・モジュール「ミーティア」との接続が可能となっている。『機動戦士ガンダム SEED』

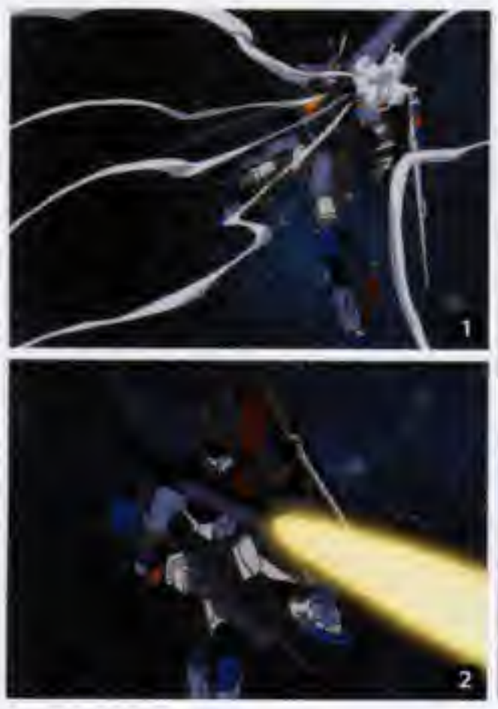
[Spec] 頭頂高：不明　本体重量：75.4t　ジェネレーター出力：不明　スラスター推力：不明　装甲材質：不明　武装：MMI-GAU1 サジットゥス・20mm 近接防御用機関砲×4／RQM51 バッセル・ビームブーメラン×2／MA-M20 ルプス・ビームライフル／MA-M01 ラケルタ・ビームサーベル×2／ラミネートアンチビームシールド／ファトゥム -00/MA-48 フォルティスビーム砲×2／M9M9 ケルフス旋回砲塔機関砲×2／GAU5 フォルクリス機関砲×4　搭乗者：アスラン・ザラ

Illustration by Hiroshi Arisawa / Color by Nagisa Abe / Special effect by Hirofumi Yagi(ASAHI PRODUCTION)

GAT-X102 DUEL GUNDAM ASSAULTSHROUD

【デュエルガンダム アサルトシュラウド／ザフト】

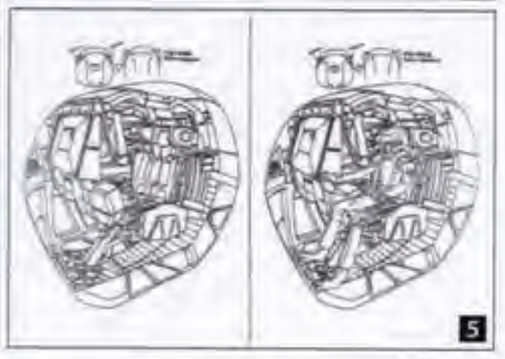
地球連合軍が開発した第1期GAT-Xシリーズに属するデュエルガンダムに、機体を奪取したザフトが強化装備「アサルトシュラウド」を中心に改良を加えたのが、このデュエルガンダム アサルトシュラウドである。偶然にも対立する勢力の技術力が融合することとなった本機は、ベース機の特徴であった高汎用性を活かしながら、機動力と攻撃力の大幅な向上を実現。第2次ヤキン・ドゥーエ攻防戦ではフォビドゥンガンダムを撃破する活躍を見せた。


1

2

3

4


5

1 2 ザフト製の増加装甲「アサルトシュラウド」に設置されたミサイルポットや115mmレールガンにより、遠距離からの砲撃を可能としている。3 アサルトシュラウド装着後も57mm高エネルギービームライフルとビームサーベルが主武装であり、敵機を仕留める際にはどちらかの武器を使用する機会が多かった。4 5 コクピットは第1期GAT-Xシリーズ共通のものを採用。機体を地球軍から奪取したイザーク本人によって、OSはその能力に合わせた最適化が行われた。『機動戦士ガンダム SEED』

[Spec] 頭頂高：不明　本体重量：103.47t　ジェネレーター出力：不明　スラスター推力：不明　装甲材質：不明　武装：75mm対空自動バルカン砲塔システム「イーゲルシュテルン」×2／175mmグレネードランチャー装備57mm高エネルギービームライフル／ビームサーベル×2／対ビームシールド／115mmレールガン「シヴァ」／220mm径5連装ミサイルポッド　搭乗者：イザーク・ジュール

Illustration by Hiroshi Arisawa / Color by Nagisa Abe / Special effect by Hirofumi Yagi(ASAHI PRODUCTION)

GAT-X103 BUSTER GUNDAM

【バスターガンダム／ザフト】

バスターガンダムは、地球連合軍に属する大西洋連邦が、オーブ連合首長国の半公営企業モルゲンレーテ社と提携して開発したMSである。汎用性の高いX100系のフレームを採用した本機は、ビーム用と実体弾用の2基の大型火砲を持つのが特徴で、後方からの砲撃支援を得意としていた。また、2種の大型火砲はジョイントさせることが可能で、戦艦すら一度の射撃で撃墜するほどの攻撃力を保持していたのである。だが機体は完成直後にザフトに奪取され、クルーゼ隊のMSパイロット、ディアッカ・エルスマンの乗機として運用される。その後、彼と共にアークエンジェルへと合流した機体は、第2次ヤキン・ドゥーエ攻防戦まで戦闘の最前線で戦い続けた。

1 2 3 4 5 6

1 2腰部のジョイントアームに設置された350mmガンランチャー／94mm高エネルギー収束火線ライフルが主武装であり、後方からの砲撃支援でその力を発揮した。3 4両火砲を連結して使用することでその攻撃力は向上し、戦艦を一度の射撃で破壊するエネルギーを獲得。火器の接続パターンは2種あり、どちらの火砲を砲口部とするかでその特性が変わる仕組みであった。5 6両肩の装甲内にはミサイルポッドを内蔵しており、拠点への爆撃などを可能としていた。『機動戦士ガンダムSEED』

[Spec] 頭頂高：不明　本体重量：84.2t　ジェネレーター出力：不明　スラスター推力：不明　装甲材質：不明　武装：350mmガンランチャー／94mm高エネルギー収束火線ライフル／220mm径6連装ミサイルポッド×2／対艦甲散弾砲（350mmガンランチャー［砲口部］+94mm高エネルギー収束火線ライフル）／超高インパルス長射程狙撃ライフル（94mm高エネルギー収束火線ライフル［砲口部］+350mmガンランチャー）　搭乗者：ディアッカ・エルスマン

Illustration by Seiichi Nakatani / Color by Nagisa Abe / Special effect by Hirofumi Yagi(ASAHI PRODUCTION)

GAT-X207 BLITZ GUNDAM

【ブリッツガンダム／ザフト】

レーダーでも目視でも確認できない場所から突如として現れ、敵機を撃破する――このような「電撃」的な攻撃を得意としたのが、このブリッツガンダムである。200 系フレームを採用していた本機は、電場により特殊粒子を固定するミラージュコロイドによって完全に姿を消すステルス性能を有していた。ヘリオポリスでの「G」奪取作戦で機体がザフトに渡った後も、パイロットのニコル・アマルフィが効果的にこの特性を活かし、戦場で活躍している。

1 2 3攻盾システム「トリケロス」は、ビームサーベルと 50mm 高エネルギービームライフル、槍状の実体弾を打ち出すランサーダートという 3 種の兵器がシールドと一体化しており、幅広い戦闘を可能とした。4ピアサーロックは有線式のクロー兵器で、搭載されたスラスターにより高速で敵機を捕獲・破壊することができた。5特殊機構としてミラージュコロイドを備えており、使用時は目視やレーダーによる機体の捕捉を困難とする優れたステルス性能を発揮した。『機動戦士ガンダム SEED』

〔Spec〕 頭頂高：不明　本体重量：73.5t　ジェネレーター出力：不明　スラスター推力：不明　装甲材質：不明　武装：攻盾システム「トリケロス」〔ビームサーベル、50mm 高エネルギービームライフル、3 連装超高速運動体貫徹弾「ランサーダート」〕／ピアサーロック「グレイプニール」／ミラージュコロイド　搭乗者：ニコル・アマルフィ

Illustration by Seiichi Nakatani / Color by Nagisa Abe / Special effect by Hirofumi Yagi(ASAHI PRODUCTION)

K.UEDA
2006.6

ZGMF-X13A PROVIDENCE GUNDAM

【プロヴィデンスガンダム／ザフト】

プロヴィデンスガンダムは、フリーダムガンダム、ジャスティスガンダムと同系統の ZGMF-X 系 MS として、急ピッチで開発された機体である。量子通信を用いた無線誘導兵器、ドラグーン・システムを背部に設置しているのが特徴で、計 11 基のユニットによる全方位攻撃を得意とした。コズミック・イラ（C.E.）71 の戦乱では、高い空間認識能力を持つラウ・ル・クルーゼの専用機として運用され、第 2 次ヤキン・ドゥーエ攻防戦に参加している。

1 2 3 背部に備えた円盤状のユニットが「ドラグーン・システム」であり、大小 11 基のスラスター付きビーム砲を、量子通信を用いて遠隔操作することができた。これにより、敵 MS や戦艦を包囲して攻撃するオールレンジ攻撃が可能となった。4 ユーキディウムビームライフルは、威力も絶大な大型火砲で、ドラグーンとの併用で大きな効果を発揮した。5 左腕部にはビームシールド発生装置とビーム砲が一体化された複合兵装防盾システムを備える。『機動戦士ガンダム SEED』

[Spec] 頭頂高：不明　本体重量：90.68t　ジェネレーター出力：不明　スラスター推力：不明　装甲材質：不明　武装：MMI-GAU2 ピクウス 76mm 近接防御用機関砲×4／MA-M221 ユーディキウムビームライフル／MA-V05A 複合兵装防盾システム／ドラグーン・システム（ビーム砲×43）　搭乗者：ラウ・ル・クルーゼ

Illustration by Youichi Ueda / Color by Reiko Iwasawa / Special effect by Masayuki Hiraoka

ZGMF-X56S IMPULSE GUNDAM

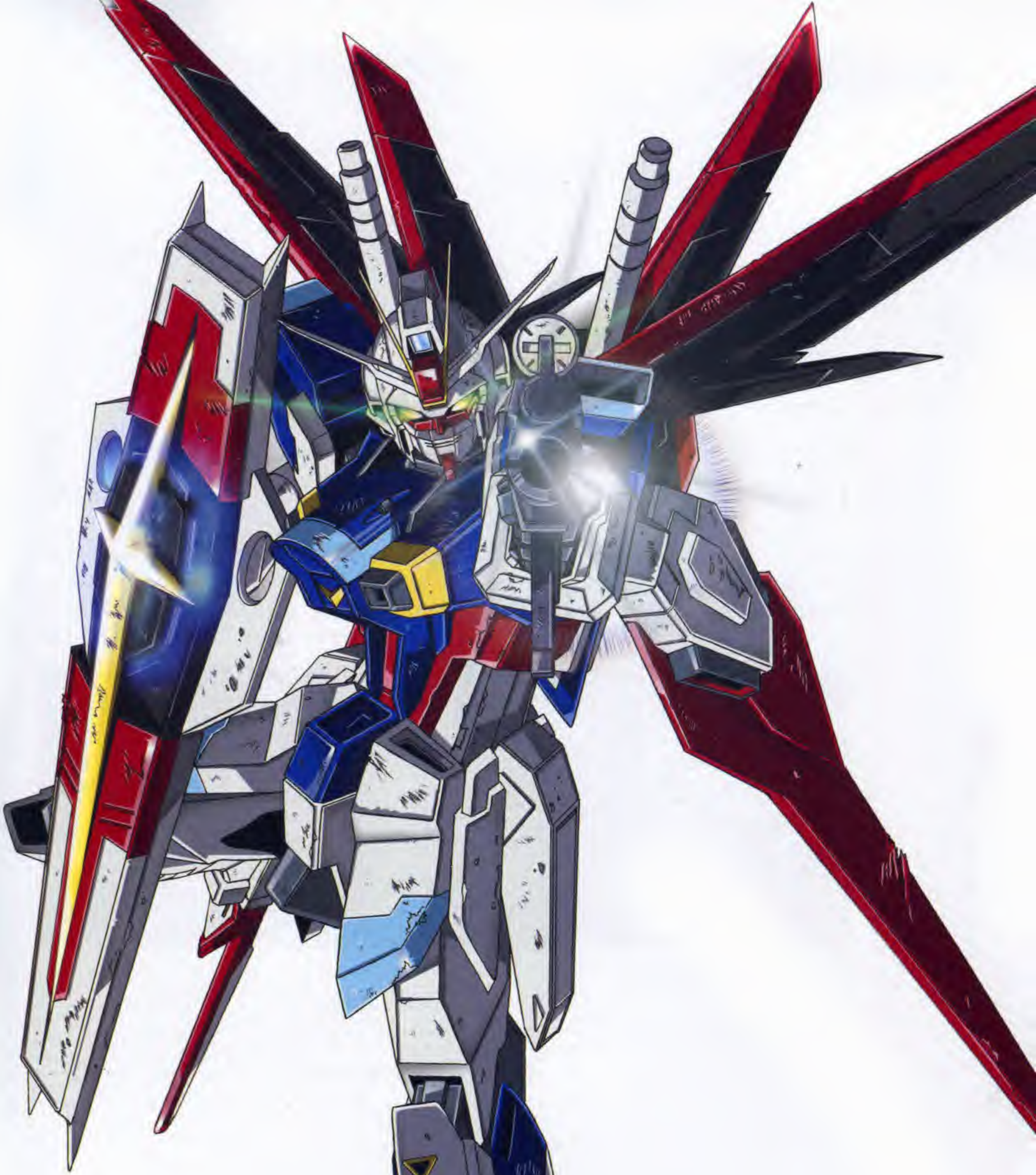
【インパルスガンダム／ザフト】

「IMPULSE =衝撃」の名を冠するザフト・セカンドステージシリーズ MS、ZGMF-X56S インパルスガンダムは、その名が示すとおりに多数の革新的な機能が導入された機体である。新進気鋭の MS として開発された本機は、ザフトの新たな象徴となるはずであった。しかし地球連合軍の予期せぬ襲撃により、他ならぬセカンドステージシリーズ同士の戦闘を演じることとなる。そして混迷を深める戦場において、その能力を遺憾なく発揮したのである。

①初出撃時は、格闘戦用のソードシルエットを装備し、ファントムペインの襲撃に対抗した。②ブラストシルエットは砲撃戦用でありながら、水上をホバー走行できる高い機動性を有するのが特徴。③ヴァジュラビームサーベルを装備した中距離戦闘用のフォースシルエットは、高エネルビームライフルとの併用で高い戦闘力を実現した。④合体・分離機構と共に搭載されたデュートリオンビーム送電システムを用いれば、母艦に帰還せずともエネルギー補給が可能。『機動戦士ガンダム SEED DESTINY』

〔Spec〕 頭頂高：不明　本体重量：63.54t　ジェネレーター出力：不明　スラスター推力：不明　装甲材質：不明　武装：MMI-GAU25A 20mmCIWS × 2 ／ M71-AAK フォールディングレイザー 対装甲ナイフ× 2 ／ MA-BAR72 高エネルギービームライフル／ MMI-RG59V 機動防盾　搭乗者：シン・アスカ／ルナマリア・ホーク 他

Illustration by Satoshi Shigeta / Color by Nagisa Abe / Special effect by Hirofumi Yagi(ASAHI PRODUCTION)



ZGMF-X42S DESTINY GUNDAM

【デスティニーガンダム／ザフト】

ミネルバ所属のパイロット、シン・アスカに託された機体で、文字通りザフトの「運命」を握っていたのがこのデスティニーガンダムである。核エンジンとデュートリオンビーム送電システムを併用したハイパーデュートリオンエンジンを搭載した本機は、その大出力を利用して多彩な兵器群を設置し、単体でも近～遠距離戦闘に対応した。また、ミラージュコロイドを応用した分身機構も備え、ザフト最高峰の機体として活躍したのである。

1巨大なビームソードは、デストロイガンダムの円盤状ユニットを破壊できた。2高エネルギー長射程ビーム砲は、エンジンからエネルギーを直接補給することで高い威力を実現。3掌部ビーム砲は、高出力ビームを瞬時に射出して敵MSを破壊できたほか、ビーム兵器を無効化することも可能だった。4 5ウイングパーツによって圧倒的な機動性能を獲得していたほか、最大加速時や推力増大時には光の翼が出現。さらに、ミラージュコロイドの展開による分身機構も有する。『機動戦士ガンダム SEED DESTINY』

[Spec] 頭頂高：不明　本体重量：79.44t　ジェネレーター出力：不明　スラスター推力：不明　装甲材質：不明　武装：MMA-GAU26 17.5mmCIWS × 4 ／ MX2351 ソリドゥス・フルゴール ビームシールド発生装置× 2 ／ RQM60F フラッシュエッジ 2 ビームブーメラン× 2 ／ MMI-714 アロンダイト ビームソード／ M2000GX 高エネルギー長射程ビーム砲／ MMI-X340 パルマ・フィオキーナ 掌部ビーム砲× 2 ／ MA-BAR73/S 高エネルギービームライフル／対ビームシールド　搭乗者：シン・アスカ

Illustration by Satoshi Shigeta / Color by Nagisa Abe / Special effect by Hirofumi Yagi(ASAHI PRODUCTION)

ZGMF-X23S SAVIOUR GUNDAM

【セイバーガンダム／ザフト】

ザフトのセカンドステージシリーズとして開発された5機の試作MSの中でも、空中戦においてその真価を発揮したのがセイバーガンダムである。戦闘機型のMA形態に変形できるほか、MS形態でもウイングの展開が可能な本機は、大気圏下での機動性に関して他機を圧倒する性能を誇っていた。加えてMA形態での戦闘力が極めて高くなっており、2種の形態を駆使した一撃離脱戦法を用いることであらゆる戦闘に対応したのである。

1

2

3

4

5

1 2 取り回しの良さと威力を共存させた高エネルギービームライフルや、アンビデクストラス・ハルバード形態に移行できるヴァジュラビームサーベルにより、MS形態での戦闘力も非常に優れる。3 4 飛行形態でも戦闘が可能であり、機首ユニットに備えた2種のビーム砲のほか、機関砲を搭載。さらに、高エネルギービームライフルも使用できた。5 セカンドステージシリーズ用に新たに開発されたコクピットを採用している。『機動戦士ガンダム SEED DESTINY』

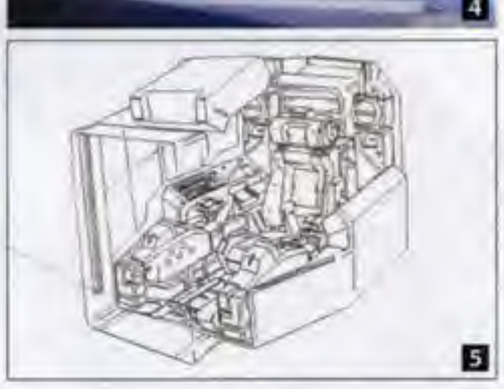
〔Spec〕 頭頂高：不明　本体重量：77.13t　ジェネレーター出力：不明　スラスター推力：不明　装甲材質：不明　武装：MMI-GAU25A 20mmCIWS × 2／MA-BAR70 高エネルギービームライフル／MA-M941 ヴァジュラビームサーベル× 2／M106 アムフォルタス プラズマ収束ビーム砲× 2／MA-78 スーパーフォルティス ビーム砲× 2／MMII-GAU2 ピクウス 76mm 機関砲× 2／MMI-RD11 空力防盾　搭乗者：アスラン・ザラ

Illustration by Seiichi Nakatani / Color by Nagisa Abe / Special effect by ASAHI PRODUCTION

ZGMF-1000/A1
GUNNER ZAKU WARRIOR

【ガナーザクウォーリア／ザフト】

ザフトがC.E.（コズミック・イラ）73に開発し、主力機として投入したザクウォーリアに、砲撃戦用装備「ガナーウィザード」を装着したのがこのガナーザクウォーリアである。緑の機体色の一般機と性能は同じだが、ザフトレッドのルナマリア・ホーク用に赤く塗装された本機は、機体の高汎用性と「ガナーウィザード」＝「オルトロス高エネルギー長射程ビーム砲」の砲撃力により、ミネルバの防衛に優れた能力を発揮した。



1 2 ザクウォーリアのパーソナルカラーバージョンであり、ルナマリア・ホーク用に赤く染められている。ザクウォーリアの標準装備はそのまま装備されており、格闘戦も可能である。3 4 ガナーウィザードは高エネルギー長射程ビーム砲とそのエネルギータンクで構成されており、砲撃支援に長けた仕様。母艦ミネルバを防衛するべく、その砲撃力を活かしている。5 一般兵士用に最適化されたニューミレニアムシリーズ用のコクピットを採用していた。『機動戦士ガンダム SEED DESTINY』

[Spec] 頭頂高：不明　本体重量：91.1t　ジェネレーター出力：不明　スラスター推力：不明　装甲材質：不明　武装：ガナーウィザード（M1500 オルトロス 高エネルギー長射程ビーム砲）／対ビームシールド／MA-M8 ビームトマホーク／ハンドグレネード（ZR20E 高性能炸裂弾）×4／MMI-M633 ビーム突撃銃　搭乗者：ルナマリア・ホーク

Illustration by Satoshi Shigeta / Color by Nagisa Abe / Special effect by Hirofumi Yagi(ASAHI PRODUCTION)

GFAS-XI DESTROY GUNDAM

【デストロイガンダム／地球連合軍】

デストロイガンダムは、地球連合軍がザフトを駆逐する切り札として製作した、エクステンデット（強化人間）専用機である。Gressorial Fortress Armament Strategic（=戦略装脚兵装要塞）にカテゴライズされる機動兵器で、バックパックを含むと全高は50mを超える超大型MSであった。その巨大な機体に多数搭載された強力な射撃兵装によってベルリンの街やヘブンズベースを破壊し、ザフトに大きな畏怖を与えたのである。

1 2 MS形態では、胸部の「1580mm複列位相エネルギー砲」や頭部の「200mmエネルギー砲」で敵拠点を焦土とした。3円盤状の背部武装ユニットが頭部に移行するMA形態（要塞形態）では、2連装の高エネルギー砲が使用可能となる。その破壊力は絶大で、目標物のみならずその周辺の建物や人間にも大きな被害を与えた。4兵装ユニットの外装部分には、20基の熱プラズマ複合砲を設置。5コクピットはエクステンデット用に最適化されている。『機動戦士ガンダムSEED DESTINY』

[Spec] 頭頂高：38.07m（全高56.3m） 本体重量：404.93t ジェネレーター出力：不明 スラスター推力：不明 装甲材質：不明 武装：75mm自動近接防御システム「イーゲルシュテルン」×4／高エネルギー砲 アウフプラール・ドライツェーン×2／熱プラズマ複合砲 ネフェルテム503×20／200mmエネルギー砲 ツォーンMk2／1580mm複列位相エネルギー砲 スーパースキュラ×3／Mk62 6連装多目的ミサイルランチャー×4／両腕部飛行型ビーム砲 シュトゥルムファウスト×2／MJ1703 5連装スプリットビームガン×2／陽電子リフレクタービームシールド シュナイドシュッツSX1021×3 搭乗者：ステラ・ルーシェ／スティング・オークレー他

Illustration by Seiichi Nakatani / Color by Nagisa Abe / Special effect by ASAHI PRODUCTION

ZGMF-X20A
STRIKE FREEDOM GUNDAM

【ストライクフリーダムガンダム／オーブ連合首長国】

フリーダムガンダムを失ったキラ・ヤマトの新たな力として、オーブ防衛戦から参戦した機体がストライクフリーダムガンダムである。クライン派の軍事基地・ファクトリーで開発された本機は、全方位攻撃が可能な「ドラグーン・システム」を新たに追加し、フリーダムを遥かに凌駕する火力を獲得していた。オーブ軍の主力として宇宙での戦闘にも参加すると、ザフトの軍事要塞・メサイアの陥落に大いに貢献したのである。

1 2 腹部の複相ビーム砲や腰部のレール砲をはじめ射撃兵器群は充実しており、ほぼすべての火器が敵機を破壊できるパワーを有する。3 マルチロックオンシステムも引き継がれ、複数の敵 MS を、火器の一斉射により一気に殲滅した。4 機動兵装ウイングと連動する「ドラグーン・システム」は、8 基のビーム突撃砲で構成されている。これらを用いたオールレンジ攻撃は敵を翻弄した。5 大型アームド・モジュール「ミーティア」とのドッキングにより要塞戦にも対応。『機動戦士ガンダム SEED DESTINY』

〔Spec〕 頭頂高：不明　本体重量：80.09t　ジェネレーター出力：不明　スラスター推力：不明　装甲材質：不明　武装：MMI-GAU27D 31mm 近接防御機関砲／MA-M21KF 高エネルギービームライフル×2／MGX-2235 カリドゥス 複相ビーム砲／MMI-M15E クスィフィアス 3 レール砲×2／MA-M02G シュペールラケルタ ビームサーベル×2／MX2200 ビームシールド×2／EQFU-3X スーパードラグーン 機動兵装ウイング×1／MA-80V ビーム突撃砲×8　搭乗者：キラ・ヤマト

Illustration by Satoshi Shigeta / Color by Hiroko Umezaki / Special effect by Hirofumi Yagi(ASAHI PRODUCTION)

ZGMF-X19A ∞ JUSTICE GUNDAM

【インフィニットジャスティスガンダム／オーブ連合首長国】

ザフトを離脱したアスラン・ザラが新たな「力」として用いた機体が、ジャスティスガンダムの発展形と言えるインフィニットジャスティスガンダムである。ラクス・クラインを信奉するクライン派の秘密工場「ファクトリー」にて開発が進められた本機は、格闘戦を重視したビーム兵器を機体各所に備えているほか、「ファトゥム -00」を改良した「ファトゥム -01」を背部に有し、より俊敏かつ正確に敵機を撃破することが可能となった。

1 2 ビームサーベルやビームカッター／ロケットアンカーを内蔵するビームキャリーシールドなど、優れた運動性を活かす兵器を装備し、大気圏内、宇宙双方で敵機を翻弄した。3 月面付近で行われた最終決戦では、デスティニーガンダムに格闘戦を仕掛け、行動不能に追い込んだ。4 複合ユニットであるファトム -01 は攻撃力が強化され、ユニットを分離して要塞や MS に突撃を仕掛ける運用が増えた。5 ミーティアとのドッキングにも対応する。『機動戦士ガンダム SEED DESTINY』

[Spec] 頭頂高：不明　本体重量：79.67t　ジェネレーター出力：不明　スラスター推力：不明　装甲材質：不明　武装：MMI-M19L 14mm2 連装近接防御機関砲×2／MMA-GAU26 17.5mmCIWS×4／MA-M1911 高エネルギービームライフル／MA-M02G シュペールラケルタ ビームサーベル×2／MR-Q15A グリフォン ビームブレイド×2／MX2002 ビームキャリーシールド ビームシールド発生装置／RQM55 シャイニングエッジ ビームブーメラン／EEQ8 グラップルスティンガー / ファトゥム -01 装備：MA-6J ハイパーフォルティス ビーム砲×2／MA-02S プレフィスラケルタ ビームサーベル×2／MR-Q17X グリフォン 2 ビームブレイド×2／MA-M02G シュペールラケルタ ビームサーベル×2　搭乗者：アスラン・ザラ

Illustration by Satoshi Shigeta / Color by Nagisa Abe / Special effect by Hirofumi Yagi

GSX-401FW STARGAZER GUNDAM

【スターゲイザーガンダム／深宇宙探査開発機構】

人類の居住地域を火星以遠にも拡大しようという「フロンティアの推進」を掲げ開発されたMSが、このスターゲイザーガンダムである。プラント、地球連合軍、中立国家群の共同出資による独立組織DSSD（深宇宙探査開発機構）が、「GSX-401FW スターゲイザー計画」の根幹として完成させたこの機体は、惑星間航行推進システム「ヴォワチュール・リュミエール」や無人での航行を行なえるAIユニットを搭載し、人類未踏の惑星を目指したのだった。

1 2「ヴォワチュール・リュミエール」のテスト運用時。周囲の空間構造にエネルギー干渉を行うため、リング状パーツの周囲には光輪が発生する。また、この光輪は攻撃にも転用できた。3専用の武装は開発されておらず、ファントムペイン襲撃時には、シビリアンアストレイDSSDカスタムのビームガンを用いた。4コクピットには自律型AI（自己対話型複列分散処理AI）ユニットが搭載されているが、有人のコクピットブロックに換装することも可能であった。『機動戦士ガンダム SEED DESTINY C.E.73-STARGAZER-』

[Spec] 頭頂高：18.94m 本体重量：76.22t（全備重量：83.59t） ジェネレーター出力：不明 スラスター推力：不明 装甲材質：不明 武装：ビームガンKSM71/J 搭乗者：ソル・リューネ・ランジュ／セレーネ・マクグリフ／AI

Illustration by Kunihiro Abe / Color by Nagisa Abe / Special effect by Hirofumi Yagi(ASAHI PRODUCTION)

GAT-X105E STRIKE NOIR GUNDAM

【ストライクノワールガンダム／地球連合軍（ファントムペイン）】

地球連合軍の非正規部隊、ファントムペイン（第 81 独立機動群）に所属するスウェン・カル・バヤンの搭乗機として、DSSD（深宇宙探査開発機構）トロヤステーション襲撃にも参加したのがストライクノワールである。GAT-X105 ストライクガンダムの派生機であった本機は、「ノワールストライカー」と呼ばれる中、近距離戦闘用のストライカーパックを標準装備し、その大幅に向上した格闘能力でスターゲイザーガンダムなどと激戦を行なった。

1 2「ノワールストライカー」に装備された 2 連装リニアガンやビームブレイドによって、格闘戦における戦闘の幅が増えたほか、その破壊力も高くなっていた。3 4原型機ストライクよりも固定火器群が増え、戦闘力が強化された。DSSD・トロヤステーション襲撃戦では、アンカーランチャーを駆使したトリッキーな動きで敵機を攪乱し、ビームライフルショーティーでとどめを刺した。5 OS は、人為的な強化を受けているスウェン用に改良・最適化されていた。『機動戦士ガンダム SEED DESTINY C.E.73-STARGAZER-』

〔Spec〕 頭頂高：不明（全高：17.72 m） 本体重量：64.8t（全備重量：90.51t） ジェネレーター出力：不明 スラスター推力：不明 装甲材質：不明 武装：M2M5 トーデスシュレッケン 12.5mm 自動近接防御火器×２／M8F-5B1 ビームライフルショーティー×２／EQS1358 アンカーランチャー×６／57mm 高エネルギービームライフル（175mm グレネードランチャー）×２／AQM/E-X09S ノワールストライカー（MAU-M3E4 2 連装リニアガン MR-Q10 フラガラッハ３ ビームブレイド×２）／（EQS1358 アンカーランチャー×８） 搭乗者：スウェン・カル・バヤン

Illustration by Kunihiro Abe / Color by Nagisa Abe / Special effect by Hirofumi Yagi(ASAHI PRODUCTION)

MUSYA GUNDAM

【武者頑駄無】

時は戦国乱世、光を背負って闇の者たちと戦う若武者がいた。その者の名は武者頑駄無（ガンダム）――武者七人衆を束ねる歴戦の侍である。類まれな武芸の腕を誇る彼は、剣や薙刀（なぎなた）だけでなく種子島も巧みに操った。さらに光の鎧の巻物の封印が解放された時、彼は光り輝く鎧をまとった最強の姿となるのである。だが巻き物の力は闇の者たちが欲するほど巨大であり、彼は巻物を巡る光と闇の戦いに身を投じることになるのだった。

1斬邪刀「武久丸」は下塁愚々の集団を残らず斬り伏せるほどの切れ味を誇る。2薙刀「頑張造」による必殺技「薙刀トルネード」は、頑張造を高速回転させて周囲の敵を吹き飛ばすものである。3 4「武久丸」と光の鎧心得が合体し、機体本体が吸収。そのことで、光の鎧を纏った頑駄無大将軍へと変貌。「武久丸」を用いた一撃必殺技「飛翔鳳翼斬」を放つことができた。5剣術を得意とする武者頑駄無だが、三射種子島での銃撃でも下塁愚々を撃破している。『EVOLVE./14（頑駄無 異歩流武ノ十四）武者頑駄無』

[Spec] 頭頂高：不明 本体重量：不明 ジェネレーター出力：不明 スラスター推力：不明 装甲材質：不明 武装：斬邪刀「武久丸」／薙刀「頑張造」／三射種子島／光の鎧 搭乗者：――

CG WORKS by Takeshi Okawa(SUNRISE YAHARA STUDIO)

【ガンダム・ファクトファイル表紙全集】

COVER COLLECTION

RX-178 GUNDAM Mk- Ⅱ

p.006-007

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 35 号
登場作品：『機動戦士 Z ガンダム』
イラスト：仲 盛文

RX-178 GUNDAM Mk- Ⅱ (TITANS Ver.)

p.008-009

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 128 号
登場作品：『機動戦士 Z ガンダム』
イラスト：杉浦幸次

RX-178+FXA-05D SUPER GUNDAM

p.010-011

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 68 号
登場作品：『機動戦士 Z ガンダム』
イラスト：中谷誠一

MSN-00100 HYAKUSHIKI

p.012-013

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 100 号
登場作品：『機動戦士 Z ガンダム』
イラスト：仲 盛文

MSZ-006 Z GUNDAM

p.014-015

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 13 号
登場作品：『機動戦士 Z ガンダム』
イラスト：仲 盛文

RMS-099 RICK DIAS

p.016-017

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 8 号
登場作品：『機動戦士 Z ガンダム』
イラスト：重田敦司

MSA-005 METHUSS

p.018-019

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 45 号
登場作品：『機動戦士 Z ガンダム』
イラスト：重田敦司

RMS-106
HIZACK
p.020-021

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第48号
登場作品：『機動戦士Zガンダム』
イラスト：箕 雅律

RMS-108
MARASAI
p.022-023

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第34号
登場作品：『機動戦士Zガンダム』
イラスト：杉浦幸次

ORX-005
GAPLANT
p.024-025

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第15号
登場作品：『機動戦士Zガンダム』
イラスト：重田敦司

MRX-009
PSYCHO GUNDAM
p.026-027

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第36号
登場作品：『機動戦士Zガンダム』
イラスト：重田敦司

MRX-010
PSYCHO GUNDAM
Mk- Ⅱ
p.028-029

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第77号
登場作品：『機動戦士Zガンダム』
イラスト：津野田勝敏

RX-110
GABTHLEY
p.030-031

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第58号
登場作品：『機動戦士Zガンダム』
イラスト：津野田勝敏

NRX-055
BAUND DOC
p.032-033

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第106号
登場作品：『機動戦士Zガンダム』
イラスト：重田敦司

RX-139
HAMBRABI
p.034-035

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第69号
登場作品：『機動戦士Zガンダム』
イラスト：箕 雅律

PMX-000
MESSALA

p.036-037

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 7 号
登場作品：『機動戦士 Z ガンダム』
イラスト：重田敦司

PMX-001
PALACE-ATHENE

p.038-039

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 93 号
登場作品：『機動戦士 Z ガンダム』
イラスト：藪 雅律

PMS-003
THE O

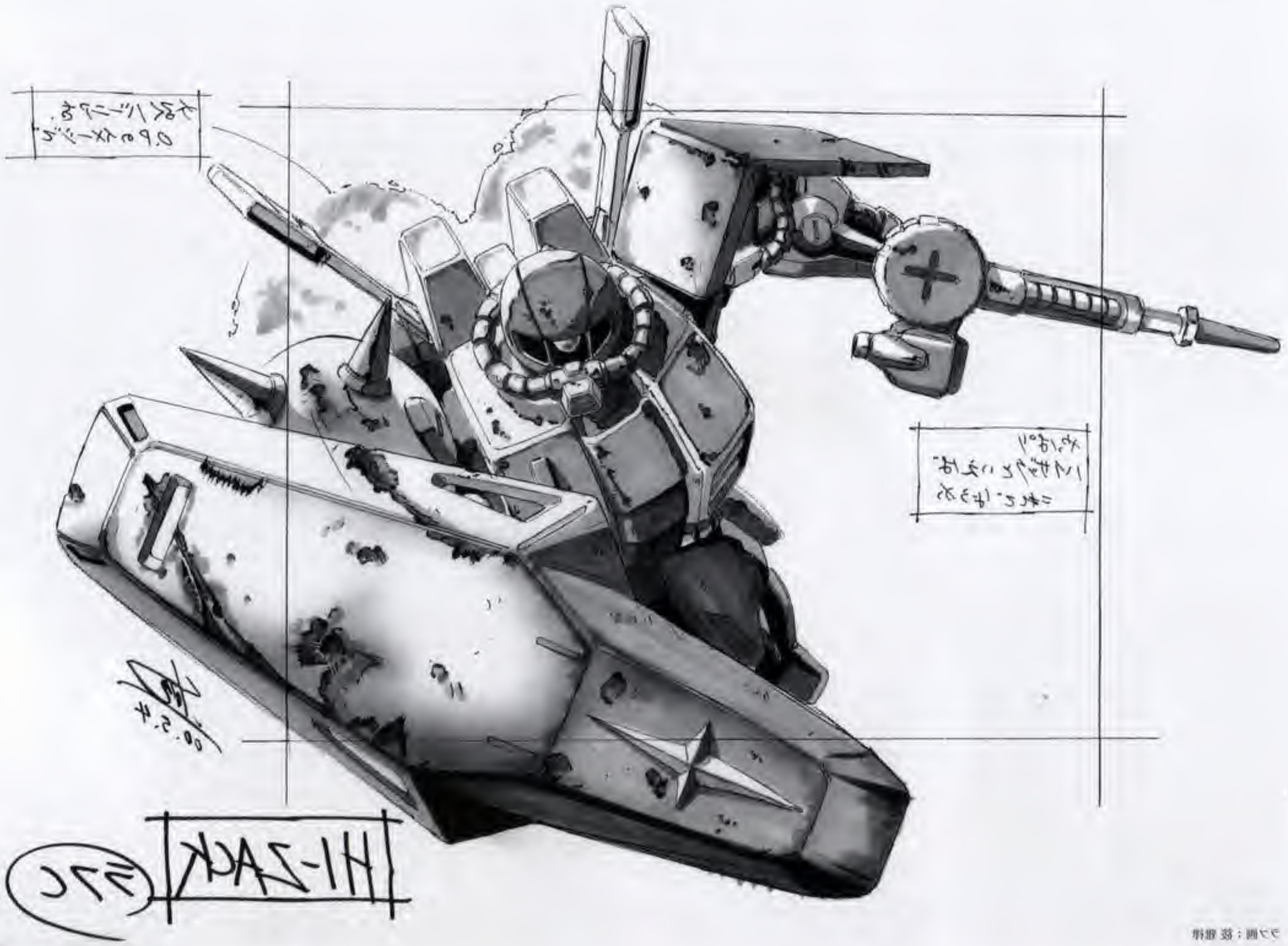
p.040-041

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 114 号
登場作品：『機動戦士 Z ガンダム』
イラスト：藪 雅律

RMS-117
GALBALDY β

p.042-043

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 102 号
登場作品：『機動戦士 Z ガンダム』
イラスト：藪 雅律



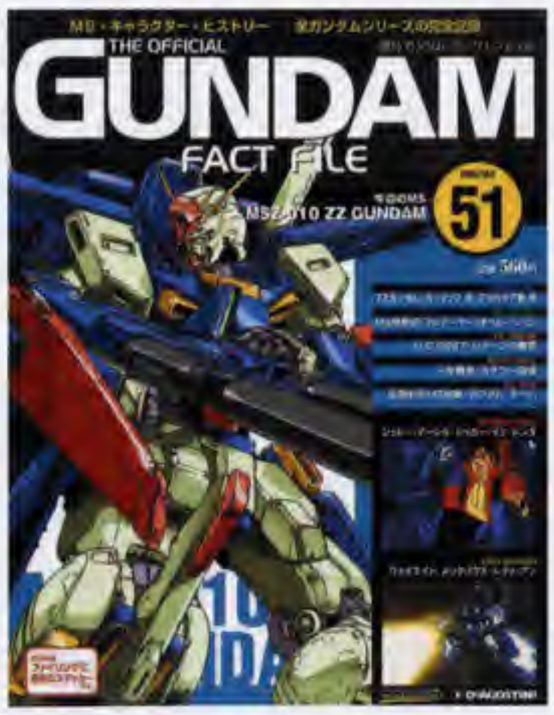
NRX-044
ASSHIMAR
p.044-045

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第46号
登場作品：『機動戦士Zガンダム』
イラスト：仲 盛文

AMX-004
QUBELEY
p.046-047

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第21号
登場作品：『機動戦士Zガンダム』
イラスト：仲 盛文

MSZ-010
ZZ GUNDAM
p.048-049



初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第51号
登場作品：『機動戦士ガンダムZZ』
イラスト：重田敦司

FA-010S
FULL-ARMOR ZZ
GUNDAM
p.050-051

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第91号
登場作品：『機動戦士ガンダムZZ』
イラスト：重田敦司

AMX-004-2
QUBELEY Mk- Ⅱ
p.052-053

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第49号
登場作品：『機動戦士ガンダムZZ』
イラスト：津野田勝敏

AMX-004G
MASS-PRODUCED
QUBELEY
p.054-055

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第126号
登場作品：『機動戦士ガンダムZZ』
イラスト：杉浦幸次

AMX-006
GAZA D
p.056-057

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第116号
登場作品：『機動戦士ガンダムZZ』
イラスト：杉浦幸次

AMX-009
DREISSEN
p.058-059

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第118号
登場作品：『機動戦士ガンダムZZ』
イラスト：津野田勝敏

AMX-011
ZAKU Ⅲ

p.060-061

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 73 号
登場作品：『機動戦士ガンダム ZZ』
イラスト：中谷誠一

MAX-011S
ZAKU Ⅲ CUSTOM

p.062-063

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 122 号
登場作品：『機動戦士ガンダム ZZ』
イラスト：津野田勝敏

AMX-014
DOOBEN-WOLF

p.064-065

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 38 号
登場作品：『機動戦士ガンダム ZZ』
イラスト：笹 雅律

AMX-015
GEYMALK

p.066-067

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 87 号
登場作品：『機動戦士ガンダム ZZ』
イラスト：笹 雅律

AMX-102
ZSSA

p.068-069

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 132 号
登場作品：『機動戦士ガンダム ZZ』
イラスト：重田敦司

AMX-103
HAMMA-HAMMA

p.070-071

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 26 号
登場作品：『機動戦士ガンダム ZZ』
イラスト：笹 雅律

AMX-104
R-JARJA

p.072-073

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 67 号
登場作品：『機動戦士ガンダム ZZ』
イラスト：中谷誠一

AMX-107
BAWOO

p.074-075

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 12 号
登場作品：『機動戦士ガンダム ZZ』
イラスト：重田敦司

NZ-000
QUIN-MANTHA
p.076-077

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 108 号
登場作品：『機動戦士ガンダム ZZ』
イラスト：杉浦幸次

RGZ-91
Re-GZ
p.078-079

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 30 号
登場作品：『機動戦士ガンダム 逆襲のシャア』
イラスト：綾 雅律

RX-93
v GUNDAM
p.080-081

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 5 号
登場作品：『機動戦士ガンダム 逆襲のシャア』
イラスト：重田敦司

RGM-89
JEGAN
p.082-083

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 39 号
登場作品：『機動戦士ガンダム 逆襲のシャア』
イラスト：綾 雅律

AMS-119
GEARA-DOGA
p.084-085

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 14 号
登場作品：『機動戦士ガンダム 逆襲のシャア』
イラスト：綾 雅律

MSN-03
JAGD DOGA
p.086-087

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 27 号
登場作品：『機動戦士ガンダム 逆襲のシャア』
イラスト：仲 盛文

MSN-04
SAZABI
p.088-089

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 50 号
登場作品：『機動戦士ガンダム 逆襲のシャア』
イラスト：綾 雅律

NZ-333
α -AZIERU
p.090-091

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 56 号
登場作品：『機動戦士ガンダム 逆襲のシャア』
イラスト：綾 雅律

HOBBY HIZACK

p.092-093

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 142 号
登場作品：『機動戦士ガンダム 逆襲のシャア』
イラスト：重田 智

RGM-109 HEAVY-GUN

p.094-095

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 140 号
登場作品：『機動戦士ガンダム F91』
イラスト：杉浦幸次

F91 GUNDAM F91

p.096-097 ／ p.098-099

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 28 号
登場作品：『機動戦士ガンダム F91』
イラスト：重田敦司

XM-01 DE' NAN-ZON

p.100-101

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 54 号
登場作品：『機動戦士ガンダム F91』
イラスト：仲 盛文

XM-05 BERGA-GIROS

p.102-103

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 16 号
登場作品：『機動戦士ガンダム F91』
イラスト：筱 雅律

XM-06 DAHGI-IRIS

p.104-105

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 81 号
登場作品：『機動戦士ガンダム F91』
イラスト：重田敦司

XM-07 VIGNA-GHINA

p.106-107

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 32 号
登場作品：『機動戦士ガンダム F91』
イラスト：重田敦司

XMA-01 LAFRESSIA

p.108-109

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 59 号
登場作品：『機動戦士ガンダム F91』
イラスト：中谷誠一

LM312V04
VICTORY GUNDAM
p.110-111

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第17号
登場作品：『機動戦士Vガンダム』
イラスト：彼 雅律

LM312V06+VB03A
VICTORY DASH
GUNDAM HEXA
p.112-113

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第144号
登場作品：『機動戦士Vガンダム』
イラスト：重田敦司

LM314V21
VICTORY TWO
GUNDAM
p.114-115

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第74号
登場作品：『機動戦士Vガンダム』
イラスト：杉浦幸次

LM314V23/24 V2
ASSAULT BUSTER
GUNDAM
p.116-117

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第104号
登場作品：『機動戦士Vガンダム』
イラスト：杉浦幸次

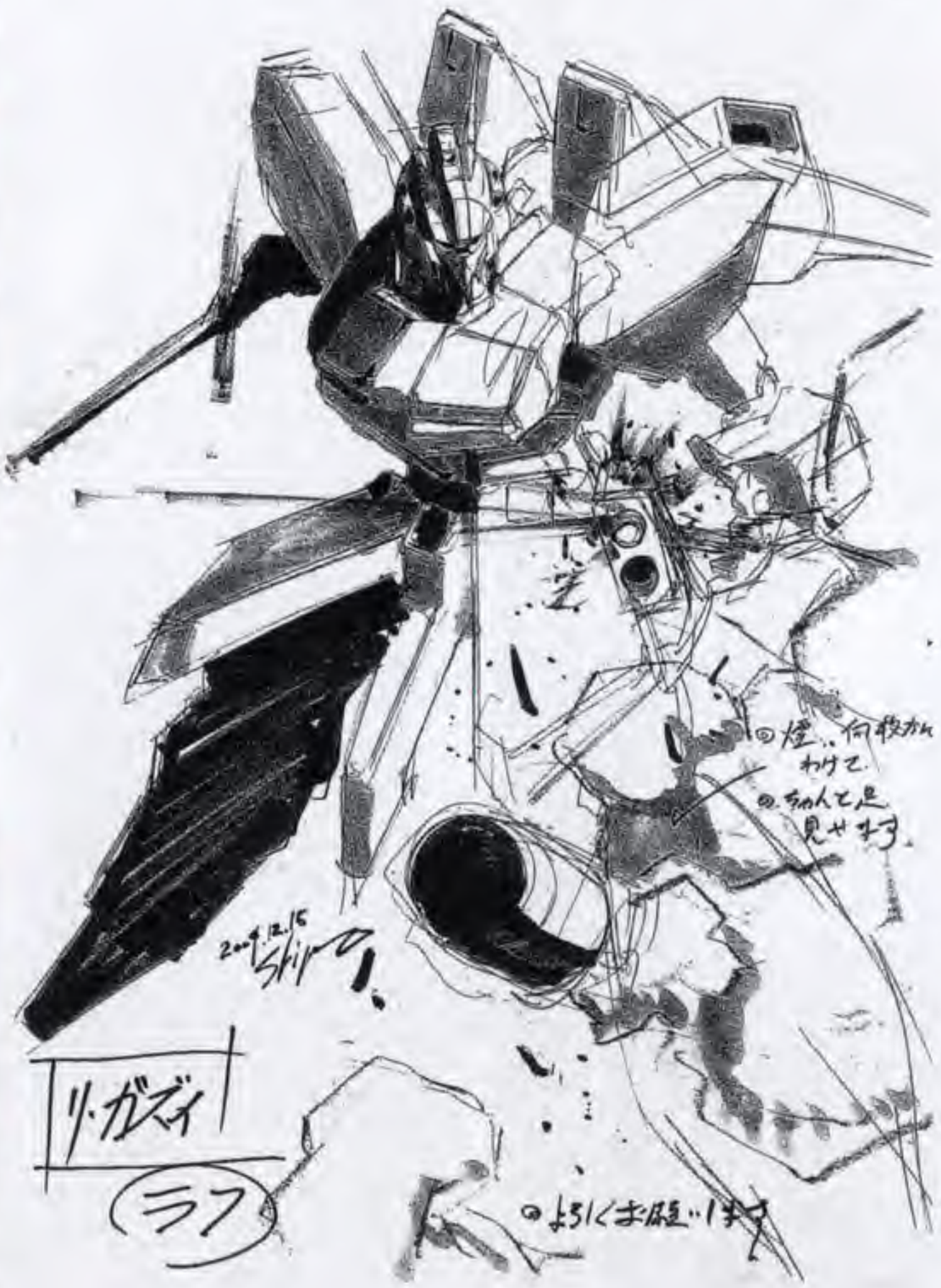
LM111E02
GUN EZ
p.118-119

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第110号
登場作品：『機動戦士Vガンダム』
イラスト：重田敦司

LM111E03
GUNBRASTER
p.120-121

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第20号
登場作品：『機動戦士Vガンダム』
イラスト：仲 盛文

ラフ画：彼 雅律



ZM-S08G
ZOLO

p.122-123

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 47 号
登場作品：『機動戦士 V ガンダム』
イラスト：重田敦司

ZM-S08GC
ZOLO MAZIS TYPE

p.124-125

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 136 号
登場作品：『機動戦士 V ガンダム』
イラスト：杉浦幸次

ZM-S06S
ZOLOAT

p.126-127

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 70 号
登場作品：『機動戦士 V ガンダム』
イラスト：重田敦司

ZM-S22S
RIG-SHOKEW for IMPERIAL GUARD

p.128-129

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 146 号
登場作品：『機動戦士 V ガンダム』
イラスト：仲 盛文

ZM-S24G
GEDLAV

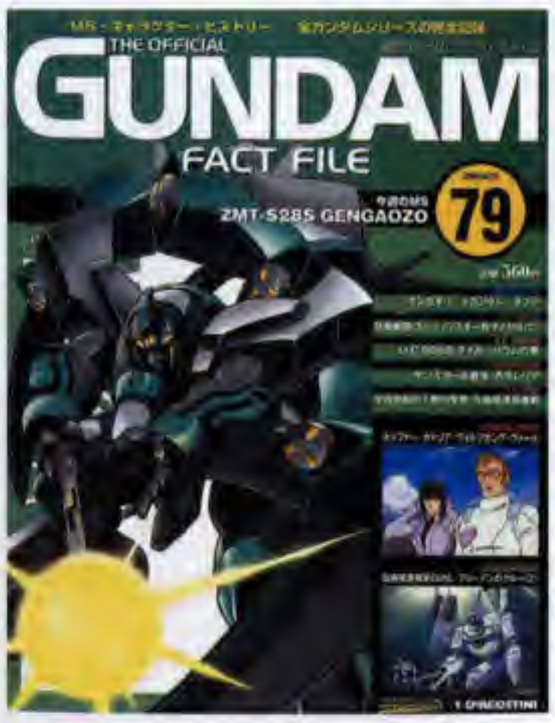
p.130-131

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 112 号
登場作品：『機動戦士 V ガンダム』
イラスト：仲 盛文

ZMT-S29
ZANNECK

p.132-133

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 66 号
登場作品：『機動戦士 V ガンダム』
イラスト：杉浦幸次



ZMT-S28S
GENGAOZO

p.134-135

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 79 号
登場作品：『機動戦士 V ガンダム』
イラスト：薮 雅律

ZMT-S33S
GOTTRLATAN

p.136-137

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 40 号
登場作品：『機動戦士 V ガンダム』
イラスト：重田敦司

ZMT-S34S
RIG-CONTIO

p.138-139

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 55 号
登場作品：『機動戦士 V ガンダム』
イラスト：荻 雅律

MSZ-006-P2/3C
Z GUNDAM
P2/3C TYPE

p.140-141

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 138 号
登場作品：『EVOLVE../9 MSZ-006 Z-GUNDAM』
CG イラスト：大川 威

GAT-X105
STRIKE GUNDAM

p.144-145

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 90 号
登場作品：『機動戦士ガンダム SEED』
イラスト：植田洋一

ZGMF-X10A
FREEDOM GUNDAM

p.146-147

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 99 号
登場作品：『機動戦士ガンダム SEED』
イラスト：植田洋一

GAT-X303
AEGIS GUNDAM

p.148-149

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 109 号
登場作品：『機動戦士ガンダム SEED』
イラスト：中谷誠一

ZGMF-X09A
JUSTICE GUNDAM

p.150-151

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 133 号
登場作品：『機動戦士ガンダム SEED』
イラスト：有澤 寛

GAT-X102
DUEL GUNDAM
ASSAULTSHROUD

p.152-153

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 127 号
登場作品：『機動戦士ガンダム SEED』
イラスト：有澤 寛

GAT-X103
BUSTER GUNDAM

p.154-155

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 123 号
登場作品：『機動戦士ガンダム SEED』
イラスト：中谷誠一

GAT-X207 BLITZ GUNDAM

p.156-157

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 113 号
登場作品：『機動戦士ガンダム SEED』
イラスト：中谷誠一

ZGMF-X13A PROVIDENCE GUNDAM

p.158-159

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 105 号
登場作品：『機動戦士ガンダム SEED』
イラスト：植田洋一

ZGMF-X56S IMPULSE GUNDAM

p.160-161

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 78 号
登場作品：『機動戦士ガンダム SEED DESTINY』
イラスト：重田 智

ZGMF-X42S DESTINY GUNDAM

p.162-163

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 147 号
登場作品：『機動戦士ガンダム SEED DESTINY』
イラスト：重田 智

ZGMF-X23S SAVIOUR GUNDAM

p.164-165

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 117 号
登場作品：『機動戦士ガンダム SEED DESTINY』
イラスト：中谷誠一

ZGMF-1000/A1 GUNNER ZAKU WARRIOR (LUNAMARIA HAWKE CUSTOM)

p.166-167

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 129 号
登場作品：『機動戦士ガンダム SEED DESTINY』
イラスト：重田 智

GFAS-X1 DESTROY GUNDAM

p.168-169

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 86 号
登場作品：『機動戦士ガンダム SEED DESTINY』
イラスト：中谷誠一

ZGMF-X20A STRIKE FREEDOM GUNDAM

p.170-171

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 149 号
登場作品：『機動戦士ガンダム SEED DESTINY』
イラスト：重田 智

ZGMF-X19A
∞ JUSTICE GUNDAM

p.172-173

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 139 号
登場作品：『機動戦士ガンダム SEED DESTINY』
イラスト：重田 智

GSX-401FW
STARGAZER GUNDAM

p.174-175

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 135 号
登場作品：『機動戦士ガンダム SEED
C.E.73 – STARGAZER –』
イラスト：阿部邦博

GAT-X105E
STRIKE NOIR GUNDAM

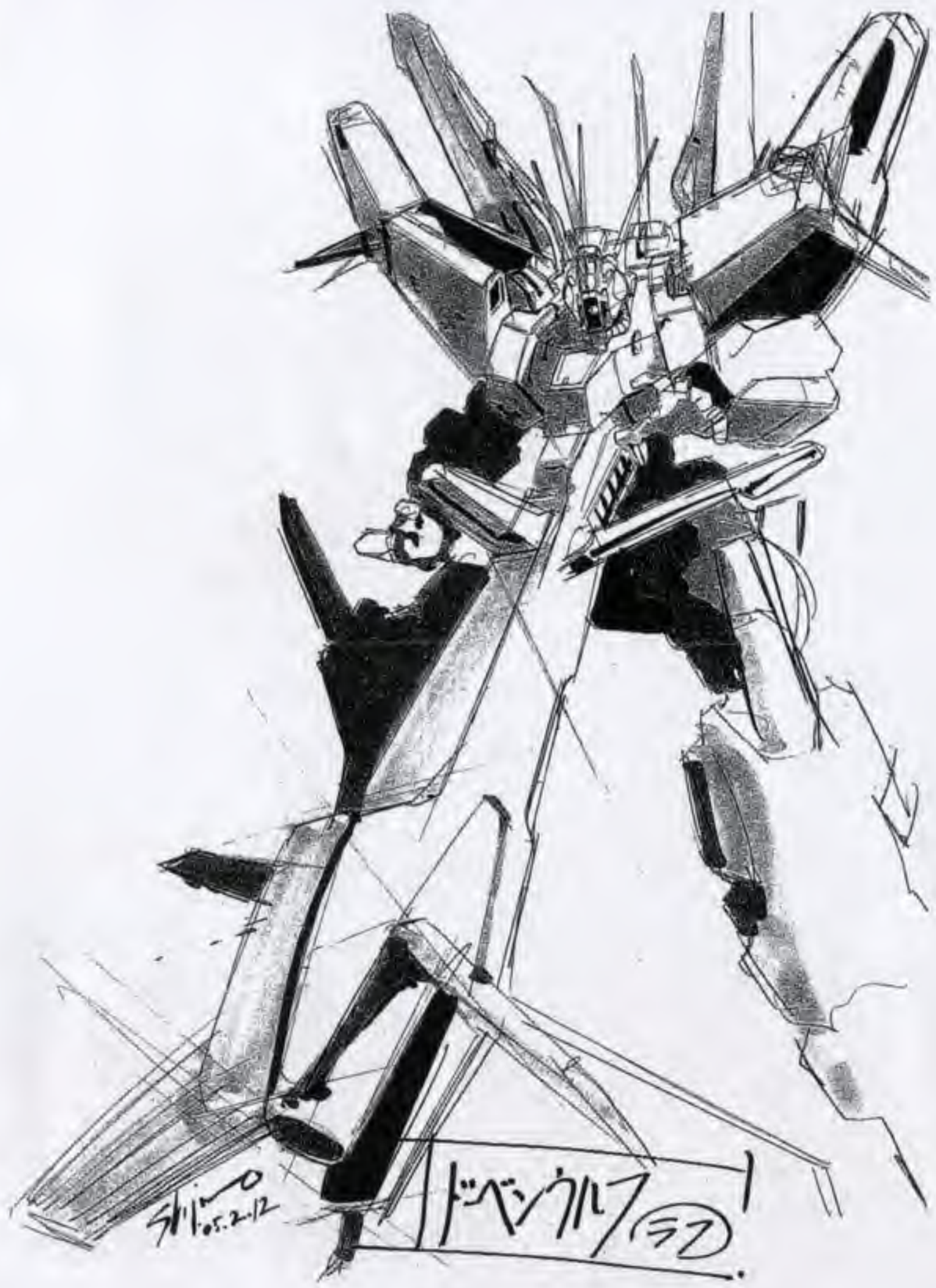
p.176-177

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 143 号
登場作品：『機動戦士ガンダム SEED
C.E.73 – STARGAZER –』
イラスト：阿部邦博

MUSYA
GUNDAM

p.178-179

初出：週刊ガンダム・ファクトファイル第 148 号
登場作品：『EVOLVE../14（頭駄無 異歩流武 ../ 十四）
武者頭駄無』
CG イラスト：大川 威



ラフ画：萩 雅律

GUNDAM FACT FILE
MECHANIC ILLUSTRATIONS Vol.02

ガンダム・ファクトファイル　メカニックイラストレーションズ Vol.2

2014 年 2 月 18 日発行　初版第 1 刷発行
発行所／株式会社デアゴスティーニ・ジャパン
〒 104-6205 ／東京都中央区晴海 1-8-12　トリトンオフィスタワー Z
発行人／小河原和世
プロダクトマネージャー／川口晋吾
アートディレクター／今福健司
©2014 KK DeAgostini Japan All Rights Reserved.

監　　修／株式会社サンライズ
編集協力・デザイン／ MEGALOMANIA
製　　版／株式会社大丸グラフィックス
印　　刷／図書印刷株式会社
© 創通・サンライズ

※本誌は 2004 年 9 月 21 日より 2007 年 9 月 4 日まで刊行していた『週刊 ガンダム・ファクトファイル』の一部を再編集したものです。
※お客様サポートセンター（本誌関連の一般的な質問を承ります）TEL.0570-008-109（月～金　10：00 ～ 18：00　土日祝日除く）
※ お客様受注センター 0120-300-851（9：00 ～ 21：00　年末年始を除く）
『ガンダム・ファクトファイル　メカニックイラストレーションズ』は、最寄りの書店でご注文ください。なお、書店に在庫がない場合には、直送（別途送料要、代引き）のご注文も承っております。上記お客様受注センターまでお問い合わせください。
本誌の記事・絵画等を無断で複写（コピー）、転載することを禁じます。乱丁、落丁はお取替えいたします。